

右之通、向々可被相達い。

四月○安永五年

十三日○安永五年四月

一、今五時一寸前御駕籠臺へ出御、御羽織。御座之間徳川民部卿殿、右御對顔有之。大廣間迄御見送。

松平肥後守○容 井伊掃部頭○直  
松平隱岐守○定 松平越前守○重

右之面々御目見有之。以後御黒書院出御。高家衆詰衆一同御目見。畢、帝鑑之間、布衣以上并以下共御目見有之。先達御書付之通罷出ル。

大納言様卯之刻御本丸に被爲成、辰之刻過還御之節、右之面々并西丸共出席之御目見、西丸還御以後、於西丸御囃子有之。但、御囃子三番目始、此節還御御先例之由。

老松	金剛太夫	權九郎次郎	長惣右衛門
羽衣	七太夫	權五郎兵衛	又左六郎吉
盛久	彌五郎	新三九太郎	又三郎
三輪	觀世太夫	清三郎右衛門	小源八郎助
自然居士	八左衛門	權三郎三郎	長藏
融	三十郎	權五郎九兵衛	庄兵衛

狂言小舞 庄右衛門。金七五藏。新三兵衛。

雁り金 傳 右衛門。土車 仁右衛門。

一、今朝御供老中若年寄夜八時登城。右京大夫○松平周防守○松平主殿頭○田沼御先○松平罷越、右近將監○松平

平武出羽守○水野御跡○水野罷越。

一、御座間御上段、公方様大納言様御着座。溜詰御目見。越前守上段。辰上刻御羽織御野袴之出御。御先立佐渡守。御刀新見大炊頭。月次御黒書院御目見之者如例。竹之御廊下御白書院御帳臺に被爲入、爲御見送、大廣間四之間迄大納言様出御。御兩卿方同様罷出、於御車寄御乘駕。大廣間布衣以上並居、堀重門内肥後守讚岐守越前守御目見。御留守之老中若年寄御側衆堀重御門外迄罷出、雁之間詰父子御玄關前、菊之間詰父子中御門迄出、三番頭百人御番所御譜代大名へ下乗橋前之御目見。御發駕以後、大納言様還御。

○中

十八日○安永五年四月○中略

一、左之書付、御目付本目隼人申聞い。來ル廿一日○安永五年四月日光○安永五年四月還御之節、御當日朝卯ノ刻より留切○安永五年四月得共、横町并御見通之場所々へ、出仕之面々計之承届、九時前迄ハ相通可申事。

殷昌期



一、御城内之儀を、王子瀧野川邊御幕長持見の附人參り、御玄關前内櫻田御門通往來相留事。  
一、御當日當番詰番之面々、大手御門通り御登城過迄の相通申上。退散之者、内櫻田御門通り罷歸事。

右之通、爲御心得申達。以上。

四月 ○安永五年

松浦與次郎  
本目隼人

廿日 ○安永五年

一、明廿一日 ○安永五年四月。九時、大納言様西之御縁を被爲入由。

一、加納遠江守相渡の書付

一、廿一日 ○安永五年四月。朝六時、御城中町人并人足等人不苦事。

一、廿一日 ○安永五年四月。朝の御臺所御料理出事。

右之段向々の可申達。

四月 ○安永五年

廿一日 ○安永五年四月

一、卯下刻過岩槻城出御、川口御休所、錫杖寺の渡御。大納言様を爲御迎參上。未中刻過江戸御城の還御。先達を御書付之通御譜代大名其外登城、於席々御目見。

一、大納言様御本丸の九時之御供揃の被爲入、未下刻歸御。

○書入

一、御先立佐渡守。御刀一色鞆負佐。御黒書院御下段迄大納言様御出迎。供奉之面々、大廣間四之間南御縁頼通り二行之列居御目見、御發駕之節之如し。肥後守讚岐守越前守御祝儀、表向出仕之面々。

廿二日 ○安永五年四月

一、昨日 ○安永五年四月廿一日。御機嫌能還御之付、今日 ○安永五年四月廿二日。兩御殿の惣出仕有之、於席々、老中調。

廿三日 ○安永五年四月

公方様、  
大納言様二種、  
公方様、  
大納言様二種、  
大納言様、  
三種二荷。

御使  
松平右近將監  
同  
阿部豊後守

右之日光御社參相濟の二付、爲御祝儀被進之。○中略

一、左之御書付、松平右近將監被相渡。

國持并萬石以上嫡子共、高家、御留守居、諸番頭、諸物頭、布衣以上御役人。

右今度日光御社參首尾能相濟爲御祝儀、來ル廿五日 ○安永五年四月。五半時登城の様可被達。尤熨斗目拾半

袴可爲着用。

四月 ○安永五年

廿四日 ○安永五年四月○中略

日光寺歸寺二付、熨勞御使

御使六角越前守  
日光  
准  
后 ○公澄  
法親王。

般 昌 期

七四五



右之明廿五日 ○安永五年四月 御登城御對顔可被遊旨、被仰遣之。

同同人

新

宮 ○公璋法親王

廿五日 ○安永五年四月

一、於御座之間、日光御社參御用精入相勤ハニ付、於御前被下物、

御刀 青江長次代金三十枚。

御社參御用首折 時服七。

日光廿日御名代歸。

松平右近將監  
水野出羽守  
太田備後守

右御目見

日光御門跡、同新宮、紀伊中納言殿御對顔。

溜詰、松平越前守并日光御供所々勤番火之番大名、御用掛り御役人。

右於御座之間御目見、上意有之。

一、巳中刻御黒書院ハ公方様大納言様出御、國持大名、其外萬石以上、同嫡子共、御留守居諸番頭諸物頭布衣以上之御役人登城御目見。

一、右同斷爲御祝儀、御三家方ハ以使者、三種二荷宛被差上之、於躑躅之間、佐渡守調。

一、右同斷之付、萬石以上之面々ハ以使者、御樽肴獻上、於殿上之間、御奏者番家來目錄請取之。

廿七日 ○安永五年四月 燒火之間

二種一荷。

壹種一荷。

日光准后使僧 龍院  
同新宮使僧 人

右之日光御社參相濟ハ爲御祝儀被差上之、右近將監調之。

廿八日 ○安永五年四月 中略。

日光御用仕廻罷歸ハ。

御普請奉行 久松 筑前守  
御目付 村上 三十郎 ○中略

右御目見相濟

廿七日 ○安永五年六月

日光御用掛り相勤ハ面々、御褒美被下之。

芙蓉之間

時ふく五。

金五枚ッ、  
時ふく三。

彈正少弼御作事奉行兼相勤ハ付別段金三枚時ふく二被下之。

寺社奉行 太田 備後守 ○資  
大目付 正木 志摩守 ○康  
御勘定奉行 石谷 豊前守 ○清  
名代 太田 播磨守  
安藤 彈正少弼 ○惟  
御普請奉行 久松 筑前守 ○定

殷昌期

七四七



御目付

河野吉十郎安

村上三十郎正

御勘定吟味役 伊奈半左衛門忠

御勘定吟味役 辻源五郎盛

御小性組 戸田但馬守組

長谷川半四郎

小林權十郎

橋本猶五郎

同淺野備前守組 渡邊半右衛門

櫻井忠右衛門

同小堀河内守組 戸田市郎兵衛

柴田藤三郎

瀧川久助

同水野河内守組 高井兵部少輔組預

松平三郎次郎

同人組 和田八郎

金五枚。時ふく三。羽折。  
金五枚。時ふく三。

右老中列座、右近將監申渡之。

躑躅之間

時服三ツ、日光御社參之節、歩行御供相勤ハニ付。

時ふく二。

同三。

同三ツ、

同三ツ、

同二。

同二ツ、

同三。

同三ツ、

金貳枚ツ、

日光御社參御用懸相勤ハニ付。

金貳枚ツ、

同斷ニ付被下旨。

殷昌期

御書院番澁谷隠岐守組北條安房守組預

大久保甚五左衛門

名代 加藤忠左衛門

太田駿河守組永井美濃守組預

今福權兵衛

西郷筑前守組齊藤伊豆守組預

土屋内膳

大岡主水組

花村三郎兵衛

中西右膳

同斷

中根求馬

新見彦兵衛

石野荒之助

松平作五郎

井上左京

朝倉仁左衛門

御勘定組頭

根岸九郎左衛門

倉橋與四郎

益田新助

金澤安太郎

御代官 久保田十左衛門

飯塚伊兵衛

遠藤兵右衛門



金二枚。

金壹枚ツ。

漆奉行

阿久澤專右衛門

漆崎清右衛門

御奉行  
小知三右衛門

御勘定  
田口五郎左衛門

御勘定  
永田藤助

御奉行  
水谷祖右衛門

御奉行  
鈴木市十郎

御奉行  
小柳七十郎

御奉行  
重本爲右衛門

御奉行  
伊藤金十郎

御奉行  
名代費田善八郎

御奉行  
支配勘定  
市野七十郎

御奉行  
瀧又右衛門

金貳枚。

金壹枚ツ。

金十兩。

銀七枚ツ。

同改役

田中喜作

松江十次郎

金壹枚。

日光御社參歩行  
御供相勤ハニ付。

金壹枚ツ。

日光御社參歩行  
御供相勤ハニ付。

金壹枚ツ。

同斷ニ付。

戸田久次郎組御鷹匠

服部源之助

山本彌三郎

内山七兵衛組御鷹匠

出口左源太

青木喜十郎

御徒假役

濱田三次郎

中山忠助

上川文五郎

中島勝之丞

勘定役

渡來新兵衛

福田宇兵衛

同内山七兵衛組組頭

松岡九郎

御見組頭  
福島八左衛門

花井庄三郎

原田善藏

村松惣七郎

水上鐵藏

昌岡嘉平太

江見新三郎

杉山惠助

星野郡次郎

山田富次郎

石川多次郎

大棟梁並  
石丸定六

御奉行  
伊阿彌駿河

右之日光御用懸り相勤ハニ付被下之旨、水野出羽守申渡之。  
土圭之間

同三枚。

同七枚。

同七枚。



金三枚。  
時ふく二。

金貳枚。 奥御右筆勤役之節。

金貳枚ツ。

金貳枚。

同壹枚。

同壹枚。

右同斷御用掛り相勤いニ付被下之旨、被仰渡。

新部屋

金貳枚。

右日光御社參御供中御目通うおゐり、格別骨折相勤いニ付、以思召被下之旨、稻葉越中守申渡也。

柳營日次記

一、三月廿七日○安永五年日光御社參御供行列、一ツ橋外明地之揃、夫より九段上り、田安御門前通り、一番

町御堀端より、半藏御門の入、上覽所前の竹橋の出也。

一、公方様大納言様四時之御供揃のゑ、吹上上覽所の被爲成、日光御道中御供行列上覽有之也。

一、種姫君様御部屋様五時之御供揃のゑ、御同所の被爲入、御行列御覽被成也。

一、右ニ付老中若年寄御側衆、各吹上の被相越也。

一、同年○安永五年三月廿九日、日光御留守中百人組御番所御門番被仰付の面々

松平和泉守

松平大和守

柳澤式部少輔

同斷出火之節御用被仰付、諸事板倉佐渡守差圖を請可相勤也。

内藤伊賀守

松平淡路守

牧野備前守

戸澤能登守

間部下總守

所々勤番之覺

芝口。

寄合五千石 柳 獻 吉

元柳原新橋。

同五千貳百石 久永 松 五 郎

安祥院殿御屋形火之番。

同五千石 松平 侶 之 丞

水道橋。

同三千石 土屋 富 三 郎

赤坂喰違。

同五千石 巨勢 鐵 五 郎

芝土橋。

同五千石 土井 豐 松

右之通被仰付之。

一、四月五日○安永五年今巳后刻公方様大納言様御黒書院の出御、水戸宰相殿御登城、御對顔有之、且又御留

殷 昌 期



守罷在御譜代大名、其外菊之間縁頼詰、并御門番勤之大名、勤番之寄合、布衣以上之御役人御目見有之、畢入御以後、御白書院御老中御出席右御留守罷在御面々、御法令條目讀聞有之、表御右筆組頭玉置半助讀之。

但、尾張中納言殿、紀伊中納言殿、尾張中將殿、御所勞二付、登城無之。

一、同○安永五年四月。十三日快晴。卯后刻將軍家治公日光御社參御發駕。

一、御留守中板倉佐渡守殿定泊り、若年寄酒井石見守殿加納遠江守殿隔日泊り也。

一、御留守中御臺所御料理相止、勤番之諸役人辨當也。其外人足類入不申。御城中御普請相休、御物靜、江戸中横町々々木戸いし、晝夜町方番所二大勢詰、夜中ハ橋木二の送り、時廻り繁々、嚴敷事也。

同○安永五年四月。廿一日晴天。午后刻還御被遊。

一、同○安永五年四月。廿二日物出仕有之。

一、同○安永五年四月。廿三日

三種一荷。

公方様より大納言様の被遣之。御社參相濟御祝儀なり。

三種二荷。

右同斷之付大納言様より公方様の被進之。

一、右同斷之付御三卿方にも御取遣有之事。

一、同○安永五年四月。廿五日

御使  
松平右近將監

御使  
阿部豊後守

御刀備中國青江番次  
代金三十枚

時服十一七

御老中  
松平右近將監  
若年寄  
水野出羽守

右日光御用相勤之付、於御前拜領之。

日光 准后 同 新 宮

右日光御社參相濟之付御對顔。

紀伊中納言殿 水戸宰相殿

右同斷之付御對顔。

一、右同斷之付、溜詰松平越前守初、并日光御供、所々勤番、火之番之大名、御用懸り、布衣以上之御役人御目見。

一、巳中刻御黒書院の公方様大納言様出御、國持大名其外萬石以上之嫡子、高家、御留守居、諸物頭、布衣以上之御役人御目見。

一、右同斷之付、爲御祝儀、御三家加賀守の使者を以、三種三荷宛被差上之、并御部屋様にも被差上之。

一、右同斷之付、萬石以上之面々御樽肴被差上之。

一、同○安永五年五月。十三日今度日光御社參相濟爲御祝儀、御三家初諸大名登城、御能見物、御料理被下之。

一、五月十八日○安永五年。日光准后同新宮増上寺其外登城、御能見物、御料理被下之。

一、同○安永五年五月。十九日略。



一、此度日光御社參相濟ハ爲御祝儀、今日〇安永五年五月十九日御能、高家御留守居諸番頭諸物頭布衣以上之御役人、并御目見以上之役人、寄合諸御番儒者醫師登城、西丸共、但、於席々、御料理被下ハ。

一、五月廿一日〇安永五年此度日光御社參相濟ハ爲御祝儀、就御能被仰付、高家御留守居諸番頭諸物頭布衣以上御役人、并御目見以上之役人、寄合諸御番儒者醫師、一昨十九日〇安永五年五月不被出分登城、於席々御料理被下ハ之。

一、同〇安永五年六月廿九日

時服二。

儒者 林 百助

右之日光御社參相濟ハ之付、詩文差上ハ之付、於奥被下ハ之。

時服二ツ。

儒者 人見七之助 評定所勤役儒者 深尾權左衛門

右同斷之付、於御右筆部屋御縁類被下ハ之。

林 宇兵衛 深尾權太夫

——續談海

日光御社參御留守中、川筋御船手ハ船役之義、江戸問屋ハ判鑑取置、引合相改通ハ之事。

一、近國之獵船押送り船五大力并江戸廻り之茶船帶舟之儀ハ、晝夜共之出入ハ故、御舟手ハ前方木札之判鑑渡し置、挑灯之印致遣し、見合通ハ之事。

一、手負繩付并武具之類、不相通ハ之事。

一、出家并女前髪有之者、其支配ハ手形取通ハ之事。

右之趣得其意、委細之儀ハ、御船手相談、支配所ハ可被相觸ハ。以上。

二月〇安永五年

——撰要永久錄

附記  
海福寺  
修理勸化

〔附記〕 海福寺修理勸化

廿三日〇安永五年五月〇中略

一、左之御書付、松平右近將監〇武元被相渡之。

黄檗宗觸頭 深 海 川 福 寺

右之本堂修復并方丈庫裏其外再建爲助力、御府内武家方社町方并武藏一國勸化御免被成下ハ。御府内武家方社町中ハ、當申年〇安永五年六月より同年〇安永五年十一月迄相廻り、可致勸化ハ。其節在方〇安永五年、同年〇安永五年十二月より來ル〇安永七年、正月迄の内、役僧共寺社奉行之連印之勸化狀持參、御料私領寺社領在町可致巡行ハ間、志之輩ハ、物之多少之よらハ可致寄進ハ旨、御料之御代官、私領之領主地頭より可被申渡ハ。

申〇安永五年五月

右之通相觸ハ間、可被得其意ハ。

——柳營日次記

安永五申年五月松平右近將監〇武元御渡ハ御書付

〔町奉行

大目付ハ。

殷 昌 期

七五七



黄檗宗觸頭深川海福寺

右本堂修復并方丈庫裏其外再建爲助力、○中略。上文ニ同シ。

安永六酉年十一月○柳登日次記「廿日」。松平右近將監殿御渡ハ御書付

一町奉行

大目付ハ。

黄檗宗觸頭深川海福寺

右本堂修復并方丈庫裏其外再建爲助力、去申年○安永五年。御府内武家方社町方并武藏一國勸化御免被成

下、御府内武家方社町中ハ之、去六月○安永五年。同ハ同年○安永五年。十一月迄相廻り、其外在方ハ之、同年○安永五年。十

二月ハ來戌年○安永七年。正月迄之内、役僧共可ハ巡行處、先住民山當三月○安永六年。病死ハ之付、在方ハ之ハ不致巡

行ハ之間、在方ハ之分當十二月○安永六年。來亥年○安永八年。正月迄之内、役僧共社奉行連印之勸化狀持參、御料

私領寺社領在町可ハ致巡行ハ之間、志之輩ハ之、物之多少ハ之ハ可寄進ハ旨、御料ハ之御代官、私領ハ之領主地

頭より可ハ被申渡ハ。

西○安永六年。十二月

右之通可ハ被相觸ハ。

○柳登日次記同。

——明和撰要集

町名改正

五月晦日庚子

○安永五年（紀元二四三六年）○庚子、三正綜覽。

深川代地町

○市内深川區。

ノ町名ヲ改メテ、深川元町代地ト

市街地異動

稱ス。外ニ是年○安永五年（紀元二四三六年）。市街地ニ異動若干ヲ見ル。

○明和撰要集。文政町方書上。府内備考。寛政呈請。天明撰要集。御朱印拜領地寺社帳。

町名改正事

町名改正 深川代地町ヲ深川元町代地ト改稱ス。

安永五申年五月晦日松平右近將監殿○武元。御直ニ上ル。

深川代地町町名改度願之儀之付申上ハ書付

書面伺之通り、深川元町代地ト町名相改ハ様可ハ申付旨、被仰渡ハ。奉畏ハ。

〔牧野大隅守

申○安永五年。六月五日

町奉行

深川代地町月行事

徳兵衛

五人組

勘兵衛

名主

忠右衛門

右之者共相願ハ之、町内之儀ハ之、深川元町代地之御座ハ處、本所法恩寺前深川代地町と唱來、同所ニ六間

堀地町有之、御用之節元町代地と相改度旨願出ハ。

右之通相願申ハ之付、吟味仕ハ處、相障ハ之儀無御座ハ之間、願之通深川元町代地ハ爲唱可ハ申ハ哉、別紙

例書相添奉伺ハ。以上。

申○安永五年。五月

安永五申年五月晦日松平右近將監殿ハ御直上ル。

殷昌期



眞砂町

右之淺草大圓寺上ヶ地と唱來い處、同所大圓寺門前町と町名唱違、度々間違も有之難儀仕い間、大圓寺上ヶ地を眞砂町と町名相改申度旨、明和五子年町役人共願出、右京大夫殿に伺之上町名相改申い。

申  
五年○安永

五月

深川代地町月行事  
德兵衛  
五人組  
勘兵衛  
名主忠右衛門頼三付代  
彦兵衛

其方共願出い、町内之儀と、深川元町代地之い處、本所法恩寺前深川代地と唱來、同所之六間堀代地町有之、度々間違、難儀致しい間、以來深川元町代地と町名改度旨、願出い付、相糺い處、右之通町名相改いも相障い儀も無之付、願之通申付い間、其旨相心得可申い。尤證文申付ル。

六月六日  
五年○安永

——明和撰要集

深川元町代地

一、右町起立と、元地起立同様、古之武州葛飾郡西葛西領之内之、委細元町より申上い通、元祿十五年松平遠江守様御用地被召上、爲代地當時之場所本所法恩寺前并東之方同所柳島村續都合三ヶ所之代地被下置い儀之御座い。○中略右代地之場所、元之武州葛飾郡柳島村地先萱野之内、元祿九子年中中堂御普請

之節、松平薩摩守様御手傳御普請有之い砌、右御小屋場御取建有之い場所之、同○元十一寅年御普請御出來御小屋場御引拂之相成い跡之内、當時之場所三ヶ所之代地被下置、町名本所法恩寺前深川代地町と相唱い處、近邊所々代地多ク度々間違い付、以來深川元町代地と相唱申度、安永五申年中牧野大隅守様○成御番所々奉願、願之通被御付い後、深川元町代地と相唱申い。

但、正徳三巳年五月丹羽遠江守様○長松野壹岐守様○勤坪内能登守様○定御勤役中、町方御支配之相成申い。  
——府内備考

市街地異動

元飯田町

市街地異動 深川代地町ノ外、安永五年中市街ニ異動ヲ見タル者ヲ舉グ。  
元飯田町 町屋鋪領受者有リ。

尙恭  
○初仲太郎。玄仲法眼。  
○數原。

同年  
五年○安永

——寛政呈譜

願之通町屋敷於元飯田町被下置。  
麴町山本町 町屋鋪添地受領者有リ。  
安永五申年

坂 幽 玄

拜領町屋敷  
麴町山本町百五拾坪  
同所隣平井舍人上ヶ地  
百四拾八坪餘添地

都合貳百九拾八坪餘

願之通町屋鋪添地被下い。町奉行可被談い。

殷 昌 期

——天明撰要集



湊町

湊町 町屋鋪受領者有リ。

湊町 ○中略

一、町屋敷拜領人名前左之通、○節

一、同 ○百坪

表御坊主 郡 司 利 清

右前書同様、○寶永六廿年松平美濃守御屋敷御取掛相成跡 小川春陸拜領致し處、安永五申年十二月中先代相對替致し。

——府内備考

本芝四町目

本芝四町目 築立新地高入ト成ル。

本芝四町目 ○中略

一、築立新地

右松平豊後守様 ○龜兒島島津氏 御買入抱屋鋪裏地先海上寄洲之場所、新地築立、御年貢地之仕度段、伊奈半左衛門

様御役所、安永五申年十二月中御願之、新地築立御高入之相成申し。尤町並沽券地之、之無之。

——府内備考

芝田町一町目

芝田町一町目 築立新地高入ト爲ル。

芝田町一町目 ○芝田町一町目

一、築立新地

右松平豊後守様御買入町並屋敷裏之方地先海手寄洲之場所之、反別貳反壹畝九步新規築立、御年貢地

之仕、家作建足し仕度段、本芝材木町家持三郎左衛門御代官伊奈半左衛門様御役所、奉願、安永五申年十

二月右願之通り被仰付、御高入之相成、此高貳石壹斗三升二有之。

前書新地之儀、家作仕上之、兩御支配之相成得共、地方願濟之節、町方御届不仕し。尤芝金杉町

之も先例有之、之付、此度右之準取計仕し。

松 平 豊 後 守

一、抱屋鋪并築立地共三千六百四拾七坪八合。

右之右御屋敷之御買入之相成、御年貢並積金町入用等、町並相勤、尤町人假名代本芝材木町家持三郎左

——府内備考

衛門之申者之御座し。

上高輪町

上高輪町 海岸寄洲ヲ年貢地トス。

上高輪町 ○中略

一、上高輪町之内芝田町壹町目東側松平豊後守様御所持町並屋敷裏之方地先海岸寄洲之内反別貳反壹畝九

歩之場所、安永五申年同町家持三郎左衛門御年貢地之仕、家作致度段、御代官伊奈半左衛門様御役所、

奉願し、願之通被仰付、同人所持屋敷之相成、家作相建申し。右場所當時豊後守様御所持屋敷之内、

御圍込之相成申し。右願濟之節町御奉行所御訴不申上し。 ——文政町方書上

湯島天神下寶性院門前 安永五年起立スト云フ。

湯島天神下寶性院門前

一、當町之儀之、往古之武刃豊嶋郡峽田領湯嶋郷之内之由申傳し。

一、町銘起立之儀之、地主寶性院於當所正徳年中寺社御奉行黒田豊後守様 附カ 之拜借地之御願申上し所、願

殷 昌 期

湯島天神  
下寶性院  
門前



之通被仰付い二付、安永四未年同御奉行松平伊賀守様拾ヶ年季町屋相建申度段初奉願上い所、同  
○安永五申年五月中願之通被仰付、夫天明五巳年松平右京亮様二る猶亦拾ヶ年季御聞濟之相成、寛政七  
卯年同御奉行所之右同斷、文化二丑年堀田豊前守様二る右同斷、文政八酉年太田攝津守様二る右同斷  
御願濟之相成、當時年限中之御座い。依之湯鳴天神下寶性院門前と相唱申い。

一、右門前之儀も、古來妻戀稻荷之社當所之有之、其後年月相分り不申い得共、右稻荷當時之場引  
ケ地之相成、右二付元妻戀とも里俗之相唱申い趣之申傳い。

一、當町之西之方之當り三拾間餘も隔い場所、西丸御書院番大久保豊後守様御組松平市右衛門様御屋敷  
門南之方之、古來之齋藤別當實盛之塚申傳い高四尺程大キサ七尺程之塚有之、小竹生茂り居い由風聞承  
りい。尤當町持合之場之無之い得共、寂寄舊跡之儀之付此段書加申い。

一、妻戀橋と申橋近邊之有之い様風聞も有之い得共、一向相知不申、尤當町之大關伊豫守様御屋敷間  
之有之い石橋を妻戀橋と相唱い儀も難計い得共、申傳も更之無御座い。外之寂寄之橋等無御座い。

——文政町方書上

神谷町

神谷町 町屋鋪領受者有り。

神谷町 ○中略

一、拜領町屋鋪名前左之通、○節

六拾七坪五合三勺

右之元御中間方拜領大繩屋敷之殘地有之い處、年月不知、二之丸火之番作田平右衛門拜領被致い處、子

小普請 伊達 本覺

淺川町

淺川町 町屋鋪受領者有り。

淺川町 ○青山略

一、町屋敷拜領人名前、左之通、○節

一、四拾貳坪五合九勺四才

右ハ元御下男滑川次左衛門拜領屋敷二御座い所、右倅文次郎出奔之付上り地之相成い跡、年月不知羽根田

五郎助組黒鉄西村久兵衛拜領仕、其後安永五申年當地主先代引替之致、拜領仕い。——府内備考

大松寺門前 起立。

拜領地 芝青松寺末  
境内千百拾七坪。 曹洞宗 大草 松 寺

右相願い、明和九辰年類焼いたしい處、貧寺之再建難叶自力、爲助成、境内表門左右竹垣いたし  
三尺引込、南之方入口三ヶ所明、梁間貳間半、桁行六間半、北之方入口四ヶ所明、梁間貳間半、桁行九  
間、いづれも前通り三尺之庇附、後通り壹間之下家附、二階屋瓦葺作事いたし、惣長屋之裏へ引附、三間  
通り藏地相添、當申年○安永五年より來る午年○天明六年迄申年拾年季貸家いたし度旨願出い二付、遂吟味、隣寺  
并之所之ものへも相尋い處、障儀無之旨書付差出い二付、願之通り申付、尤町家之間敷見世商等不爲致、  
紛敷もの差置申間敷、年季明いハ勿論、年季之内たりとも家作取崩しハ可相届旨、大松寺へ證文申  
付、寺社方帳面張紙仕い旨、土岐美濃守○定より印形之斷手紙を以て申越い。依之安永五丙申年十一月廿



四日申上、御帳面張紙仕仕。

御朱印拜領地寺社帳

大松寺門前

一、右門前地所之儀也、本寺青松寺八代目之僧、天正元酉年寺地建立ニシテ、明曆三丁酉年迄馬喰町邊ニ有之、同年<sup>三〇明曆</sup>類焼仕、右地所御用地ニ相成、當所<sup>三〇明曆</sup>替地拜領仕仕。門前町屋之儀ハ、安永五申年寺社御奉行土岐美濃守様<sup>經〇定</sup>御勤役中、門前町屋拾年季ヲ以奉願上、御差免有之、御願濟新門前町屋ニ有之也。

- 一、右門前町屋片側、同寺表門左右。
- 一、此邊淺草田原町と申也。

右門前町屋東向側、淺草田原町貳丁目町屋ニ有之の間、同様ニ號申來也。

——府内備考

〔附記〕 屋鋪受授

圖略

小川町雉子橋外 中島庄藏上ケ地 坪數三百四拾貳坪。

東	松平田宮。	西	中島久右衛門。
南	道。	北	原田十兵衛。

東	貳拾壹間。	西	貳拾壹間三尺。
南	十六間八寸。	北	十六間八寸。

小川町雉子橋外中島庄藏上ケ地、先年私屋鋪之内、右庄藏<sup>〇証</sup>相渡り申所、此度願之通右地面御返し被下置、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定枕之通、相違無御座奉請取也。爲後日仍如件。

附記  
屋鋪受授

中島正勝

安永五丙申年六月廿五日

御留守居番中島久右衛門<sup>〇証</sup>内  
大田八左衛門<sup>〇証</sup>印

御普請方下奉行  
贊田善八殿

同改役  
西井安太夫殿

——屋鋪渡預繪圖證文

安永五丙申年

御留守居

- 一、六月廿五日渡。中島庄藏上ケ地
- 一、小川町雉子橋外三百四拾貳坪

但、右地面先年自分屋敷内ニシテ、庄藏<sup>〇証</sup>相渡り所、今度上り<sup>〇証</sup>付相返。

——屋敷書拔

七月九日戊寅

〇安永五年紀元二四三  
六年〇戊寅、三正綜覽

屋鋪ヲ相對替スル者有リ。屋鋪受授ノ是月<sup>〇安永五年</sup>  
(紀元二四三)

ニ於テセル者此外若干。

〇相對替御書附書拔。寛政呈請  
屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。

屋鋪受授 安永五年七月屋鋪ヲ受授スルコト、左ノ如シ。

安永五申年七月九日

周防守殿<sup>〇松平</sup>貞阿彌を以御下ケ、但馬守<sup>〇清山</sup>成存、請取。

御普請奉行也。

安部次郎兵衛拜領屋敷  
大塚青柳町四百七拾坪餘

御小性組大久保能登守組  
山本 大膳<sup>〇雅倫</sup>に

岡野孫一郎拜領屋敷  
永田町五百六拾坪

同同人組  
安部次郎兵衛に

拜領添屋敷  
本所三ツ目千坪

股昌期

七六七

屋鋪受授

屋鋪受授事蹟

山本雅倫

安部次郎兵衛



岡野融輕

山本大膳拜領屋敷  
駿河臺九百七拾坪

新家廣孝

大田垣左太夫拜領屋敷  
小石川白山御殿跡貳百坪

大田垣道

新家與五左衛門拜領屋敷  
市ヶ谷御門内三番町貳百八拾五坪

赤井直壽

小川長左衛門拜領屋敷  
目白關口四百坪

小川忠清

赤井新八郎拜領屋敷  
愛宕下神保小路七百五拾坪之内四百四拾坪餘

荒井保國

石川彦五郎拜領屋敷  
牛込高田五百坪

石川成壽

荒井十兵衛拜領屋敷  
牛込富士見馬場四百坪

松井忠好

布施豐次郎拜領屋敷  
小石川築地馬場五百坪餘

布施政房

松井作之丞拜領屋敷  
牛込末寺町貳百七拾坪

右願之通屋敷相對替被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>間、得其意、例之通可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>致<sub>レ</sub>也。  
安永五申年七月十六日

主殿頭殿○田沼 貞阿彌を以御下ケ、筑前守請取。

西丸御小性組森川下總守組  
岡野孫○融輕郎○廣孝

西丸御小性組朽木和泉守組  
新家與五左衛門○廣孝

支配勘定  
大田垣左太夫○道顯

御書院番永井美濃守組  
赤井新八郎○直壽

大御番松平石見守組  
小川長左衛門○忠清

西丸御書院番小堀下總守組  
荒井十兵衛○保國

小普請組戸川山城守支配  
石川彦五郎○成壽

小十人久野伊兵衛組  
松井作之丞○忠好

小普請組石川土佐守支配  
布施豐次郎○政房

京極高文

池田喜八郎拜領屋敷  
麻布鳥居坂三百七拾坪

山村良救

京極壹岐守拜領下屋敷  
白金魚籃下貳千七百坪之内三百七拾坪

池田季庸

山村清三郎拜領屋敷  
麻布市兵衛町中之町五百坪餘之内貳百八拾坪餘

右願之通屋敷相對替被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>間、得其意、例之通可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>致<sub>レ</sub>也。

雅倫幼名丑之助。大膳。○山本。

安永五丙申年七月九日私拜領屋敷駿河臺○、西丸御書院番森川下總守組岡野孫一郎、永田町岡野孫一郎屋敷○相對替奉<sub>レ</sub>願、同○安永五申年七月九日願之通被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>也。

融輕始明慶。初大三郎。岡野孫一郎。

安永四未年十二月廿三日森川下總守組之節、永田町拜領屋敷○御小性組松平市正組山本大膳駿河臺拜領屋敷○相對替奉<sub>レ</sub>願、同○安永五申年七月九日願之通被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>也。

保國藤之助。登。十兵衛。○荒井。

安永五丙申年七月九日拜領居屋敷牛込富士見馬場、石川彦五郎拜領屋敷牛込高田仲町牧野備後守上ケ地○相對替仕<sub>レ</sub>也。

良救初甚八郎。三郎兵衛。清三郎。隱居仕良哲。○山村。

御普請奉行○

池田喜八郎拜領屋敷  
麻布鳥居坂三百七拾坪

京極壹岐守拜領下屋敷  
白金魚籃下貳千七百坪之内三百七拾坪

山村清三郎拜領屋敷  
麻布市兵衛町中之町五百坪餘之内貳百八拾坪餘

京極壹岐守○高文に

小普請組岡野外記支配  
山村清三郎○良救に

御勘定奉行支配無役  
池田喜八郎○季庸に

——相對替御書附書拔



安永五丙申年麻布市兵衛町中ノ町拜領屋敷之内、切坪ニ御勘定奉行支配無役池田喜八郎、麻布烏居坂池田喜八郎拜領屋敷不殘柳之間京極壹岐守拜領屋敷之内切坪ニ、父清三郎、右屋敷三方相對替、願之通

同年○安永五年七月十六日被仰付旨、田沼主殿頭殿御書付を以被仰渡

高文○從五位下。壹岐守。幼名内膳。○京極。

安永五丙申年七月十六日麻布居屋鋪南隣池田喜八郎屋鋪三百七拾坪、私白銀新堀屋鋪之内三百七拾坪相對替、御届相整申

忠清○金澤。○小川。

安永五申年七月廿九日目白臺屋敷ト、愛宕下神保小路赤井新八郎屋敷ト相對替、願之通被仰付。

——寛政呈譜

圖略

本所三ツ目通 表六尺喜七上り地 七拾七坪。

東道。田中久七郎。北西 中村由右衛門。尾崎喜内。  
南北 各七間。同十壹間。

本所三ツ目通御掃除町喜七上り地、拙者に被成御預ケ、四方間數坪數、右繪圖之面、相違無御座、御預り申。爲後日仍如件。

安永五丙申年七月十九日

西丸御同朋頭支配表六尺 田中久七郎 音印

田中久七郎

御普請方改役 西井安太夫殿

——屋鋪渡預繪圖證文

安永五丙申年

七月十九日渡。喜七上り地 一、本所三ツ目御掃除町七拾九坪

西丸御同朋頭支配表六尺 田中久七郎 預地

(朱)文化四卯年二月五日永六郎左衛門に預替ル。

——屋敷書拔

附記

〔附記〕 處罰

九日 ○安永五年七月○中略。

一、左之通御仕置被仰付 申渡之覺

寄合醫師 細川宗仙

其方儀、去未○安永四年九月以來致出入ハ町人とも度々相集メ、御法度相背、かるを以めくりと申博突い、右之内四度手合ニ加り、并神谷平八郎留守之節、同人弟神谷彦兵衛寄合博突致見物、且猶も無之尾向平吉任相願、請合人茂不取置、手前ニ差置、右之者菅沼藤十郎方に被捕、同人方が問合有之砌、右躰之者差置ハるを如何と致思慮、長屋ニ差置ハ左仲事、堀内宗鎌に申合、右之者方ニ差置ハ積り爲申立、殊ニ右平八郎方ニ博突有之砌、平八郎ハ留守ニ有之ハ處、平八郎ハ博突致見物ハ由、魚忽成義申立、其上叔父平賀玄孝事松葉英俊儀、地守清左衛門方ニ罷在ハ義承リハ、可申立之處、母清智院取計、内々母て扶持方差遣ハ義不存分ニ致罷在ハ義とも、旁々御後閣儀之仕方、一々御醫師之身

殷昌期

七七一



分二有之間敷行跡、不届之至之也。依之遠嶋被仰付也。

小普請牧野傳藏支配  
神谷平八郎

其方儀、去七月以來、留守之節、弟神谷彦兵衛儀、町人喜兵衛任申旨、名住所不相知也者共四五度平八郎宅へ寄合、右之内兩度彦兵衛手合ニ加リ、御法度相背致博突儀不存罷在也段、畢竟平日申付る未熟也へ、右躰之義有之、不埒之至也。依之差控被仰付者也。

神谷平八郎弟  
神谷彦兵衛

町人喜兵衛任申旨、去未<sup>四年</sup>七月以來、度々名住所不相知者共 兄神谷平八郎留守之節宅へ相集、御法度相背、かるゝをめぐると申博突いさし、右之内兩度手合ニ加り也段、御後闇仕方不届之至也。依之遠嶋被仰付者也。

細川宗仙抱屋敷地守清左衛門方ニ居り元小普請市橋大膳支配之節致出奔<sup>平賀玄孝事</sup>松葉英俊

先年平賀玄純養子ニ罷成、家督致相續、小普請組市橋大膳支配之節致出奔、知人共方立廻り、細川宗仙抱屋敷地守清左衛門方ニ罷在、宗仙母清智院之内々頼頼、扶持方等賞請儀處、右扶持米相滯、宿清左衛門致難儀、當三月<sup>五年</sup>相刃鎌倉<sup>五年</sup>罷越也途中ニ、清左衛門義英俊川中ニ突落逃去儀ニ付、駈込吟味願出儀、有躰之不申立、清左衛門ニ衣類被剝取、雜物并金子等被奪取<sup>由取拵</sup>、偽之儀申立儀共、元御醫師之身分ニ不届之至也。依之重追放被仰付也者也。  
右於評定所、小野日向守<sup>一</sup>、牧野大隅守<sup>成</sup>、本目隼人<sup>彰</sup>立合、日向守大隅守申渡之。

東叡山中堂  
其他修理

十七日丙戌<sup>安永五年(紀元二四三六年)七月○丙戌、三正綜覽</sup> 幕府東叡山中堂<sup>○市内下谷區</sup> 其他ヲ修理シ、勘定奉行新見

正榮<sup>○加賀守</sup> 作事奉行伊藤忠勸<sup>○志摩守</sup> 目付丸毛政良<sup>○一學</sup> 勘定吟味役上遠野興古<sup>○源太郎</sup> ヲ用

掛トス。八月二日辛丑<sup>安永五年(紀元二四三六年)○辛丑、三正綜覽</sup> 屬吏ヲ任命シ、廿三日壬戌<sup>安永五年(紀元二四三六年)八月○壬戌、</sup>

<sup>三正綜覽</sup> 高知<sup>○土佐國</sup> 城主山内豊雍<sup>○松平土佐守</sup> ヲシテ役ヲ助ケシム。十月二日庚子<sup>安永五年(紀元二四三六年)○庚子、</sup>

<sup>三正綜覽</sup> 勘定奉行安藤惟要<sup>○彈正少弼</sup> 用掛ト爲リ、十一月七日辛亥<sup>安永五年(紀元二四三六年)○辛亥、三正綜覽</sup> ニモ掛

員ノ任命有リ。六年丁酉<sup>安永○紀元二四三七年</sup> 正月十二日己卯<sup>○己卯、三正綜覽</sup> 作事奉行松下昭永<sup>○隠岐守</sup>

亦用掛ト爲ル。三月十四日庚辰<sup>安永六年(紀元二四三七年)○庚辰、三正綜覽</sup> 工成リ、十九日乙酉<sup>安永六年(紀元二四三七年)三月○乙酉、</sup>

<sup>西、三正綜覽</sup> 廿九日乙未<sup>安永六年(紀元二四三七年)三月○乙未、三正綜覽</sup> 及七月九日壬申<sup>安永六年(紀元二四三七年)○壬申、三正綜覽</sup> 行賞ス。<sup>○柳營日記</sup>

續談海。後明院殿御實紀。武江年表。寛政重修諸家譜。

東叡山中堂其他修理 願末左ノ如シ。

十七日<sup>○安永五年三月○中略</sup>

芙蓉之間

御勘定奉行 新見 加賀 守<sup>○正榮</sup> 御作事奉行 伊藤 志 摩 守<sup>○忠勸</sup>

殷 昌 期

東叡山中堂  
其他修理事



御目付 丸毛一學○政良 御勘定吟味役 上遠野源太郎○興古

七七四

右之上野中堂其他諸堂社御修復御用掛り被仰付いひ旨、老中列座、佐渡守○板倉勝清申渡之。

二日 ○安永五年八月○中略

御右筆部屋縁頼

御勘定組頭 根岸九郎左衛門 御勘定吟味方改役 廣瀬伊八 御勘定 石川與左衛門 勝屋彦兵衛

御大工頭 各務傳之丞 御作事下奉行 荻原彌五兵衛 千種庄兵衛 小櫛七十郎

重本爲右衛門 支配勘定 市野七十郎 御吟味方改役並 佐野伊兵衛 同見習 野口辰之助

右之上野中堂并諸堂社御修復御用被仰付、右近將監○松平武元申渡之。

廿三日 ○安永五年八月

波之間

松平土佐守○豊維

右之上野中堂其外諸堂社御修復御手傳被仰付いひ旨、老中列座、右近將監○松平武元申渡之。

二日 ○安永五年十月○中略

同席○芙蓉之間

御勘定奉行 安藤彈正少弼○權要

右之上野中堂諸堂社御修復御用懸り被仰付いひ旨、同人○松平輝高申渡ス。

七日 ○安永五年十一月

御右筆部屋縁頼

御勘定組頭 小櫛七十郎

右之上野中堂其外諸堂社御修復御用掛り被仰付いひ旨、右近將監申渡之。

十二日 ○安永六年正月○中略

芙蓉之間

御作事奉行 松下隱岐守

右之上野諸堂社御修復御用懸被仰付いひ旨、老中列座、右近將監申渡之。

十四日 ○安永六年三月

燒火之間

日光准后使僧 院 御札。 卷物五。 昆布一箱。

右之上野中堂御修復出來正遷座相濟、御供養相濟いひ旨之付、被差上之、謁右近將監。

十九日 ○安永六年三月○中略

殷昌期

七七五



東叡山中堂并諸堂社御修復御手傳仕廻い。  
御勝手より

東叡山中堂并諸堂社御修復仕廻い。

松平土佐守

御勘定奉行

安藤彈正少弼

御作奉行

松下隱岐守

御目付

丸毛一學

御勘定吟味役

上遠野源太郎

御勘定吟味役

御白書院縁類  
時ふく三十。

松平土佐守

右之東叡山中堂并諸堂社御修復御手傳相勤いニ付被下旨、老中列座、右京大夫申渡之。

○書入

一、東叡山中堂山王正遷宮ニ付、日光准后の御使高家前田隱岐守、以銀百枚時服十被進之。

廿九日 ○安永六年三月○中略。

檜之間

銀五十枚。  
時ふく五羽折。

惣奉行 松平土佐守家來  
深尾内匠

同三拾枚。

同四羽折。

銀貳拾枚。

時服三羽折。

添奉行 山内勘兵衛

留守居 關彦右衛門

仙石伊太夫

名代 川田半右衛門

同。

同。

同。

同。

同。

同。

同。

目付 馬淵庄八

普請奉行 三浦勘左衛門

目付 美濃部貞右衛門

元ノ役 鹿田又五郎

普請奉行 川田半右衛門

宮井左内

元ノ役 寺村千助

右之上野中堂其外諸堂社御修復御手傳御用相勤いニ付被下旨、右近將監申渡之。

九日 ○安永六年七月。

芙蓉之間

金三枚。

時ふく二。

金五枚。

同三。

時ふく三。

金五枚。

時ふく二。

金五枚。

時服二。

御作事奉行勤役中相勤ニ付

御勘定吟味役相勤い節ニ付

御勘定吟味役相勤い節ニ付

御勘定吟味役相勤い節ニ付

殷昌期

民部卿殿家老

伊藤志摩守

御勘定奉行

安藤彈正少弼

御作事奉行

松下隱岐守

御目付

丸毛一學

拂方御納戸頭

上遠野源太郎



右之上野中堂并諸堂社御修復御用相勤ハニ付被下旨、老中列座、佐渡守申渡之。

御右筆部屋縁頬

金三枚。

同貳枚。

御勘定相勤ハ節ニ付

銀七枚。

御材木石奉行相勤ハ節ニ付

同十枚。

同。

金貳枚。

同。

同。別段七枚。

同。

銀十五枚。

同。

同。

同。

御勘定組頭

小櫛 七十郎

名代 土山宗次郎

同 勝屋彦兵衛

同 豐田金右衛門

御壘奉行 石川與左衛門

漆奉行 神戶治太夫

吟味方改役 廣瀬伊八郎

御勘定 各務傳之丞

同 荻原彌五兵衛

御大工頭 千種庄兵衛

吟味方改役並 佐野伊兵衛

同 大貫次右衛門

支配勘定 市野茂右衛門

同 瀧 又右衛門

同。

御普請役相勤ハ節ニ付

同。

同斷。

同。

右同斷之旨、右近將監申渡之。

躑躅之間

金貳枚。別段銀七枚。

同。

燒火之間

銀十枚。同五枚。

銀十枚。別段五枚。

同。

同。

同。

銀十枚ツ、。

殷 昌 期

同

同 荻野伴右衛門

同 高橋小兵衛

同見習 野口辰之助

御作事奉行 重本為右衛門

同 長沼專右衛門

御徒目付 兒嶋平右衛門

御徒目付 川田安右衛門

三宅權七郎

杉浦助次郎

南條助七郎

山本貞右衛門

松原左介

竹村七左衛門

御披官

宮城彌市郎

丸橋又右衛門



馬場助左衛門

御徒假役

昌岡嘉平太

同七枚。

竹内半十郎

同。別段三枚。

牧定五郎

同。

安西次兵衛

同。

金澤彌十郎

同。

戸田善五郎

同五枚。

御疊方御徒假役

中島與九郎

同五枚ツ、。

勘定役

渡來新兵衛

市川彦次郎

同五枚ツ、。

村田政右衛門

石川多次郎

同五枚ツ、。

青木團七

同見習 村上兵藏

同五枚ツ、。

狩野良信

同 春仙

同五枚ツ、。

繪師 柳慶

大棟梁並 石丸定六

右同斷之旨、酒井石見守申渡之。

一、同○安永六年三月。

卷物入。昆布一箱。

日光准后使者

雲院

柳營日記

右之此度中堂御修復出來、正遷座相濟ハ爲御禮、被差上之、於燒火之間、調右近將監殿。

一、同○安永六年三月。御黒書院

時服三十。

東叡山中堂并諸堂社御修復御手傳仕廻ハ

松平土佐守

御勝手より

東叡山中堂并諸堂社御修復御用仕廻ハ

御勘定奉行

安藤彈正少弼

御作事奉行

松下隱岐守

御目付

丸毛一學

御勘定吟味役

上遠野源太郎

右御目見

銀百枚。時服十。

御使前田隱岐守

日光准后

右之此度東叡山中堂正遷座御供養且山王正遷宮相濟ハ之付、被遺之。

日光准后使僧

等覺院

右同斷被遺之、爲御禮被差上之、於土圭之間次、御側衆津田日向守調之。

一、同○安永六年三月○中略。

銀五十枚。時服五。羽織。

松平土佐守家來

内匠

同三十枚。同斷。

御奉行

深尾内匠

般昌期

添奉行

山内勘兵衛



銀貳十枚  
時服三、羽折宛。

留守居	關	彦右衛門	仙石伊太夫
目付	美濃部貞右衛門	馬淵庄八	名代川田半右衛門
普請奉行	三浦勘右衛門	川田半右衛門	
宮	井左内		
元々役	麻田文五郎	寺村千助	

右に東叡山中堂并諸堂社御修覆御手傳相濟ひ之付被下之旨、於檜之間、右近將監殿被仰渡之。

——續談海

十七日 ○安永五年三月○中略 勘定奉行新見加賀守正榮・作事奉行伊藤志摩守忠勸・目付丸毛一學政良・勘定吟味役上遠

野源太郎興古に、東叡山中堂其他諸堂社修理命せらる。

廿三日 ○安永五年八月 松平土佐守豊雅に、東叡山中堂その他の堂社修理助役を命せらる。

二日 ○安永五年十月 勘定奉行安藤彈正少弼惟要に、東叡山中堂および諸堂社修理をつかさどるへしと命せらる。

十二日 ○安永六年正月○中略 作事奉行松下隱岐守昭永は、寛永寺修理の事奉はり、○下略

十四日 ○安永六年三月 東叡山根本中堂修理なりしかは、准后公遵法親王より、凌雲院大僧正順則を拜して謝せら

れ、符籙巻物昆布を進らせらる。

十九日 ○安永六年三月○中略 この日さきに東叡山根本中堂及諸堂の修理人夫いだしたる松平土佐守豊雅拜謁し、時服

三十を賜ふ。○中略 勘定奉行安藤彈正少弼惟要・作事奉行松下隱岐守昭永・目付丸毛一學政良・勘定吟味役上

遠野源太郎興古、東叡山の修理成功せしをもて、拜謁を給はる。おかし事により、根本中堂山王權現の祠正遷座ありしにより、准后公遵法親王のもとに、高家前田隱岐守清長御使して、銀百枚時服十ををくらすらる。

廿九日 ○安永六年三月○中略 東叡山中堂その他の神祠佛堂修理人夫出したる松平土佐守豊雅か家人等に、銀時服羽折たまふ事差あり。

九日 ○安永六年七月 勘定奉行安藤彈正少弼惟要金五枚時服三、作事奉行松下隱岐守昭永時服三、目付丸毛一學政良金五枚時服二賜はり、寛永寺根本中堂をはじめ堂社修理を褒せられ、所屬のともからみな賜物差あり。

一橋家老伊藤志摩守忠勸金三枚時服三、拂方納戸頭上遠野源太郎興古も金五枚時服二たまふ。これは先職にありしほどこの事にあづかりしかば共に褒せられしなり。

——浚明院殿御實紀

九月十三日 ○安永五年 東叡山瑠璃殿並諸堂御修復新始。

六年 ○安永六年三月 三月十九日東叡山中堂及び諸堂社の修理をたすけしにより、時服三十領を賜ひ、二十九日 ○安永六年三月

——寛政重修諸家譜

八月十七日庚戌 ○安永五年(紀元二四三六年)○庚戌、三正綜覽 屋鋪受領者有り。是月 ○安永五年(紀元二四三六年)八月 外二屋鋪受授

若干。 ○寛政呈譜。屋鋪渡預繪圖證文。柳營日次記。相對替御書附書拔。子爵丹羽家回答。子爵松平家回答。

屋鋪受授 安永五年八月受授スル所ニ、屋鋪若干有り。

屋鋪受授



盛員 幼名勝之助。主馬。善兵衛。能登守。伊豫守。

同年 ○安永五年。 八月十七日屋敷手挾之付添地築地細川宗仙上地三百坪、願之通被下置旨、板倉佐渡守 ○勝清。 被仰渡之。

——寛政呈譜

川中龍樋  
普請置場

築地組合川中龍樋普請諸式置場 竹矢來。

東北 道。西南 道。  
東南 道。西北 川。  
東北 西南 各三間。  
東南 西北 同十間。

築地組合上水川中龍樋普請之付、諸式置場竹矢來地面被成御渡之、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取之。爲後日仍如件。

安永五丙申年八月廿二日

畠山織部内  
天津 理兵衛印  
堀田式部内  
園田 忠兵衛印

御普請方下奉行  
贊田 善八殿  
同改役  
西井 安太夫殿

圖略

淺草元鳥越 組合橋普請小屋場。

橋普請小  
屋場

東西 川。中央 橋。  
南 小屋場。北 小屋場。

淺草元鳥越組合橋掛直普請仕之付、小屋場地地面被遊御渡之、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取之。爲後日仍如件。

安永五申年八月廿四日

池田信濃守内  
坂手 善兵衛印  
津田越中守内  
落合 大右衛門印  
河合 半右衛門印

御普請方下奉行  
贊田 善八殿  
同改役  
西井 安太夫殿

——屋鋪渡預繪圖證文

廿三日 ○安永五年八月○中略。

南八丁堀丹羽加賀守藏屋敷貳千四百八拾五坪、外向河岸四十坪。  
芝新網町松平右近將監下屋敷三千四百十五坪餘。

松平 右近將監印  
○武元。  
丹羽 加賀守印  
○長貴。

右願之通屋敷相對替被仰付之旨相濟。

——柳營日次記

安永五申八月廿三日

松周防守殿 ○康福。 被成御渡之御書付、今日立合寄合之付、登城不致以間、大目付土屋遠江守御城爲持被越之。但馬守請取。

御普請奉行

殷 昌 期

松平武元  
丹羽長貴



丹羽加賀守拜領藏屋敷  
南八町堀貳千四百八拾五坪

松平右近將監に

外ニ向河岸四拾坪。

松平右近將監拜領下屋敷  
芝新網町三千四百拾五坪餘

丹羽加賀守に  
相對替御書附書拔

右願之通屋敷相對替被仰付に間、例之通可被致し。

一、八丁堀邸略中

安永五年丙申八月三日

御書附書拔廿三日

松平右近將監武元朝臣之芝新網屋敷三千四百十五坪と當處二千四百

八十五坪外向河岸四十坪と御取替、御願之通被仰付といふ。

子爵丹羽家回答

一、芝新網町

相對替寶曆十二年閏四月九日

同安永五年八月十三日

御書附書拔廿三日

松平家々譜ニ依レハ、寶曆十二年閏四月九日相對替ニテ、永井伊賀守屋敷松平右近將監屋敷トナルトアリ。

安永五年八月十三日相對替丹羽加賀守屋敷トナル。

一、南八丁堀

相對替安永五年八月十三日

同天保五年八月六日。

松平家々譜ニ依レハ、安永五年八月十三日丹羽加賀守屋敷松平右近將監屋敷トナルトアリ。

天保五年八月六日朽木縫殿助森雲悦大井新左衛門屋敷トナル。

子爵松平家回答田澤

寛政呈譜左ノ如ク見ユ。姑ク附記ス。

佐橋佳孝

住孝左源太。初大橋。

安永五年八月六日跡目屋鋪表大番町。四ツ谷。拜領仕儀、年月日相知不申。

屋鋪受授

九月朔日己巳安永五年(紀元二四三六年)己巳、三正綜覽。

屋鋪添地ヲ受授ス。外ニ是月

安永五年(紀元二四三六年)九月。

若干屋鋪

ノ受授有リ。

屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。寛政呈譜。相對替御書附書拔。

屋鋪受授

安永五年九月受授スル所、左ノ各屋鋪也。

圖略。

鐵炮洲築地

桑原能登守盛添地

坪數三百坪。

東道。西 贊楠五郎。

南 十九間三尺。北 十八間三尺餘。

鐵炮洲築地細川宗仙上り地、今度願之通能登守添地拜領仕、被遊御渡之、四方間數坪數、略中奉請取。爲後日仍如件。

安永五丙申年九月朔日

御勘定奉行桑原能登守内  
皆 藤 牧 太印

般 昌 期

七八七

屋鋪受授事

桑原盛員



御普請方下奉行  
贊田善八殿  
同改役  
宮崎段七郎殿

青山但馬守渡之。

圖略。享和元年十一月廿七日小普請組  
野添路守組渡邊角左衛門預ケ置。

赤坂今井谷 下里久米之助上ケ地 五拾三坪。

東南 明地睡なとど。 荒木十兵衛。  
西南 渡邊權之助。 進藤五郎右衛門。  
東北 荒木十兵衛。  
東南 西北 進藤五郎右衛門。  
東北 西南 進藤五郎右衛門。  
東北 西南 進藤五郎右衛門。  
東北 西南 進藤五郎右衛門。

赤坂今井谷三軒家下里久米之助上ケ地、拙者に被成御預、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

安永五丙申年九月四日

小普請組奥田美濃守組  
渡邊權之助 消印

御普請方改役  
宮崎段七郎殿

圖略。

白金今里村 青木攝五郎上ケ地 坪數九拾坪餘。

東南 道。 松平讚岐守。  
西南 松平讚岐守。  
池田軍次郎。  
東南 十六間三尺餘。 西北 五間貳尺餘。  
西南 十六間餘。 東北 十五間。

大番組屋

白金今里村青木攝五郎上ケ地、大御番一纏組屋鋪之内に御座に付、御請取、直に右組に御差戻被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永五丙申年九月六日

大御番頭永井伊豫守與力  
佐藤常右衛門 印  
秋山嘉藤 治印

御普請方改役  
小出大助殿

圖略。

麻布飯倉 細川宗仙上り地 坪數貳百坪。

東北 織田主馬。 道。  
西南 安見藤藏。  
東南 道。 安見藤藏。  
西南 安見藤藏。  
東北 道。 安見藤藏。  
西南 安見藤藏。

織田信錦

麻布飯倉細川宗仙上り地、織田主馬に被遊御預ケ、四方間數坪數、右御繪圖之通り、相違無御座奉預。爲後日仍如件。

安永五丙申年九月十一日

表高家織田主馬内  
山田源次郎 消印

御普請方改役  
宮崎段七郎殿

圖略。

木挽町汐留橋際 川内潜り柱修復。

九組掛り上水木挽町汐留橋際川内潜り柱修復之付、切并竹矢來場所、被遊御渡之、四方間數、右御繪

殷昌期

七八九

樋修復場



圖之面、御定杭之通り、相違無御座奉請取<sub>レ</sub>。爲後日仍如件。  
安永五申年九月十六日

脇坂淡路守家來  
田付太平次印  
小笠原彈正少彌家來  
岩城源藏印  
松平遠江守家來  
市河伊右衛門印

御普請方下奉行  
費田善八殿  
同改役  
西井安太夫殿

圖略○

本所南割下水近所 伊丹小市郎上ヶ地 坪數貳百四拾五坪。

東道。夏目次郎左衛門。  
南 鹽谷嘉内。北 向井岸之丞。  
東西 各九間五尺。  
南北 各貳十五間。

青山幸延  
本所南割下水近所伊丹小市郎上ヶ地、青山丹下<sub>○幸</sub>被遊御預ヶ、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座奉預<sub>レ</sub>。爲後日仍如件。

小普請組牧野傳藏支配青山丹下内  
神保郡次前印

——屋鋪渡預繪圖證文

安永五丙申年九月廿六日  
御普請方改役  
宮崎段七郎殿  
安永五丙申年

一、九月初日渡。細川宗仙上り地  
鐵炮洲築地三百坪

御勘定奉行  
桑原能登守

但、爲添地渡。

一、九月四日預。下里久米之助上ヶ地  
赤坂今井谷三軒家五拾三坪  
○一本抹消。

小普請組奥田美濃守組  
渡邊權之助  
——屋敷書拔

大塚友直

友直 <sub>○初圖書。又彌惣。</sub>

山角文右

安永五丙申年九月五日久留嶋信濃守組山角文右衛門屋敷麻布善福寺前と相對替奉願、同<sub>○安永五年。</sub>十二月廿六日死。  
——寛政呈譜

安永五申年九月廿五日  
佐渡守殿 <sub>○板倉勝清。</sub>順阿彌を以御下ヶ、筑前守 <sub>○久松定徳。</sub>請取。

御普請奉行<sub>レ</sub>。

橋本阿波守拜領屋敷  
神田橋外小川町四百五拾貳坪餘

御勘定奉行  
桑原能登守<sub>レ</sub>

濫江松軒拜領屋敷  
元飯田町五百坪

御持之頭  
橋本阿波守<sub>レ</sub>  
○忠正。

桑原能登守拜領添屋敷  
鐵炮洲築地三百坪

寄合醫師  
濫江松軒<sub>レ</sub>

右願之通屋敷相對替被仰付<sub>レ</sub>間、得其意、例之通可被致<sub>レ</sub>。

——相對替御書附書拔

〔附記〕 役金上納金取扱手續改正

附記  
役金上納  
金取扱手  
續改正

般昌期



廿五日 ○安永五年九月○中略。

水野出羽守 ○忠友。 渡之。

寄合御役金、向後御勘定奉行同吟味役取扱上納金之儀、後藤庄三郎役所の直之請取り筈也。依之役金肝煎御免被成間、以來上納方之儀、御勘定所の銘々家來呼出、納手形案文相渡、納日限等可相達間、金貳朱判并端銀之儀共之包不及、直之銘々より庄三郎役所の可被差出也。尤金銀上納之銘々宛所ニ御金役所、隱居家督病氣等之儀も、早速御勘定吟味役の可被相届也。  
右之趣寄合之面々可被相達也。

〔参考〕 柳營日次記ニ、

廿七日 ○安永五年九月。

御右筆部屋縁類

時ふくニツ、

御勘定吟味役

上遠野 源太郎

辻

源五郎

松本十郎兵衛

飯嶋惣左衛門

右之小普請金取集御用御免、只今迄骨折相勤の付被下之旨、老中列座、佐渡守 ○板倉勝清。 申渡之。

十月十三日辛亥

○安永五年(紀元二四三六年)○辛亥、三正綜覽。

屋鋪相對替有リ。外ニ屋鋪若干是月

○安永五年(紀元二四三六年)十月。

屋鋪受授

受授セラル。

○相對替御書附書拔。寛政呈譜。屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。柳營日次記。

屋鋪受授 若干屋鋪ヲ受授スル、安永五年十月ニ在リ。

屋鋪受授事

安永五申年十月十三日

右京大夫殿 ○松平輝高。 順阿彌を以御下ケ、筑前守 ○久松定徳。 請取。

御普請奉行也。

神保茂清

永井孫次郎拜領屋敷  
北本所小梅大川端九百坪

御留守居 神保和泉守 ○茂清。

永井尙珍

神保和泉守拜領下屋敷  
本所南割下水七百坪

小普請組神尾若狭守支配 永井孫次郎 ○尙珍。

佐野政親

原田勘兵衛拜領屋敷  
永田馬場南横町五百七拾五坪

西丸御目村 佐野與八郎 ○政親。

原田種殖

佐野與八郎拜領屋敷  
小日向服部坂上千五百坪

御小性組小堀河内守組 原田勘兵衛 ○種殖。

山崎正長

森本惣七拜領屋敷  
青山六軒町五百坪

御書院番北條安房守組 山崎藤左衛門 ○正長。

森本貞廣

山崎藤左衛門拜領屋敷  
深川新大橋向清住町四百五拾坪

大御番石川阿波守組 森本惣七 ○貞廣。

湯淺道直

岩佐子之吉拜領屋敷  
下谷仲町貳百七拾坪

戸田久次郎組御鷹匠 湯淺左平 ○道直。

岩佐茂高

岩佐左平拜領屋敷  
駒込百九拾五坪

小普請組奥田美濃守支配 岩佐子之吉 ○茂高。

殷昌期

七九三



松本十右  
川井久遠

川井源四郎拜領屋敷  
本所林町五丁目横町貳百八拾八坪  
松本十右衛門拜領屋敷  
四番町新屋鋪三百三拾六坪

同岡野外記支配  
松本十右衛門に  
支配勘定  
川井源四郎に  
○久遠

右願之通屋敷相對替被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>間、得其意、例之通可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>致<sub>レ</sub>い。

——相對替御書附書拔

茂清 幼權太郎。後左京。又兵庫。○神保。

同<sub>永</sub>○安 五丙申年十月十三日北本所小梅大川橋永井孫次郎屋鋪と、下屋敷相對替、願之通被<sub>レ</sub>仰付旨、板倉佐渡守殿被<sub>レ</sub>仰渡<sub>レ</sub>い。

松平正淳

正淳 初號正武。又正當。初名仙之助。又左京。又内藏助。又源太郎。又藤九郎。若狹守。○松平。

同<sub>永</sub>○安 五丙申年十月廿一日、願之通下屋敷被<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>段、於芙蓉之間、松平右京大夫殿被<sub>レ</sub>仰渡、同<sub>永</sub>○安 七戊戌年閏七月十九日願之通巢鴨通横町之<sub>レ</sub>下屋敷五百坪被<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>段、田沼主殿頭殿<sub>○</sub>意被<sub>レ</sub>仰渡、拜領仕<sub>レ</sub>い。

——寛政呈譜

圖<sub>○</sub>略。

小石川元御殿地跡 上野傳之助上ケ地 坪數貳百坪餘。

東南 岩澤八郎右衛門上ケ地、小島應助。西北 道。  
西南 道。

東南 十間貳尺、九間四尺。西北 十八間四尺。  
西南 六間五尺、八間二尺。東北 十四間三尺。

小石川元御殿地跡上野傳之助上ケ地、拙者<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>成御預ケ、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座御

預り申<sub>レ</sub>い。爲後日仍如<sub>レ</sub>件。

明屋鋪伊賀者

鈴木專太郎

安永五丙申年十月十四日  
御普請方改役  
小出大助殿

鈴木專太郎 印

此上ケ地安永七戊戌年八月十四日小嶋應助<sub>レ</sub>預ケ替ル。

圖<sub>○</sub>略。

小石川元御殿地跡 上野久米之助上ケ地 坪數四拾四坪餘。

東南 岩本市三郎。西北 鈴木平吉。  
東北 道。西南 上野治郎吉。

東南 九間五尺。  
西北 四間三尺。

小石川元御殿地跡上野久米之助上ケ地、拙者<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>成御預ケ、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座御預り申<sub>レ</sub>い。爲後日仍如<sub>レ</sub>件。

小普請組牧野傳藏組  
鈴木平吉 印

鈴木平吉

安永五申年十月十四日  
御普請方改役  
小出大助殿

圖<sub>○</sub>略。

芝三田 大久保能登守<sub>○</sub>和<sub>○</sub>教 拜借地 坪數百五拾七坪。

東 木戸門切道。西 松平土佐守。  
南 道。北 大久保能登守拜領屋鋪。

殷昌期

大久保教



東 六間。西 貳間。  
南 四十八間三尺。北 三十三間三尺、十五間。

此度拜借地共、都合千七百貳拾壹坪トアリ。

芝三田大久保能登守拜領屋敷手狭ニ付、裏之方メ切道之内、今度願之通拜借地被遊御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取<sub>レ</sub>。爲後日仍如件。

安永五丙申年十月廿二日

御普請方下奉行

伊藤金十郎殿

同改役

小出大助殿

御小性組番頭大久保能登守内

高橋冲右衛門印

久松筑前守渡之。

——屋鋪渡預繪圖證文

安永五丙申年

一、十月十四日預。上野桑之助上ケ地

一、小石川元御殿地跡四拾四坪餘

一、十月廿二日渡。自分屋敷表之方メ切道之内

一、芝三田百五拾七坪

小普請組牧野傳藏組

鈴木木平吉

預地。

大久保能登守

——屋敷書拔

但、屋敷手狭ニ付爲添地渡。

廿一日

○安永五年  
十月○中略。

芙蓉間

御留守居

松平若狭守

○正  
——柳營日次記

右之下屋敷被下<sub>レ</sub>ニ付、場所見立可相願旨、老中列座、右京大夫申渡之。

附記  
淺草米廩  
修理

〔附記〕 淺草米廩修理

廿二日

○安永五年  
十月○中略。

御右筆部屋縁類

銀五枚ツ。

御勘定吟味方改役

加藤佐市郎

同改役見習

大岡源右衛門

右之淺草御藏御修復御用相勤<sub>レ</sub>ニ付被下<sub>レ</sub>之旨、右近將監

○松平  
武元。

申渡之。

——柳營日次記

十一月朔日己巳

○安永五年(紀元二四三  
六年)○己巳、三正綜覽。

屋鋪預有リ。外ニ若干屋鋪ヲ是月受授ス。○屋鋪渡預  
繪圖證文。

屋敷  
書拔。

屋鋪受授 安永五年十一月左之屋鋪ヲ受授ス。

圖○

四谷内藤宿 山本十郎左衛門上ケ地 坪數百八拾六坪餘。

東 道。御先手組屋鋪。  
南 山田里五郎。北 野道田。

東 十三間三尺。西 十貳間。  
南 十四間五尺。北 十四間三尺。

四谷内藤宿尾張殿上ケ地之内山本十郎左衛門殿上ケ地、中根日向守<sub>○正</sub>被遊御預、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座奉預<sub>レ</sub>。爲後日仍如件。

安永五丙申年十一月朔日

寄合中根日向守内

竹内衛守<sub>○正</sub>印

殷昌期

七九七

屋鋪受授

屋鋪受授事  
蹟

中根正均



御普請方改役  
小出大助殿

圖略○

小石川元御殿跡 田中長左衛門上ヶ地 坪數六拾坪。

東 加藤磯五郎、秋山次郎吉。  
南 道。 堀口善次郎。  
北 西 道。

東 五間三尺、貳間三尺餘。  
南 十壹間二尺。 北 西 九間壹尺。  
道の處四間三尺、加藤磯五郎之處七間貳尺。

小石川元御殿跡田中長右衛門上ヶ地、拙者に被成御預々、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

安永五申年十一月二日

御本丸御廣鋪御下男  
堀口善次郎 消印  
善九郎 印

酉(○安永六年)十一月廿五日消印。

堀口善次郎

中村政次郎

圖略○

小日向石切橋横町 中村政次郎屋鋪 坪數百坪。

東 道。  
南 森川虎之助。 北 西 下山甚兵衛。  
屋代戸右衛門。

東 各四間三尺餘。  
南 北 同貳十貳間。

小日向江戸通石切橋横町山崎縫殿助上ヶ地、今度願之通り拙者屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、

右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永五申年十一月七日

評定所書役  
中村政次郎 印

御普請方改役  
小出大助殿

圖略○

小日向 屋代戸右衛門屋鋪 坪數百坪。

東 道。  
南 中村政次郎。 北 西 武島左膳、下山甚兵衛。  
高田豐次郎。

東 各四間三尺。  
南 西 貳十貳間壹尺。 北 貳十貳間貳尺。

小日向江戸通石切橋横町山崎縫殿助上ヶ地、今度願之通り拙者屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永五申年十一月七日

評定所書役  
屋代戸右衛門 印

御普請方改役  
小出大助殿

圖略○

小日向 高田豐次郎屋鋪 坪數百坪。

東 道。  
南 屋代戸右衛門。 北 西 武島左膳。  
木村猶八郎。

東 各四間貳尺八寸。  
南 西 貳十貳間貳尺。 北 貳十貳間三尺。

殷昌期

高田豐次郎

屋代戸右



小日向江戸川通石切橋横町山崎縫殿助上ケ地、今度願之通り拙者屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申上。爲後日仍如件。

安永五申年十一月七日

評定所書役

高田豊次郎印

御普請方改役

小出大助殿

圖略○

小石川白山御殿跡 石野永七屋鋪 坪數百七坪。

東南 大竹政之丞。西北 大林與兵衛添地、遠藤平三郎。

西南 道。東北 道。各十九間貳尺。五間三尺。

小石川白山御殿跡秋山兵藏上ケ地、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申上。爲後日仍如件。

安永五申年十一月八日

御廣鋪伊賀者

石野永七印

御普請方改役

小出大助殿

圖略○

本所林町五町目 山田彌太郎屋鋪 坪數百貳拾五坪餘。

東 道。西 戸田庄右衛門。

南 高岩里七郎。北 明地。

山田彌太郎

石野永七

本所林町五町目中根金次郎上ケ地之内、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡被成之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申上。爲後日仍如件。

安永五申年十一月十日

御普請役

山田彌太郎印

御普請方改役

小出大助殿

圖略○

本所林町五町目 高岩里七郎屋鋪 坪數六拾八坪。

東 道。西 戸田庄右衛門。

南 道。北 山田彌太郎。

高岩里七郎

本所林町五町目中根金次郎上ケ地之内、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、○中請取申上。爲後日仍如件。

安永五申年十一月十日

御普請役下役

高岩里七郎印

御普請方改役

小出大助殿

圖略○

麻布櫻田町 大谷久右衛門引替屋鋪 坪數貳百五坪。

東南 内藤因幡守。西北 飯島定右衛門。

西南 道。東北 道。永預り地。東の角百性地。

大谷久右

殷昌期



麻布并橋唯今迄之屋鋪差上、麻布櫻田町大横町伏見同心小林傳四郎布施仙之助兩人上ケ地、今度願之通拙者屋鋪御引替拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

火之番組頭  
大谷 久右衛門印

安永五申年十一月十四日

御普請方改役  
宮崎段七郎殿

圖略○

大谷久右

麻布櫻田町 大谷久右衛門永預り地 坪數三十坪。

東南 内藤因幡守。 西北 飯島定右衛門。  
東北 大谷久右衛門。 西南 明地。

東南 三間。 西北 一間。 十間。 四尺。  
東北 十三間三尺餘。 西南 十間四尺。

麻布櫻田町大横町伏見同心小林傳四郎布施仙之助兩人上ケ地割残り、拙者に永御預ケ地ニ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

火之番組頭  
大谷 久右衛門印

安永五申年十一月十四日

御普請方改役  
宮崎段七郎殿

圖略○

本所綠町三丁目 猪飼五郎太夫上ケ地加納安之丞屋鋪 坪數百貳拾五坪。

東 割残り永預り地。 西 蓮見伴七。  
南 京極喜左衛門。 北 新道。

東 十五間三尺。 北 十間三尺。  
南 九間五尺餘。 西 八間四尺餘。

本所綠町三丁目猪飼五郎太夫上ケ地之内、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

御普請役  
加納 安之丞印

安永五申年十一月十五日

御普請方改役  
西井安太夫殿

圖略○

本所綠町三丁目 猪俣要右衛門屋鋪 坪數百貳拾五坪。

東 永山才助。 西 道。  
南 新道。 北 大久保又八郎。

東西 各十間三尺。  
南北 同拾間。

本所綠町三丁目猪飼五郎太夫上ケ地之内、今度願之通、拙者屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

御普請役元ノ猪俣要右衛門在出ニ付名代粹  
猪俣 吉兵衛印

安永五申年十一月十五日

御普請方改役  
西井安太夫殿

圖略○

本所綠町三丁目 上條幸十郎屋鋪 坪數百貳拾五坪。

殷 昌 期

猪俣要右

上條幸十郎



東 石川忠次郎。  
南 京極喜左衛門。  
北西 道。  
新道。  
東 各十貳間三尺。  
南 同十間。

本所綠町三丁目猪飼五郎太夫上ヶ地之内、今度願之通り拙者屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永五申年十一月十五日

御普請方改役  
西井安太夫殿

御普請役  
上條幸十郎印

圖略。

本所綠町三丁目 永山才助屋鋪 坪數百貳拾五坪。

東 神谷大助。  
南 新道。  
北西 猪俣要右衛門。  
大久保又八郎。  
東 各十貳間三尺。  
南 同十間。

本所綠町三丁目猪飼五郎太夫上ヶ地之内、今度願之通り拙者屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通り、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永五申年十一月十五日

御普請方改役  
西井安太夫殿

御普請役  
永山才助印

圖略。

神谷大助

本所綠町三丁目 神谷大助屋鋪 坪數百貳拾五坪。

東 堀縫殿。  
南 道。  
北西 永山才助。  
大久保又八郎。  
東 各十貳間三尺。  
南 同十間。

本所綠町三丁目猪飼五郎太夫上ヶ地之内、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永五申年十一月十五日

御普請方改役  
西井安太夫殿

御普請役  
神谷大助印

圖略。

本所綠町三丁目 石川忠次郎屋鋪 坪數七拾坪。

東 蓮見伴七。  
南 京極喜左衛門。  
北西 上條幸十郎。  
新道。  
東 各十貳間三尺。  
南 同五間三尺餘。

本所綠町三丁目猪飼五郎太夫上ヶ地、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永五申年十一月十五日

御普請方改役  
西井安太夫殿

御普請役下役  
石川忠次郎印

殷昌期

八〇五



蓮見伴七

圖略○

本所緑町三丁目 蓮見伴七屋鋪 坪數七拾坪。

東 加納安之丞。西 石川忠次郎。  
南 京極喜左衛門。北 新道。

東西 各十貳間三尺。  
南北 同五間三尺餘。

本所緑町三丁目猪飼五郎太夫上ケ地之内、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永五申年十一月十五日

御普請方改役  
西井安太夫殿

御普請役下役  
蓮見伴七印

圖略○

加納安之丞

本所緑町三丁目 加納安之丞預り地返け地 坪數六拾五坪。

東 今井喜四郎、垣見軍次郎。西 加納安之丞、京極喜右衛門。  
南 三島大助。北 堀縫殿。

東 十八間五尺。北 十五間三尺、三間。  
南 三間三尺。北 四間五尺餘。

本所緑町三丁目猪飼五郎太夫上ケ地割残り、拙者に永御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

安永五申年十一月十五日

御普請役  
加納安之丞印

御普請方改役  
西井安太夫殿

圖略○

大和田助次郎

四谷北寺町 大和田助次郎屋鋪 坪數八拾貳坪。

東北 大 sources 藏。  
東南 飯塚松五郎。西南 道。

東北 西南 各十間壹尺餘。西北 七間五尺。  
東南 八間壹尺。

四谷北寺町岩田長十郎上ケ地、今度願之通り拙者屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永五申年十一月十六日

明屋鋪番伊賀者  
大和田助次郎印

御普請方改役  
小出大助殿

圖略○

飯塚松五郎

四谷北寺町 飯塚松五郎屋鋪 坪數八拾貳坪。

東南 吉田造酒之助。西北 大和田助次郎。  
西南 道。東北 大 sources 藏。

東南 七間三尺。西北 七間五尺。  
西南 十間四尺餘。東北 十間四尺餘。

四谷北寺町岩田長十郎上ケ地、今度願之通り拙者屋鋪拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

殷昌期



安永五丙申年十一月十六日

明屋鋪番伊賀者  
飯塚松五郎印

御普請方改役  
小出大助殿

圖略○

青山藥研坂 伊東新五郎上ケ地 坪數百貳十五坪。

東 田中友八。  
南 割残りなどを御預り地。北西 井上武太夫。  
道。

東西 各十貳間餘。  
南北 同十間貳尺餘。

青山藥研坂伊東新五郎上ケ地、御先手組屋鋪大繩之内ニ御座ニ付、被成御請取、直ニ右組ニ被成御差戻、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永五丙申年十一月廿三日

御先手菅沼藤十郎組同心組頭  
伊東次郎右衛門印

御普請方改役  
宮崎段七郎殿

圖略○

牛込榎町 池田八郎兵衛上ケ地 坪數百八拾壹坪餘。

東南 坂田清兵衛。櫻井清五郎。  
東北 道。西南 鐵炮矢場。

東南 西北 三十三間。  
東北 西南 五間三尺。

牛込榎町池田八郎兵衛上ケ地、元御先手組屋鋪大繩之内ニ御座ニ付、御請取、直ニ右組ニ被成御差戻、

先手組屋

四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永五丙申年十一月廿五日

御先手淺井小右衛門組與力  
奥澤喜十郎印

御普請方改役  
西井安太夫殿

圖略○

青山 伊松彌左衛門上ケ地 百三拾坪。預り地共。

東 道。遠藤万三郎。  
南 小山清次郎。北西 岩上儀平太、山高七五郎。

東 五間貳尺。  
南 十壹間三尺、五間壹尺。北西 九間、十六間壹尺。

青山百人町末伊松彌左衛門上ケ地、岩上儀平太ニ被成御預ケ、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

安永五丙申年十一月廿九日

小普請組永井監物支配岩上儀平太家來  
福田富右衛門印

御普請方改役  
西井安太夫殿

——屋鋪渡預繪圖證文

安永五丙申年

十一月朔日預。山本十郎左衛門上ケ地  
一、内藤宿尾張殿上ケ地之内百八拾六坪餘

寄合  
中根日向守  
預地。

十月七日渡。山崎縫殿之助上ケ地之内  
一、小日向江戸川通石切橋横町百坪

評定所書役  
中村政次郎

殷昌期

八〇九

岩上儀平



- 同日渡。同斷
  - 一、同所百坪
  - 同日渡。同斷
  - 一、同所百坪
  - 十一月八日渡。秋山兵藏上ヶ地
  - 一、小石川白山御殿跡百七坪
  - 十一月十日渡。中根金次郎上ヶ地之内
  - 一、本所林町五丁目百貳拾五坪餘
  - 同日渡。同斷
  - 一、同所六拾八坪
  - 十一月十四日渡。伏見同心小林傳四郎布施仙之助上ヶ地
  - 一、麻布櫻田町大横町貳百五坪
  - 同日預。同斷割殘
  - 一、同所三拾坪
  - 十一月十五日渡。猪飼五郎太夫上ヶ地之内
  - 一、本所絲町三丁目百貳拾五坪
  - 同日渡。同斷
  - 一、同所百貳拾五坪
  - 同日渡。同斷
  - 一、同所百貳拾五坪
  - 十一月十五日渡。猪飼五郎太夫上ヶ地之内
  - 一、本所絲町三丁目百貳拾五坪
  - 同日渡。同斷
  - 一、同所百貳拾五坪
  - 同日渡。同斷
  - 一、同所七拾坪
  - 同日渡。同斷
  - 一、同所七拾坪
  - 同日渡。同斷
  - 一、同所七拾坪
- 同
  - 同
  - 同
  - 御廣敷伊賀者
  - 石野永七
  - 御普請役
  - 山田彌太郎
  - 御普請役下役
  - 高岩里七郎
  - 火之番組頭
  - 大谷久右衛門
  - 右
  - 同
  - 御普請役元
  - 猪俣要右衛門
  - 御普請役
  - 上條幸十郎
  - 同
  - 永山才助
  - 御普請役
  - 神谷大助
  - 同
  - 加納安之丞
  - 同下役
  - 石川忠次郎
  - 同
  - 蓮見伴七

附記、一  
盲人支配

- 同日渡。同斷割殘
- 一、同所六拾五坪
- 十一月十六日渡。岩田長十郎上ヶ地之内
- 一、四谷北寺町八拾貳坪
- 同日渡。同斷
- 一、同所八拾貳坪
- 十一月廿九日預。伊松彌左衛門上ヶ地
- 一、青山百人町百三拾坪
- 一本抹消。
- 文化六巳年八月八日池田孫七の渡。

〔附記、一〕 盲人支配

五日 ○安永五年十一月 ○中略。

左之通御書付、右近將監被相渡い。

都る百姓町人之悴、盲人二いる檢校仲ケ間之弟子之成、夫々之渡世修行政し、第一官位を心掛い管之處、近來檢校之弟子二不相成、琴三味線等針治導引を渡世之種こいし、或ハ仕官之身と相成、脇差杯を帶し小類之盲人多く相成い趣ニ相聞い。以來百姓町人之悴之盲人、琴三味線等針治導引を渡世ニ致し、又ハ武家の被抱いも、市中ニ住居いしもの勿論、主人之屋敷内ニ罷在いと、右家藝を以他所をも相稼いものハ、檢校之支配さるべき事。武家陪臣之悴之盲人二るも、市中ニ住居いし、琴三味線等針治導引を以渡世致し分り、是又檢校之支配さるべき事。

但、武家出生之盲人、他ハ被抱、市中ニ罷在いと共、稽古場を拵、弟子集杯致間敷、若弟子集致しハ、主人之方相斷、檢校之支配請へし。

御普請役  
加納安之丞  
永預地  
明屋敷番伊賀者  
大和田助次郎  
同  
飯塚松五郎  
小普請組永井監物支配  
岩上儀平太  
預地  
——屋敷書拔



一、百姓町人之悴、盲人之るを琴三味線等針治導引を以渡世不致、親之手前之罷在り而已之もの、并武家之被抱、主人之屋敷、又ハ主人之在所に引越、他所之稼も不致分り、制外せるへき事。

右之通可相守旨、不洩様可被相觸い。

十一月

○安永五年

九日

○安永六年

四月○中略

一、左之御書付、松平周防守○康相渡。

先達を相觸い通、百姓町人之悴、其外武家倍臣之悴之盲人共、檢校之支配可請もの、本所一ツ目惣録支配場之者も、銘々住所名前認め、右惣録へ相届可申い。勿論支配之成いとも、檢校之弟子ニ相成い義を相對次第之事い。

右之通可心得旨、可被相觸い。

——柳營日記

〔附記、二〕 用惡水川除訴訟取扱方

安永五年十一月十一日來ル。

用惡水川除等之出入取計方之義ニ付申上い書付

評一定所一 座

用惡水川除等之出入、御定之通、御料ハ御代官、私領ハ地頭家來呼出、熟談申渡、訴狀渡遣、不相濟段申出い節、訴狀取上、目安裏判を以、双方村方之もの共呼出相糺、多分ハ地所難決い故、地改之者差遣逐吟味、裁許仕い處、裁許後用水時節ニ至り、水掛等之義申出い類有之、難捨置い間、猶又地改之者遣、用水引取方番水等之義申渡い儀、前々より間々有之い。然共裁許過失と申こも無之、改之致し方

附記、二  
用惡水川  
除訴訟取  
扱方

不行届こも無御座いへ共、水行ハ理外にて、人力ニ不及義ニ御座い。然共何と敷寂初之糺不行届様ニ相聞い間、以來之取計ひ評議仕い處、御定之通熟談申渡、不相濟旨申出、訴狀取上、目安裏判を以、双方村方之者共呼出、相糺、難決いハ、猶又御代官手代地頭家來等呼出、論所ハ手代家來差遣、水掛等之目論見いゑし、三ヶ年又ハ五ヶ年と年季を極、水早損年之様子を相揉し、委細可申聞旨申渡、目安返答書并双方申口之書留等渡し遣、右揉しを爲致、委細申出い後、村方之者共吟味詰、裁許仕又ハ村方得心之上、濟口證文差出いハ、承届可申い。

一、右之内普請目論見出來不致段申出いハ、地改之者差遣、目論見請爲致い上、前ヶ條之通揉し爲致可申い。

〔朱〕伺之通相極りいハ、上旬頭書ハ定例之通揉し申渡置い間、相認、揉し之内年數相懸りい間、六ヶ月以上之御届ハ、申上間敷い。

右之通ニ取計ひいハ、裁許之極りを宜、無益之筋有御座間敷い間、此段奉伺い。以上。申月。申之通致評議い處、此節不及伺、出入有之度々、趣意を考、時宜隨い、或之。

定之通熟談申渡、不相調旨申出い節、双方地頭家來并訴訟方呼出、地頭家來場所を罷越、相手村方にも爲申聞、水掛り等見届、目論見致し、三年五ヶ年も相揉し、水早損年之様子を相考、委細申聞い様、於評定所申渡、目論見を不調旨申出い節、目安裏判差出、双方吟味之上、地改差遣、目論見普請致しい上、又々揉し可申渡い。



又り、

熟談不相調旨申出は、訴訟取上、目安裏判差出、双方糺之上、地改差遣し、目論見普請爲致  
以上、揉し可申渡は、左は、上旬頭書の載は間、六ヶ月以上二至は、年季揉し申渡置は間、  
六ヶ月以上御届は不申上は間、朱書を入可申は。

右之通時宜之隨ひ取計は、内濟致しは儀も有之、輕々相濟出入も可有之旨、評議之上、相極は  
莫。  
——明和撰要集

屋鋪受授

十二月十三日辛亥

○安永五年(紀元二四三六年)○辛亥、三正綜覽。

藏屋鋪揚場其外ノ受授有り。外ニ是月

○安永五年(紀元二四

三六年)十二月)屋鋪ヲ受授スル者若干。

○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。相對替御書附書拔。寛政呈譜。

屋鋪受授事蹟

屋鋪受授 安永五年十二月若干屋鋪ヲ受授ス。

圖略○

丹羽長貴

芝新網町 丹羽加賀守 ○長貴 藏屋鋪揚ケ場并海手石垣外波除杭地所。揚ケ場。

東海。丹羽加賀守。北西。丹羽加賀守。同。上。

東西。各二間。南北。同五尺。

同處船留杭。揚場左手海中九尺ノ處。

波除杭。東南ノ角。石垣角と此杭迄出四間半。

船留杭。同處石垣ヨリ此間九尺。九本。各此間九尺宛。

芝新網町丹羽加賀守藏屋鋪、今度願之通揚ケ場并海手石垣外波除杭地所被遊御渡之、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通り、相違無御座奉請取は。爲後日仍如件。

安永五丙申年十二月十三日

丹羽加賀守内 平嶋 藤 馬印

御普請方下奉行 伊藤 金十郎殿

同改役 小出 大助殿

圖略○

橋普請小屋場

築地 三之橋掛直小屋場。

東道。北西。川、三之橋。南道。

東西。各五間餘。南北。同二十六間。

築地三之橋掛直し組合普請ニ付、小屋場地而被遊御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取は。爲後日仍如件。

安永五丙申年十二月十五日

稻葉丹後守内 蛭田九郎左衛門印

御普請方下奉行 伊藤 金十郎殿

同改役 宮崎 段七郎殿

圖略○

股 昌 期



小日向臺新屋鋪 折原榮次郎引替上ケ地 坪數四拾坪。

東 道。石川嘉右衛門。今村文右衛門。  
南 道。木村久作。

東北 各八間。  
西北 同五間。

小日向臺新屋鋪折原榮次郎引替上ケ地、拙者に被成御預ケ、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

御賄六尺頭  
佐藤澤右衛門 印

佐藤澤右

安永五申年十二月十五日

御普請方改役  
田中喜作殿

圖略○

青山千駄ヶ谷 表六尺佐兵衛引替上ケ地 坪數五拾坪餘。

東西 十間餘。  
南北 五間餘。

青山千駄ヶ谷寂光寺門前御賄組屋敷之内、表六尺佐兵衛引替上ケ地、拙者に被成御預、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

御賄方  
吉田惣右衛門 印

吉田惣右

安永五申年十二月廿一日

御普請方改役  
宮崎段七郎殿

圖略○

此上ケ地翌酉(○安永六年)正月廿六日御賄方に差戻相濟。

奥山治郎  
右

權田原 奥山治郎右衛門屋鋪 坪數八拾七坪。

東 道。小川十次郎、淺井六次郎。  
南 吉田孫兵衛。北 丸橋文右衛門。

東西 各六間。  
南北 同十四間三尺。

權田原元御屋鋪之内岩淵三郎右衛門上ケ地、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安祥院殿添番  
奥山次郎右衛門 印

安永五申年十二月廿二日

御普請方改役  
西井安太夫殿

圖略○

麻布飯倉片町 三浦平三郎屋鋪 坪數百四拾坪。

東北 織田主馬。西南 栗田甚左衛門。  
東南 道。安見藤藏。

東北 十四間三尺。西南 十五間。  
東南 十間壹尺。西北 九間壹尺。

麻布飯倉片町細川宗仙上り地、今度願之通り拙者屋鋪拜領仕、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

御臺所人  
三浦平三郎 印

安永五申年十二月廿三日

御普請方改役  
宮崎段七郎殿

殷昌期

三浦平三郎



栗田甚左

麻布飯倉片町 栗田甚左衛門屋鋪 坪數百四拾坪。

圖略○

東道。道。北。西。安見藤藏。  
南道。北。三浦平三郎。

東西南北 各九間二尺。  
同十五間。

麻布飯倉片町細川宗仙上り地、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

安永五申年十二月廿三日

表御臺所人

栗田甚右衛門印

御普請方改役  
宮崎段 七郎殿

圖略○

西久保 比留半四郎添地 坪數拾四坪餘。

東道。道。西南。天德寺境內。  
西北。天德寺境內。比留半四郎。

東西南北 七間餘。  
西南。天德寺境內。

西久保天德寺脇比留半四郎屋鋪前道行留り之所、此度願之通半四郎添地拜領仕、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取申、爲後日仍如件。

安永五申年十二月廿三日

御作事下奉行比留半四郎內  
山口源右衛門印

御普請方改役  
宮崎段 七郎殿

圖略○

本所南割下水近所 義村李之丞屋鋪 坪數貳百四拾五坪。

東道。道。西。夏目次郎右衛門。  
南。鹽谷嘉內。北。向井岸之丞。

東西南北 九間五尺。  
南。鹽谷嘉內。北。向井岸之丞。

本所南割下水近所伊丹小市郎上ヶ地、今度願之通、義村李之丞屋鋪拜領仕、被成御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取申、爲後日仍如件。

安永五申年十二月廿四日

小十人神尾内記組義村李之丞内  
大坂領右衛門印

御普請方改役  
小出 大 助殿

圖略○

小日向新屋鋪 中澤會左衛門引替上ヶ地 坪數四拾坪。

東。金永伊八。西。櫻井傳六。  
南。山口半右衛門。北。道。

東西南北 各八間。  
南。山口半右衛門。北。道。

小日向新屋敷御賄組屋鋪大繩之内中澤會左衛門引替上ヶ地、拙者被成御預ヶ、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申、爲後日仍如件。

殷昌期

義村李之丞



飯塚專右

安永五丙申年十二月廿六日

御普請方改役  
西井安太夫殿

安永五丙申年

御本丸六尺頭

飯塚專右衛門番印

——屋鋪渡預繪圖證文

十二月十三日渡。  
一、芝新網町揚場并海手波除杭地所

十二月廿二日渡。岩淵三郎右衛門上ヶ地  
一、權田原元御屋敷之内八拾七坪

十二月廿三日渡。細川宗仙上り地之内  
一、麻布飯倉片町百四拾坪

同日渡。同斷  
一、同所百四拾坪

十二月廿三日渡。自分屋敷前行留之所  
一、西久保天徳寺脇拾四坪餘

但、爲添地渡。

十二月廿四日渡。伊丹小市郎上ヶ地  
一、本所南割下水貳百四拾五坪

安永五申年十二月廿四日

右京大夫殿○松平 貞阿彌を以御下ヶ。

御普請奉行。

渡邊伊三郎拜領屋敷  
元山王七百八拾坪餘

西丸御小性組酒井紀伊守組  
土屋忠次○利毅郎

小十人神尾内記組  
義村奎之丞

——屋敷書拔

牧野正和

土屋忠次郎拜領屋敷  
田安九百九拾坪餘

渡邊直

牧野助十郎拜領屋敷  
濱町五百坪

齋藤利雄

齋藤鍋五郎拜領屋敷  
永田町二百三拾貳坪餘

齋藤利常

齋藤五郎作拜領屋敷  
牛込逢坂上三百坪

青柳半右

早川丹平拜領屋敷  
小石川諏訪町新道貳百五拾坪餘之内百五拾坪

早川政茂

青柳半右衛門拜領屋敷  
小石川御藥園下三百坪

中井清太

青木熊次郎拜領屋敷  
小石川御門内元御臺所町三百四拾貳坪餘

青木長富

中井清太夫拜領屋敷  
巢鴨火之番町貳百貳坪

右願之通屋敷相對替被仰付ハ間、得其意、例之通可被致ハ。  
直○富之助。  
○渡邊。

居屋敷糶町元山王住居仕罷在ハ處、安永五申年濱町袋町牧野助十郎と相對替、松平周防守殿○藤被仰渡。  
——寬政呈譜

附記、一、  
屋鋪相對替

殷昌期

大御番牧野伊豫守組

牧野助十郎○正和郎

小普請組長谷川利十郎支配

渡邊伊三郎○真郎

大坂御弓奉行

齋藤五郎○利雄郎

小普請組石川土佐守支配

齋藤鍋五郎○利常郎

青柳半右衛門

小普請組石川土佐守支配

早川政茂○政茂郎

御代官

中井清太夫

小普請組奥田美濃守支配

青木熊次郎○長富郎

——相對替御書附書拔



井口高慶

左ノ屋鋪相對替ハ、安永五年ニ行ハレタル者ナリト傳フ。

高慶初名幸次郎。後次右衛門。○井口。

眞野定功

一、同和明九壬辰年二月廿九日神田三河町拜領屋敷類焼、安永五甲午年月日不知小普請組戸川山城守支配眞野左門功拜領屋敷小日向中之橋通新小川町と相對替。

——寛政呈譜

附記、二、油業取締

十六日○安永五年十月○中略。

一、左之書付

水油之直段、高直之るハ諸人難義之事ニ付、下直可相成様、先年々々相觸ル得共、不取ノ故、猶又吟味之上、攝河泉三ヶ國之る油稼株差免、絞リ草買場所相定、右三ヶ國之外油稼之儀ハ、拾一ヶ年以前、戌年○明和三年相觸ル通、手作手絞リ之外ニ買請相稼ル儀堅停止之事ハ間、國々之る種物作増、大坂間屋并右定之場所賣拂可申、若定を背者有之、無株之る油稼致ル者有之、遂吟味、本人ハ勿論、所之者迄、曲事可申付旨、七年以前寅年○明和七年相觸知ル處、其以後西國筋所々之る手作手絞リ名付、水車或ハ人力等を以、手廣ニ相稼ル者共有之、絞草買留ル故、種物高年々相減ル趣ニ相聞、不埒之事ハ、七年以前格段之觸とも差出ル上ハ、彌相慎、右之趣無違失相守可申ル處、定ヲ相背、不埒之油稼ハハ、其段訴出ルを有之ハハ、當人并所之者共大坂表ハ呼登セ遂吟味、心得違杯との申立ハ不相用、急度可相答ル。國々多人數之事故、末々迄心得違有無之再應觸知ル之條、村役人共平日相改、不埒無之様可致ル。

十二月○安永五年。

——柳營日記

廿六日甲子

○安永五年(紀元二四三六年)十二月○甲子、三正綜覽。

宗門改帳提出ニ關スル布令有リ。

○柳營日記。

宗門改帳蹟

宗門改帳 柳營日記ニ、

廿六日○安永五年十月○中略。

一、左之書付、右京大夫○輝高被相渡ル。

諸國御料私領宗門改帳、大概寛文之頃々以來、年々之帳面、寺社奉行之る取集る筈ニ。

一、御料之分て、其所々之御代官ニる取集、御勘定奉行を以可差出ル。

一、江戸町方々、町奉行ニる取集、可差出ル。

一、遠國奉行有之町方ハ、其所々奉行可差出ル。

一、萬石以上并御役人交代寄合寄合等ハ、銘々より可差出ル。

一、頭支配有之面々々、地頭々々之る取集置、頭支配を以可差出ル。

但、與力伊賀之同心等之給地其外小給ニ共、知行所之人別帳ハ、頭支配ニる相改、不洩様取集置、追る差出可申ル。

一、寺社領之分ハ、其寺社ニ取集置、成丈其所之御代官領主地頭を以可差出ル。

但、前々諸役等直ニ寺社奉行に差出來ル分て、寺社奉行に直ニ差出ルも不苦。

右之通相心得、帳面集次第、一ヶ年毎二年號并冊數箇條書ニ致シ、出來次第、牧野越中守方に差出、追る差圖次第、帳面も差出可申ル。

般 昌 期

八二三



右之趣、不洩様可被相觸ハ。十二月○安永五年

社寺地異動

是年○安永五年(紀元二四三六年)。社寺地ノ異動若干有リ。

○地子古跡寺社帳。御朱印拜領地寺社帳。古跡寺社帳。御朱印地寺社帳。除地古跡寺社帳。

社寺地異動

社寺地異動 安永五年中社寺地ニ、左ノ異動有リ。

水川明神社

水川明神社 社人宅地貸地ヲ承續ス。

水川明神別當  
大 乘 院

右相願ハ之、水川社人齋藤右膳宅地間口五間奥行拾間之處、表之方往還より三尺引入竹垣結、通路之道を間口壹間取、相殘ハ地面之内、表間口四間、奥行四間之處、水川社僧宅地罷在ハ。町人治右衛門店次郎兵衛と申者ニ、明和三戌年○安永五年當申年○安永五年迄中年拾年致貸地度旨、久世出雲守寺社勤役之節願出、願之通り差免置ハ處、年季明ハ之付、只今迄貸置ハ次郎兵衛へ、當申年○安永五年より來午年○天明六年迄中年拾ヶ年貸續度旨、大乘院願出ハ之付、遂吟味、所之者へも相尋ハ處、障儀無之ハ之付、願之通差免、尤町屋ヶ間敷見之商等ハ不及申、亦貸等不爲致、紛敷者差置不申、年季明ハハ勿論、年季之内ハ之るも、地所相返ハハ、早速可相届旨、大乘院へ證文申付、寺社方帳面張紙仕ハ由、戸田因幡守より印形之斷手紙を以て申越ハ。依之安永五丙申年七月廿一日申上、御帳面張紙仕ハ。

南藏院 貸家續繼。

大塚護國寺末

古跡地 境内三千三百九拾貳坪。

新義眞言宗 高 田

内、七百拾四坪拜領地。

藏 院

貳千六百七拾八坪添地。

右相願ハ之、藥師堂并ニ寺坊等及大破ハ之付、修復爲助力、境内表通り三拾九間之所、表門之南之方堀際より三尺引込竹垣ハいたし、梁間貳間半、桁行八間之長屋壹棟、入口貳ヶ所附、同北之方堀際より三尺引込竹垣ハいたし、梁間貳間半桁行四間之長屋壹棟、入口壹ヶ所附、裏門北之方堀際より三尺引込竹垣ハいたし、梁間貳間半桁行拾六間之長屋壹棟、入口四ヶ所附、都合三棟、中年拾年季貸家ハ之度旨、寶曆十三未年松平和泉守寺社勤役中先々住願出、願之通差免置ハ處、建後三棟之内、貳間半桁行四間之長屋壹棟、明和七寅年相建置ハ。然る處巳年○安永二年年季明ハ得共、先住大病相煩罷在ハ故、不相届致不念、又々何卒當申年○安永五年より來る午年○天明六年迄中年拾年季貸續ハいたし度旨申出ハ間、遂吟味、隣寺所之ものへも相尋ハ處、相障儀無之旨、證文差出ハ。高田ハ御鷹場之儀故、御鳥見頭へも相尋ハ處、是又障儀無之ハ之付、貸續願之儀心附不申ハ段ハ叱り置、貸續之儀ハ、願之通り差免、町屋ヶ間敷作事ハ不及申、商賣躰紛敷者一切差置申間鋪旨、南藏院へ證文申付、寺社方帳面張紙仕ハ由、土岐美濃守○定より印形之斷手紙を以て申越ハ。依之安永五丙申年九月廿二日申上、御帳面張紙仕ハ。

成滿院 撤去。

新義眞言宗 大 護 持 院 權 僧 正

張消し。 拜借地 五百坪。

右明和二酉年護持院權僧正光星、老衰ニ付致隱居度ハ得共、隱居所無之ハ之付、市ヶ谷加賀屋敷ハ之、一代限り地面致拜借、隱居建、成滿院と唱度段相願、御老中へ窺之上、願之通右地面拜借被仰付ハ之付、新規家作ハいたし度旨相願、松平伊賀守寺社奉行勤役中願之通り差免ハ之處、右成滿院光星儀、去る未○安永四年



閏十二月致病死<sub>ハ</sub>之付、右家作不殘取拂、地面致返上度旨申出<sub>ル</sub>之付、右場所圍家作共不殘取拂、御普請奉行へ地面引渡し相濟<sub>ル</sub>之付、寺社方帳面張紙仕<sub>ル</sub>由、牧野越中守<sub>○貞</sub>より印形之斷手紙を以て申越<sub>ス</sub>。依之安永五丙申年五月十六日申上、御帳面張紙仕<sub>ル</sub>。

——御朱印地寺社帳

眞光寺

眞光寺 貸地ス。

古跡除地  
境内四千五百二十七坪。

東叡山末  
本郷四丁目  
天台宗 眞 光 寺

内、四十七間半門前町家。

但、東ノ方十四間。  
西ノ方三十三間半。

右相願候<sub>ニ</sub>、地内裏門之脇東之方、間口七尺奥行三間、貳方戸羽目入口明、平家瓦葺致作事、自身番所相建、町役相勤度旨、門前之者共相願候<sub>ニ</sub>付、右場所當申年<sub>○安永</sub>、來午年<sub>○天明</sub>迄中年十年季致貸地<sub>一</sub>度、門脇西之方間口七尺奥行三間、戸羽目入口明、平家瓦葺致作事、平生門番所相用、近邊御成之節、役人詰所<sub>ニ</sub>用度段相願候<sub>ニ</sub>付、遂吟味、處之者<sub>ニ</sub>相尋候處、自身番所相願候<sub>ニ</sub>相違無<sub>ニ</sub>之、證文差出、近邊屋鋪<sub>ニ</sub>も相尋候之處、障義無<sub>ニ</sub>之付差免、右場所町家<sub>ケ</sub>間敷不致作事、年季明候<sub>ニ</sub>勿論、年季内<sub>ニ</sub>るも地所相返、家作取崩候<sub>ハ</sub>、可相届、門番所<sub>ヘ</sub>願之通差免、眞光寺<sub>ニ</sub>證文申付、寺社方帳面張紙仕候由、太田備後守<sub>ノ</sub>印形之斷手紙<sub>ヲ</sub>以申越候。依之安永五丙申年三月廿四日申上、御帳面張紙仕候。

——除地古跡寺社帳

三念寺

三念寺 地所貸繼。

拜領地  
境内五百四拾貳坪餘。

本所彌勒寺末  
本郷御弓町  
新義眞言宗 三 念 寺

右相願<sub>ハ</sub>、境内東南之方表通り拾間裏行七間之場所、町人七兵衛五兵衛と申者<sub>ヘ</sub>、明和三戌年より當申年<sub>○安永</sub>迄中年拾年季貸地<sub>一</sub>たし度旨、久世出雲守寺社勤役中願出差免<sub>ハ</sub>處、年季明<sub>ハ</sub>之付、又<sub>ハ</sub>右之場所表通五間裡行七間右七兵衛<sub>ヘ</sub>、當申年<sub>○安永</sub>より來る午年<sub>○天明</sub>迄中年拾年季貸續、殘表通り五間裏行七間之五兵衛致返地<sub>一</sub>之付、墓所<sub>ニ</sub>いたし度旨願出<sub>ル</sub>之付、近寺井所之者<sub>ヘ</sub>も相尋<sub>ル</sub>處、障儀無<sub>ニ</sub>之旨、證文差出<sub>ル</sub>之付、願之通り差免、尤町屋<sub>ケ</sub>間敷作事又貸等不爲致、紛敷<sub>ノ</sub>の差置申間敷、年季明<sub>ハ</sub>之付、勿論、年季之内たり共、地所相返<sub>ハ</sub>、可相届旨、三念寺<sub>ヘ</sub>證文申付、寺社方帳面張紙仕<sub>ル</sub>由、戸田因幡守より印形之斷手紙を以て申越<sub>ス</sub>。依之安永五丙申年十一月廿四日申上、御帳面張紙仕<sub>ル</sub>。

——古跡寺社帳

萬福寺

萬福寺 貸家繼承。

拜領地  
境内七百坪。

淺草東光院末  
同所(○淺草)  
天台宗 萬 福 寺

右相願<sub>ハ</sub>、境内表門之内、表通下水より三尺引込、南之方<sub>ニ</sub>る桁行拾貳間梁間貳間半三尺鑑三尺庇附、同北之方<sub>ニ</sub>る桁行八間梁間貳間半三尺鑑三尺庇附、表通り竹垣<sub>一</sub>たし、南之方三尺入口三ヶ所、北之方入口貳ヶ所附、家作、延享元子年より中年拾年季貸家<sub>一</sub>たし度旨、本多紀伊守勤役之節願出、願之通り差免置<sub>ル</sub>處、寶曆四戌年々季明<sub>ハ</sub>之付、右桁行八間之長家貳間建續都合桁行拾間<sub>一</sub>いたし、右貳棟、同年より寶曆十四申年迄中年拾年季貸續、且亦表門之内南之方、桁行拾貳間梁間貳間半三尺鑑三尺庇附、北之方桁



行拾間梁間貳間半三尺庇付、寶曆五亥年より同曆<sup>○寶</sup>十四申年迄拾年季貸家致度旨、青山因幡守寺社勤之節願出差免置<sup>○安永</sup>處、年季明<sup>○安永</sup>の付、右四棟共猶又中年拾年季貸續度旨、松平和泉守寺社勤役之節願出、差免置、去る午年<sup>○安永</sup>年季明<sup>○安永</sup>の處、其節境內南之方表通、桁行拾貳間梁間貳間半三尺鋸三尺庇附壹棟、借家住居之もの隱賣女差置<sup>○安永</sup>の儀<sup>○安永</sup>の付、上り地相成<sup>○安永</sup>の間、年季明之儀心得違いたし不届出、此度殘三棟之分、家作有來之儘、當申年<sup>○安永</sup>より來る午年<sup>○天明</sup>迄中年拾年季貸續度旨願出<sup>○天明</sup>の付、遂吟味、隣寺所之者へ<sup>○天明</sup>相尋<sup>○天明</sup>の處、障儀無之旨證文差出<sup>○天明</sup>の付、貸家貸續之儀、心得違ひ<sup>○天明</sup>の願後れ<sup>○天明</sup>の段不<sup>○天明</sup>埒<sup>○天明</sup>の付、急度叱置、右三棟之分貸續之儀<sup>○天明</sup>、願之通り差免、尤町屋ケ間敷作事又貸等不致、商賣躰紛敷もの一切不差置、年季明<sup>○天明</sup>の儀、勿論、年季之内<sup>○天明</sup>の<sup>○天明</sup>も家作取崩<sup>○天明</sup>し<sup>○天明</sup>の儀、可相届旨、萬福寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕<sup>○天明</sup>の由、土岐美濃守<sup>○天明</sup>より印形之斷手紙を以て申越<sup>○天明</sup>の。依之安永五丙申年十一月十四日申上、御帳面張紙仕<sup>○天明</sup>の。

御朱印拜領地寺社帳

崇福寺

崇福寺 假營造ス。

一、當地拾貳年。

本寺總寧寺  
同所(○淺草)  
曹洞宗 崇福寺

一、寺内表三拾間。裏へ四拾七間半。

拜領地  
寺内 表三拾間。裏へ四拾七間半。

國府臺總寧寺末  
淺草  
曹洞宗 崇福寺

右相願<sup>○安永</sup>の去る辰年<sup>○安永</sup>二月廿九日類焼<sup>○安永</sup>の付、同年<sup>○安永</sup>五月中假作事相願<sup>○安永</sup>の處、手狹<sup>○安永</sup>の付、今般間

口貳間奥行九尺之門番所、南之方表通へ高サ貳尺五寸横九尺之出格子、西之方高サ貳尺横三尺之平窓附、西之方二壹間之入口明、棧瓦葺、并二門内四疋立之馬立、北之方九尺之三間之腰掛、右腰掛より西南へ折廻し、衆寮迄高サ六尺拾五間之板塀、貳間半之壹間之玄關、西之方壹間之拾間之廊下、南之方二梁間貳間桁行五間之衆寮、梁間三間桁行五間之客殿、西之方貳間之四間之廊下、同貳間之貳間半之廊下、右續西之方二三間四方之開基堂、梁間三間桁行五間之座敷、西之方二壹間之五間之庇、東之方二壹間之三間之廊下、右續貳間四方之次の間、右次貳間之貳間半之廊下、梁間貳間半桁行三間之飯臺座、梁間貳間半桁行三間之同土間、東之方壹間之九尺之庇、梁間三間桁行四間之庫裏、梁間貳間桁行三間之茶之間、小脇九尺之三間之庇、小寮こいたし、東之方梁間貳間桁行三間之次茶之間、右茶之間より飯臺座へ取次三間之九尺之廊下、梁間三間桁行五間之居間、西南へ折廻し三尺之五間半之庇、西之方壹間之九尺之廊下、居間より座敷次之間へ取附、貳間四方之廊下、東之方二九尺貳間之鎮守堂、同所下水際より西北へ折廻し飯臺座、土間へ取附高サ六尺之拾壹間之板塀、南之方二九尺四方之鐘樓堂、右何れも内作事之分屋根棧瓦葺之假作事いたし度段願出<sup>○天明</sup>の付、遂吟味、隣寺所之ものへ<sup>○天明</sup>相尋<sup>○天明</sup>の處、障儀無之<sup>○天明</sup>の付、願之通り差免、崇福寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕<sup>○天明</sup>の由、牧野越中守<sup>○天明</sup>より印形之斷手紙を以て申越<sup>○天明</sup>の。依之安永五丙申年九月廿一日申上、御帳面張紙仕<sup>○天明</sup>の。

御朱印拜領地寺社帳

附記、一、  
傳馬役苗字

〔附記、一〕 傳馬役苗字

苗字名乗<sup>○天明</sup>の儀尋、

以書付<sup>○天明</sup>申上<sup>○天明</sup>の。

殷昌期



名主ニ御用相勤、苗字名乗儀御尋ニ付、左ニ申上。

一、大傳馬町南傳馬町ニ從御城宿繼御狀箱御徒目付御持參之節、御請書ニ苗字認メ差上申。

一、御三家様方國主様方御鶴拜領之節、御奉書ニ御國元ニ被遣儀、右同斷。

一、三御奉行様御公家様方ニ諸御用ニ付、書付等差上儀、右同斷。

右之外、御老中様御若年寄様方、并諸御役所ニ御傳馬御用之節、萬事苗字付ニ書付等差上來申。

一、兩御番所御奉行様御代リ之節御目見、并例年御年頭御禮、五節旬三日御禮等ニ付、御支配受、兩役相勤儀ニ御座間、苗字付ニ名札相認メ來申。

一、小傳馬町之儀、御府内御傳馬相勤申ニ付、兩御丸様御春屋御用之節、苗字付ニ差上申。

一、私共苗字名乗儀、毎之頃申儀無御座、天正十八寅年八月御入國之節、名乗來儀ニ御座。

尤寛文八年帶刀御停止之節も、私共五人之儀、古來之通倅迄帶刀仕儀被仰付得共、元祿年中自分差控、帶刀不仕。併旅行仕儀節道中筋、只今以帶刀仕來。勿論五人之内勘解由主計新右衛門善右衛門儀、御繼飛脚爲御扶持米拾貳石三斗六升御入國之節、只今以頂戴仕來申。

右御尋ニ付、此段申上。以上。

安永六酉年正月

大傳馬町御傳馬役  
馬達 勘解由  
南傳馬町御傳馬役  
吉澤 主計  
同 高野新右衛門後見  
高野 善次郎  
同 小宮 善右衛門

小傳馬町同  
宮邊 又 四郎

御番所

右ニ牧野大隅守様○成御尋ニ付、同月○安永六廿九日差上。山本茂一郎殿上ケ置儀被申渡。

名主ニ御用相勤苗字名乗儀御尋ニ付、左ニ申上。

一、一、一、一、一、

此五々條、前書大隅守様ニ書上同文言。

一、私共苗字名乗儀、毎之頃申儀無御座、天正十八年寅八月御入國之節、名乗來儀ニ御座。勘解由苗字之儀、元和元年大坂落城之節、遠州濱松宿馬込橋迄人足五百人召連恐悦ニ罷出儀、人足召連罷出儀御滿悦被遊、以來地名馬込苗字ニ相名乗儀、從權現様上意有之、夫、只今以相名乗申。

主計儀、天正年中御入國以前、水野十左衛門ニ申、甲州ニ罷在、其後御當地ニ罷出、住居仕罷在、居宅葭繁リ場所ニ住居仕罷在ニ付、葭澤十左衛門ニ申習。然處天正十八寅年御入國之節、私地所さ、い、うち三本ニ權現様被爲御腰懸、葭澤ニ名乗儀、向後吉澤ニ可相改旨就上意、其節、苗字名乗來。尤右さいかち之末、明曆年中當時住居仕北之方ニ有之儀、大火之節燒失仕。尤寛文八年帶刀御停止之節も、私共五人之儀、古來之通倅迄仕儀被仰付得共、元祿年中自分差控、帶刀不仕。併旅行仕儀節道中、只今以帶刀仕。勿論五人之内、勘解由主計新右衛門善右衛門儀、御繼飛脚爲御扶持米拾貳石三斗六升年々御入國之節、只今以頂戴仕來申。



右御尋之付此段申上。以上。

安永六四年二月十日

御傳馬役  
五人連名

右之、喜多村彦右衛門殿尋之付差出ス。

同年<sup>○安永六年</sup>十月十八日曲淵甲斐守様<sup>○景</sup>御詮義方加藤又左衛門殿尋之付、當二月十日<sup>○安永六年</sup>書上之趣善次郎一判之差上。——撰要永久錄

〔附記、二〕 愛宕社修理勸化

六日<sup>○安永六年</sup>

○三日(○安永六年二月)出之書附也。

愛宕  
圓福寺

左之御書付、松平右近將監被相渡。

右愛宕山本社末社建物并神寶諸道具之修復爲助成、去ル午年<sup>○安永五年</sup>安房上總下總上野下野五ヶ國勸化御免被成下之所、勸物少之修復助力難行届之付、再勸化相願。依之御府内武家方寺社町方并武藏一國勸化御免被成下。御府内武家方寺社町中、當酉年<sup>○安永六年</sup>三月之八月迄相廻り、可致勸化。其外在方へも、同年<sup>○安永六年</sup>九月之來戊<sup>○安永七年</sup>十二月迄之内、役僧共寺社奉行連印之勸化狀持參、御料私領寺社領在町可致巡行之間、志之輩之、物之多少之よらに可致寄進旨、御料之御代官、私領之領主地頭、可被申渡。

西<sup>○安永六年</sup>二月

右之通、可被相觸。

——柳營日次記

〔附記、三〕 屋鋪預

安永六丁酉年

一、二月十一日預。萩原文次郎上ヶ地

小普請組奥田美濃守組  
河島利右衛門  
預地

文化元子年藤野惣左衛門の渡。

一、三月十一日預。大谷久右衛門引替上ヶ地

島田六三郎  
預地

一、麻布筭橋百五坪餘

——屋敷書拔

〔附記、四〕 寺有町屋鋪町人讓渡慣例答申

以書付申上

一、寺院所持町屋敷、町人の讓渡儀、寺社御奉行様方、町方之、御願等之罷出例有之ハ、可申上、并右例無之ハ、右躰之儀有之ハ節取計存寄申上之様、被仰渡之付、左之申上。  
一、私共支配町々之右之例無御座、外町々之右御願等之罷出儀も、承及不申。  
一、格別之筋合も有之、町屋敷を町人の寺院讓渡賣渡等仕儀も御座ハ、屋敷御改方の右町人并寺院双方御願申上、御帳載可仕儀之奉存。右御帳載仕儀町屋敷、寺院町人の讓渡賣渡ハ、是又屋敷御改方の双方御願可申上儀御座。右御願之罷出儀、寺院へ寺社御奉行様の御願可申上、  
殷昌期

附記、二  
愛宕社  
修理勸化

附記、三  
屋鋪預

河島利  
右

島田六  
三郎

附記、四  
寺有町屋  
鋪町人讓  
渡慣例答  
申



町方より町御奉行様の可申上儀ニ奉存也。  
 此儀、町屋敷寺院所持ニ相成也、屋敷御改方の申上儀、分ケる町御觸之無御座也得共、享保十一年午九月十三日御觸中ニ、百姓地ニ百姓ハ、町屋敷ハ町人の讓渡儀ニ、筋違之者ハ讓渡儀、不  
 成事也。乍去格別之儀、由緒有之也、屋敷御改方の相届、御差圖次第可仕趣、御觸御座也。然  
 處近年町屋敷町並屋敷等、町人ハ御武家方の御求被成、屋敷御改方の被仰立、町人ハ右之儀屋敷御改  
 方の御願ニ罷出度也間、御添翰被下置儀、御奉行様方の御願申上、願之通被下置、相濟例御座也。  
 且又御武家方御所持之町屋敷を町人の乞請儀も、双方ハ屋敷御改方の罷出、右之節罷出儀、町御奉  
 行様の町人ハ御届申上、罷出相濟例御座也。右ニ付前書町屋敷寺院所持ニ相成、又ハ寺院ハ町人の  
 讓渡之節も、筋違之取引御座也、屋敷御改方の罷出可申、其節ニ御支配様の御添翰御願、又ハ御届  
 等可仕儀ニ奉存也。勿論是迄町屋敷寺院所持之義、屋敷御改方の御届仕例御座也。尤安永貳巳年  
 二月廿六日奈良屋御役所町屋敷寺院相求儀、屋鋪御改方其外御届ケ等致也哉、又ハ御届等ハ不仕也  
 哉之段、年番名主の御尋有之、通四丁目半込天徳院所持町屋敷有之、屋敷御改方の御届申上例有之、  
 其外寺院所持町屋敷有之得共、何き之御役所ハ御届不申有之、又ハ年久敷罷成、軍初御届等致  
 也哉相知不申有之、類焼ニ書類留無之、相知不申有之也段、書付差上儀ニ御座也。  
 右申上儀、寺社御奉行様町御奉行様の、町屋敷讓之儀、御願申上例無御座也。屋敷御改方の罷出  
 儀ニ付、御添翰御願又ハ御届等可仕儀ニ奉存也。  
 右御尋ニ付申上儀。以上。

安永六酉年二月廿四日

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 名主 鎌倉町 平次郎      | 名主 小傳馬町 又四郎     |
| 通新石町名主善右衛門後見 順孝 | 名主 本石町 傳左衛門     |
| 名主 上野町 源八       | 名主 西紺屋町 五郎左衛門   |
| 彌左衛門町 伊左衛門      | 榎物町名主又右衛門煩二付 又吉 |
| 名主 小石川原町 安右衛門   | 赤坂田町 惣治郎        |
| 名主 本所徳右衛門町 太郎兵衛 | 名主 深川黒江町 助之丞    |
| 名主 上柳原町 善三郎     | 名主 室助町 右衛門      |
| 名主 本八丁堀 十左衛門    | 名主 神田紺屋町 勘次郎    |

右ニ喜多村彦右衛門殿ノ尋ニ付差出 通達。

撰要永久録

〔附記、五〕

上水方其他賃傳馬

上水方吟味方改役其外定斷御證文

壹人ニ付 賃傳馬壹疋宛。

右同斷。

右同斷。

股 昌 期

附記、五  
上水方其  
他賃傳馬

吟味方 改役  
 御普請方 假役  
 吟味方 下役



右同斷

御普請方同心

煎

右同斷

御普請方同心

役

右同斷

地割棟梁

右之者共、向後玉川神田兩上水水元の罷越の節を、右之者共斷次第、賃傳馬無滯可差出者也。

酉〇安永六年三月十九日

九郎 左印

惣郎 左印

十郎 兵印

御修復御用 太

能登印

播磨印

彈正印

豐前印

江戸の武州玉川上水神田上水水元迄宿々村々問屋、年寄。

右に安永六酉年三月十九日道中御奉行石谷豊前守様の御渡之付、添觸致、内藤新宿の差送也。

——撰要永久錄

附記、六  
富突

〔附記、六〕 富突

三月廿八日〇安永六年出の書付也。

左之書付、田沼主殿頭次被相渡也。

富突杯と名付、博奕之間敷儀致間敷旨、前々相觸の所、福引福富其外品々名目を付、富突致興行段相聞へい。右躰紛敷儀を、以來急度相止の様に、御料の御代官、私領の領主地頭、并寺領社領有之寺社等、不洩様村々の觸置の様可致也。  
右之通可被相觸也。

三月〇安永六年

——柳營日次記

附記、七  
内藤新宿  
宗門改

〔附記、七〕 内藤新宿宗門改

覺

一、壹季居出替之爲時節之間、宗門之儀、念入改之、邪蘇宗門之無之旨、請人を立、可相抱事。  
一、邪蘇宗門以今密々有之也、所々の押來之間、不審成者不有之様に、面々領内無油斷、入念可被申付事。  
一、領中被相改之、不審成者不差置、若邪蘇宗門隱置、他所の顯よおゐて、庄屋五人組可爲曲事旨、手形取之、毎年改之旨趣、具二被書記之、吉利支丹奉行の被相渡之、此外頭之支配人有之面々を、改、支配人方迄可指出之、其頭之支配人の組中書付被取置之、何れ相違無之旨趣、一紙是又吉利支丹奉行の可被相渡之事。

附、邪蘇宗門之御制禁之高札序文字見の兼るにおゐて、新敷可被立替事。

寛文十一年亥二月

殷 昌 期



右御書付之通、從前々宗門御改之儀、郷中穿鑿被仰付之付、名主百姓妻子下人未及申、寺社  
方同宿沙彌并道心行者亦も僧山伏浪人地借店借壹人未殘相改之處、疑鋪者無御座也。若不吟味致、  
邪蘇宗門之訴人脇寄罷出之、其村々名主年寄五人組共、何様之曲事之も可被仰付也。爲其銘々相  
改印形帳面差上申也。仍如件。

安永六酉年三月

天台宗人別六拾七人。

内譯 三拾五人下町。  
拾四人中町。  
拾八人上町。

内、男三拾九人。

内 廿人下町。  
八人中町。  
拾壹人上町。

女貳拾八人。

内 拾五人下町。  
六人中町。  
七人上町。

家數七軒。

内譯 三軒下町。  
貳軒中町。  
貳軒上町。

竈數貳拾軒。

内譯 九軒下町。  
三軒中町。  
八軒上町。

眞言宗人別百三拾壹人。

内 七拾七人下町。  
三拾七人中町。  
拾七人上町。

内、男七拾八人。

内 四十四人下町。  
廿四人中町。  
拾九人上町。

女五拾三人。

内 三拾三人下町。  
十三人中町。  
七人上町。

家數拾三棟。

内 五棟下町。  
六棟中町。  
貳棟上町。

竈數三拾三軒。

内 拾九軒下町。  
七軒中町。  
七軒上町。

淨土宗人別五百三拾五人。

内 貳百六十六人下町。  
百五十四人中町。  
百五十四人上町。

内、男三百貳拾貳人。

内 百六十壹人下町。  
六十九人中町。  
九拾貳人上町。

女貳百拾三人。

内 百五十二人下町。  
四十六人中町。  
六十貳人上町。

家數三拾六棟。

内 拾七棟下町。  
四棟中町。  
拾五棟上町。

竈數百四拾八軒。

内 七拾八軒下町。  
三拾壹軒中町。  
三拾九軒上町。

淨土眞宗人別四百三拾七人。

内 百九拾六人下町。  
百廿貳人中町。  
百拾九人上町。

内、男貳百七拾九人。

内 百拾九人下町。  
八十四人中町。  
七十六人上町。

女百五拾八人。

内 七十七人下町。  
三拾八人中町。  
四十三人上町。

家數四拾棟。

内 拾六棟下町。  
拾三棟中町。  
拾壹棟上町。



竈數百拾四軒。

內 六拾壹軒下町。  
廿六軒中町。  
廿六軒上町。

禪宗人別三百五拾人。

內 貳百人下町。  
七拾三人中町。  
七拾七人上町。

內、男貳百七人。

內 百十九人下町。  
四十五人中町。  
四十三人上町。

女百四拾三人。

內 八拾壹人下町。  
廿八人中町。  
三拾四人上町。

家數三拾五棟。

內 拾五棟下町。  
拾棟中町。  
拾棟上町。

竈數百貳軒。

內 五拾六軒下町。  
廿壹軒中町。  
廿五軒上町。

日蓮宗人別貳百四拾九人。

內 八拾七人下町。  
七拾八人中町。  
七拾八人上町。

內、男百三拾五人。

內 四十四人下町。  
四十七人中町。  
四十四人上町。

女百拾四人。

內 四十三人下町。  
三十七人中町。  
三拾四人上町。

家數拾七棟。

內 五棟下町。  
八棟中町。  
八棟上町。

竈數七拾七軒。

內 三拾軒下町。  
貳拾三軒中町。  
貳拾四軒上町。

一、馬數貳拾五疋 但、御傳馬。

內、御圍馬 三疋。

七疋。

四疋。

五疋。

五疋。

四疋。

都合貳拾五疋。

惣人別合千七百七拾壹人。

內 男千六拾貳人。  
女七百九人。

惣家數合百五拾貳棟。

惣竈數合四百九拾四軒。

出入數三拾六人。

入人數三百貳拾六人。

右之通宗旨人別男女并出入人數家數竈馬數相改、書上以處、少も相違無御座以。依之拙者共印形仕、差上申處仍如件。

安永六酉年三月

殷 昌 期

問屋 內藤新宿 胖

八四一

藏

內藤新宿

伊

三

元

甚

權

右

右

五

五

助 印

門 印

門 印

郎 印

八 印



名主 忠右衛門  
同 喜六  
同 吉之丞

久保田十左衛門様御役所

——高松文書

六年丁酉 ○安永○紀元二四三七年 四月朔日丙申 ○丙申、三正綜覽 館林 ○上野國 城主松平武元 ○右近將監 下屋鋪添地

ヲ賜フ。是月 ○安永六年(紀元二四三七年)四月 外ニモ屋鋪受授有リ。 ○續談海、柳營日次記、屋敷書拔、寛政呈譜

屋鋪受授 安永六年四月左ノ屋鋪受授有リ。

一、四月朔日 ○安永六年

松平右近將監 ○武元

右ノ南八町堀下屋敷手狭ニ付、前通り上納地并道敷共拜借地相願以得共、右場所貳町目上納地并道敷共五百五十坪餘、添地ニ被下之旨、於奥被仰渡之。

一、同 ○安永六年四月 廿一日 ○中略

大御番頭

小堀備中守 ○政方  
名代 稻垣長門守

小堀政方

右ノ常盤橋御門内屋敷家作共御用ニ付被差上。牛込御門内米倉丹後守屋敷家作共被下之旨、於芙蓉之間、御老中列座、周防守殿 ○松平康福 被仰渡之。

廿一日 ○安永六年四月○中略

——續談海

米倉昌晴

牛込御門之内屋敷差上、常盤橋御門之内小堀備中守屋敷家作共被下之。

米倉丹後守 ○昌晴

右於奥相濟。

芙蓉之間

大御番頭  
小堀備中守  
名代 稻垣長門守

右ニ只今迄之屋敷差上、牛込御門之内米倉丹後守屋敷被下旨、老中列座、周防守 ○松平康福 申渡之。

——柳營日次記

米倉丹後守昌晴 長之助、民部。

同 ○安永 六丁酉年四月廿一日、若年寄被仰付、常盤橋内小堀備中守屋敷拜領仕、唯今迄之屋鋪御用ニ付可

差上旨被仰付。

——寛政呈譜

安永六丁酉年

一、四月廿三日渡。上納地并道式共  
同所 ○南八町堀 貳町目五百五坪四合餘

松平右近將監

但、下屋敷爲添地渡。

——屋敷書拔

清揚院靈屋  
修理

五月六日辛未 ○安永六年(紀元二四三七年)○辛未、三正綜覽 幕府増上寺清揚院靈屋 ○市内芝區 ヲ修理シ、小普請奉行

岩本正利 ○内膳正 目付日下房正 ○十郎兵衛 ニ用掛ヲ命ス。十一日丙子 ○安永六年(紀元二四三七年)五月○丙子、三正綜覽 屬

吏ノ任命有リ。九月七日己巳 ○安永六年(紀元二四三七年)○己巳、三正綜覽 遷座供養シ、十一月廿二日甲申 ○安永六年

般昌期

八四三



清揚院靈屋  
修理事蹟

年(紀元二四三七年)  
○甲申、三正綜覽。

掛員ニ授賞ス。

○柳營日記。凌明院殿御  
實紀。續談海。明和撰要集。

清揚院靈屋修理

左ノ如シ。

芙蓉之間

六日 ○安永六年  
五月○中略。

芙蓉之間

小普請奉行

岩本内膳正利○正

御目付

日下十郎兵衛正房○房

右ニ増上寺清揚院様御靈屋御修復御用懸リ被仰付旨、同人 ○田沼  
意次。申渡之。

十一日 ○安永六年  
五月○中略。

同席 ○御右筆  
部屋縁頼。

小普請方

清水 又 八

同改役  
小野繁右衛門

右ニ増上寺清揚院様御靈屋前御修復御用懸被仰付旨、右近將監 ○松平  
武元。申渡之。

七日 ○安永六  
年九月。

於増上寺清揚院様御靈屋正遷宮御供養ニ付、

御名代

松平右近將監○武

上使太田備後守  
増上寺方丈ニ

銀五十枚。

右同斷御供養相濟ニ付、被遣之。

廿二日 ○安永六年十  
一月○中略。

芙蓉之間

金三枚。  
時服三。

金三枚。  
時服二。

金三枚。  
時服二。

右ニ増上寺清揚院様御靈屋并其外御修復御用懸リ相勤ニ付、被下旨、老中列座、佐渡守 ○板倉  
勝清。申渡之。

御右筆部屋縁頼

金二枚。

銀七枚。

同。

同。

同。

同。

同。

同。

右同斷ニ付被下旨、右近將監 ○松平  
武元。申渡之。

躑躅之間

銀廿枚。

燒火之間

股昌期

小普請方改役

小野繁右衛門



同七枚。

小普請方吟味役  
野口與八郎

同十枚ツ、。

御徒目付  
堀屋文右衛門  
神谷又助

同七枚。

御徒  
山本四郎三郎

同。

御壘方御徒假役  
江見新五郎

同。

繪師  
狩野柳慶

同三枚。

大工棟梁  
依田伯耆

右同斷ニ付被下旨、兩席共酒井石見守○忠申渡之。

——柳營日次記

六日○安永六年五月○中略。小普請奉行岩本内膳正正利・目付日下十郎兵衛房正に、三縁山清揚院殿靈廟修理命せらる。

七日○安永六年九月。三縁山清揚院殿靈廟正遷座をもて、松平右近將監武元代參す。寺社奉行太田備後守資愛御使

して、増上寺大僧正靈應に銀五十枚を給ふ。これその供養したるをもてなり。

廿二日○安永六年十一月。小普請奉行岩本内膳正正利時服三、目付日下十郎兵衛房正時服二給はり、三縁山清揚院殿

靈廟修理掌りしを賞せられ、各金三枚添へて給ひ、屬吏等皆賜物差あり。——凌明院殿御實紀

一、同○安永六年五月。六日

小普請奉行  
岩本内膳正  
御目付  
日下十郎兵衛

右に増上寺清揚院様御靈屋并其他御修復御用掛り被仰付之旨、於芙蓉之間、御老中列座、主殿頭殿○田沼意次被仰渡之。

一、同○安永六年九月。七日於増上寺、清揚院様御靈屋正遷御供養ニ付、御名代

松平右近將監  
上使太田備後守  
増上寺方丈

銀五拾枚。

右同斷御供養相濟之付被遣之。爲御禮登城於御白書院縁類、謁土岐美濃守。

一、十一月廿二日○安永六年。

小普請奉行  
岩本内膳正

金三枚。

御目付  
日下十郎兵衛

時服三。

右に増上寺清揚院様御靈屋向其外御修復御用相勤之付被下旨、於芙蓉之間、御老中御列座、佐渡守殿

被仰渡之。若年寄衆侍座。

——續談海

安永六四年九月五日松平右近將監殿○武牧元桑野大能登守○武牧元御渡。

三奉行。

増上寺清揚院様御靈屋御修復出來ニ付、

九月七日

正遷座 寅中刻。

同日

殷昌期



右之通ひ間、御仕置者等被仰付ひ儀、可被差控ひ。

明和撰要集

五月十二日丁丑 ○安永六年(紀元二四三七年)○丁丑、三正綜覽。 屋鋪若干ヲ相對替ス。

○相對替御書附書拔。寛政呈請。

屋鋪相對替  
屋鋪相對替  
事蹟

屋鋪相對替 屋鋪相對替ノ安永六年五月ニ爲サレタル者ヲ舉グ。

安永六酉年五月十二日

主殿頭殿 ○田沼意次。 良阿彌を以御下ゲ、詰番筑前守 ○久松定徳。 請取。

御普請奉行。

室賀正明

井出主税拜領屋敷  
表六番町七百九拾八坪之内五百坪

御小性組高井兵部少輔組  
室賀 圖書に  
○正明

井出正福

室賀圖書拜領屋敷  
淺草新堀端阿部川町四百三拾七坪

西丸御小性酒井紀伊守組  
井出 主税に  
○正福

深津盛徳

妻木權左衛門拜領屋敷  
表二番町五百四拾三坪

御小性組大久保能登守組  
深津 左京に  
○盛徳

妻木頼興

深津左京拜領屋敷  
牛込原町二丁目裏通り五百坪

御書院番大岡主水正組  
妻木 權左衛門に  
○頼興

眞野正敏

稻葉惣左衛門拜領屋敷  
元矢之倉藥研堀四百坪餘

御小性組水野河内守組  
眞野 庄左衛門に  
○正敏

高林利貞

眞野庄左衛門拜領屋敷  
小日向臺七百四拾坪之内五拾坪

御書院番北條安房守組  
高林 又十郎に  
○利貞

稻葉敬長

溝口齋宮拜領屋敷  
北本所二ツ目三ツ目之間八百三拾坪餘之内四百坪

同人組  
稻葉 惣左衛門に  
○敬長

溝口能兼

高林又十郎拜領屋敷  
小日向臺千百拾貳坪餘之内貳百坪

小普請組小笠原彦太夫支配  
溝口 齋宮に  
○能兼

永井尙庸

竹尾内膳拜領屋敷  
小石川大塚臺町千四百三拾三坪

西丸御小性酒井紀伊守組  
永井 尙庸に  
○尙庸

竹尾俊敷

永井主膳拜領屋敷  
駿河臺鈴木町四百八拾坪

同花房因幡守組  
竹尾 内膳に  
○俊敷

森川氏致

榑原三郎左衛門拜領屋敷  
青山御手大工町貳百拾六坪

同森川下總守組  
森川 主水に  
○氏致

原友就

森川主水拜領屋敷  
表六番町六百五拾坪

御藏奉行  
榑原 三郎左衛門に  
○友就

山上勝伴

喜多村安齋拜領屋敷  
麻布御殿跡三百坪

西丸新御番松平但馬守組  
山上 長兵衛に  
○勝伴

喜多村安齋

山上長兵衛拜領屋敷  
三番町市谷御門内貳百坪

御番醫師  
喜多村 安齋に

間宮元賢

依田兵部拜領屋敷  
四谷鹽町三丁目横町四百五拾七坪

大御番牧野伊豫守組  
間宮 傳五郎に  
○元賢



開宮傳五郎拜領屋敷  
四谷内藤宿新屋敷貳百拾六坪

磯谷氏政

春田彌次左衛門拜領屋敷  
下谷山伏町四百坪

春田次蕃

磯谷三郎兵衛拜領屋敷  
北本所絲町一丁目北横町貳百八拾四坪餘

内藤正恒

富岡萬太郎拜領屋敷  
巢鴨大原町二丁目五百坪餘

富岡長正

内藤源五郎拜領屋敷  
巢鴨火之番町四百五拾坪餘

關川美羽

松平傳三郎拜領屋敷  
本所石原五百坪

松平勝興

關川庄五郎拜領屋敷  
本所三ツ目通三笠町貳百貳拾坪

山本助九郎

石黒平次太拜領屋敷  
駒込田安上ヶ地之内三百坪

石黒敬之

山本助九郎拜領屋敷  
本所南割下水五百坪

柳世友卓

大貫次右衛門拜領屋敷  
小石川築地貳百九坪餘

大貫光豊

柳世庄左衛門拜領屋敷  
小石川御臺所町四百八拾七坪

田中寛明

上田鐵次郎拜領屋敷  
牛込山伏町貳百坪

上田鐵次郎

田中太左衛門拜領屋敷  
同所九拾八坪

貴志萬右

中野正十郎拜領屋敷  
小石川新鷹匠町百四拾坪

中野正十郎

貴志萬右衛門拜領屋敷  
麻布日夕久保宮下町八拾三坪

海野幸右

小野庄五郎拜領屋敷  
小日向荖荷谷百貳拾坪

小野庄五郎

海野幸右衛門拜領屋敷  
小石川元御殿跡八拾坪

右願之通屋敷相對替被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>間、得其意、例之通可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>致<sub>レ</sub>也。

正明 初多宮、圖書。  
○室賀。

安永六酉年五月十二日西丸御小性組酒井紀伊守組井出主稅屋敷表六番町之る五百坪、相對替被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>也。

長正 乙三郎、初萬太郎。  
○富岡。

安永六酉年五月十三日大御番久留嶋信濃守組内藤源五郎屋敷巢鴨火之番町と、私拜領屋敷巢鴨原町二丁目と、願之通相對替。

勝興 傳三郎。  
○松平。

小普請組神尾若狭守支配  
依田 兵部

大御番森川紀伊守組  
磯谷 三郎 兵衛

同稻葉紀伊守組  
春田 彌次 左衛門

同久留島信濃守組  
内藤 源 五郎

小普請組戸川山城守支配  
富岡 萬太郎

御代官  
關川 庄五郎

小普請組長谷川利十郎支配  
松平 傳三郎

内山七兵衛組御組匠  
山本 助九郎

御勘定  
石黒 平次

小普請組久留島數馬支配  
柳世 庄左衛門

御勘定吟味方改役並  
大貫 次右衛門

富士見御寶藏番  
田中 太左衛門

小普請組小笠原彦太夫組  
上田 鐵次郎

表火之番  
貴志 萬右衛門

小普請組久留島數馬組  
中野 正十郎

御膳所御臺所人  
海野 幸右衛門

定普請同心  
小野 庄五郎

——相對替御書附書拔



安永六酉年五月十三日本所三笠町御代官關川庄五郎屋敷ト相對替。  
能兼初彌三郎。齋宮。  
〇溝口。

安永五丙申年十一月小普請組牧野傳藏支配之節、屋敷切坪替奉願、同〇安永六酉年五月十三日願之通被仰付、拜領屋敷八百三拾坪餘之内四百坪、御書院番稻葉惣左衛門〇、御書院番北條安房守組小日向臺高木又十郎屋敷之内貳百坪、私〇相對替仕〇。

寬明 田中太左衛門。龜之助。

一、屋敷地之儀、年號月日不知小石川傳通院脇三百坂〇之貳百五拾坪餘拜領仕〇處、寶曆十辰年十月十六日父太左衛門〇廣富士見御寶藏番森長四郎組相勤〇節、御徒目付神尾安次郎牛込山伏町九拾八坪之拜領屋敷〇相對替被仰付、安永六酉年同野田源五左衛門組之節、小普請小笠原彦太夫組上田鐵五郎、同所〇之貳百坪之拜領屋敷〇、願之通相對替被仰付。

——寬政呈譜

附記、一  
農村出稼  
制限

廿三日 〇安永六年  
五月〇中略。

一、左之御書付、松平右近將監〇武相渡ス。

近來在方村々之者共、耕作を等閑〇致、却る困窮等之儀申立、奉公稼〇之出〇者多、所持之田畑を荒置〇ハ類有之由相聞〇、不埒之至〇。已來村高人別割合何人迄〇奉公〇之出〇るも、殘人數〇之耕作〇之勿論、村方之差支無〇之ハ哉否、村役人共相糺、實々無據子細〇之奉公〇之出度旨相願〇者有之ハハ、右割合之人數迄〇、村役人共承届、年季を限奉公〇之出〇様〇之可〇致〇。若村方之差支も不願奉公〇之出、

持田畑を荒〇義〇有之ハハ、當人〇勿論、村役人共越度〇るハた者也。

右之通御料〇御代官、私領〇領主地頭〇之可〇被〇相觸〇。

酉 〇安永六年。五月

——柳營日記 〇明和撰  
要集同。

附記、二  
私鑄錢禁  
制

〔附記、二〕 私鑄錢禁制

廿二日 〇安永六年  
六月〇中略。

十八日(〇安永六年六月)出〇書付也。

一、左之御書付、同人〇松平被〇相渡〇。

鑄錢之儀、後藤庄三郎支配定座并於銀座眞鍮錢吹方致〇。兩座之外、鑄錢難成〇間、願出間敷旨、去ル辰年相觸〇處、年寄を以、寺社等より之願〇之致〇し〇義有之趣相聞〇。已來右躰之願有之ハハ、吟味之上、急度答可〇申付〇。尤右願等申立〇寺社之義も、可〇及其沙汰〇ハ條、兼〇其旨を可〇存〇。

右之趣、御料私領寺社領在町共、可〇觸知者也。

酉 〇安永六年。六月

——柳營日記

附記、三  
處罰

〔附記、三〕 處罰

廿四日 〇安永六年  
七月〇中略。

殷 昌 期



一、今日西丸小十人組本多斧次郎弟彦右衛門重追放被仰付。

申渡之覺

西丸小十人大岡山城守組斧次郎弟  
本多彦右衛門

右彦右衛門儀、當三月九日○安永六年無僕之罷出、本所秋葉邊之淺草橋場眞崎稻荷之致參詣、茶屋に立寄、酒食調給醉出、役人躰之致し、往來之者を各々誤を面白存、新吉原日本堤土手之、淺草新鳥越町二丁目茂右衛門店甚太郎風呂敷包持參を、下二居り様之申、中腰之罷成處、又々下二居り様乍申、拳之る背中を敲、肌を爲腕持居包之品を尋、辨當箱之由申、恐躰之構無之旨申聞、放遣、夫々同所土手下髮結床前二、新吉原江戸町二丁目市右衛門店新次郎召仕清七、下駄をき居をぬき様申答、下二居り付、其分之致し、凡二丁程參節、何方之をのこ哉、往來之者十人計出合、似之役之由申節、右甚太郎罷越、寂初之誠之役人と存所、似せ役人とも呼儀、如何之譯之哉と、相答所、加役土屋帶刀組之者之由申聞、右躰似之役致し被捕始末、御旗本之弟之身分之、別る不埒之至之。依之重き追放申付之。

右牧野大隅守○成於御役宅、蜷川相模守○親立合申渡之。

——柳營日記記

〔附記、四〕 諸大名乗物制其他

附記、四  
諸大名乗  
物制其他

二日 ○安永六年  
八月○中略

七月三十日○安永六年出書付也。

一、左之御書付、板倉佐渡守○勝被相渡之。

諸大名乗物鞍覆茶辨當爪折傘騎馬供、并供鍵供馬、且召連諸侍人數、其外供廻り行列之間を詰させ様ことの義、供之者手代り等之義二付、先達追々觸も有之所、今以致難澁趣之相聞へ。彌先達之相觸通相守、追々願等相濟分、其節相達通相心得、此已後猥不相成様之、急度可被相守之。

右之通可被相觸之。 七月○安永六年

——柳營日記記

〔附記、五〕 築地三之橋

附記、五  
築地三之  
橋

一、八月朔日○安永六年築地三之橋御組合之處、同所此御方御藏屋敷脇之御一手持之橋○安藝殿有之付、右三之橋へ、此御方不用之御迷惑故、御普請方へ御留守居よ書付を以右之趣申達置、御組合除御聞届可相成様ことの御書付可被指出付、江戸に被遣。本文於江戸被差出之日欠ク。且此御差圖見る所ふなれと、後來御組合之掛金無之付、御聞届あざしとおもひる。築地三之橋組合之御座處、同所私下屋敷脇之一手持切之橋掛ケ置致通用付、三之橋當時一向通用不仕。右之通不用之橋之御座處、外同様組合之相成居儀、萬端甚迷惑仕間、委細之儀へ御普請方之家來共より書付を以申達置。尤前々致來之儀之御座得共、可相成儀之御座之、組合御除被下様仕度奉存。右之趣宜御勘辨被下様奉頼。此段御内々申上。以上。

八月朔日 ○安永六年

松平安藝守 ○淺野重盛

——侯爵淺野家回答

八月十四日丁未

○安永六年(紀元二四三七年)丁未、三正縁覽。

屋鋪相對替者有。外二是月

○安永六年(紀元二四三七年)八月。若干屋

屋鋪受授

殷昌期

八五五



屋鋪受授事蹟

大木親繁

鋪ヲ受授ス。

○寛政呈請。屋敷書拔。相對替御書附書拔。

屋鋪受授

安永六年八月左ノ屋鋪ヲ受授ス。

親繁吉三郎。伊兵衛。○大木。

安永七戊戌年七月一番町屋敷、大御番久留嶋信濃守組土井七郎左衛門大久保新道屋敷ト相對替奉願ハ處、同○安永七年。八月十四日願之通被仰付。

安永六丁酉年

八月廿八日渡。明地之内

一、麴町平川町百五拾坪

但、木挽町拜借地御用之付被召上ハ爲代地渡。

一、同所三拾坪

但、右同斷。

一、同所三百坪

但、右同斷。

一、同所貳百坪

但、右同斷。

岩井源兵

岩井與左

三輪仁兵

春田播磨

御具足師

春田播磨

御弓師

三輪仁兵衛

御具足師

岩井與左衛門

同 岩井源兵衛

——屋敷書拔

——寛政呈請

安永六酉年八月廿八日

右京大夫殿○松平順阿彌を以御下ケ、筑前守○久松請取。

御普請奉行。

中山勝尹

荒尾久太郎拜領屋敷  
牛込赤城明神下四百貳拾四坪

岡部長保

中山喜三郎拜領屋敷  
新道一番町四百坪

荒尾成壽

岡部半九郎拜領屋敷  
四谷元御厩近所五百坪

小谷榮澄

加藤彌平太拜領屋敷  
三田狸穴百坪

加藤景隆

小谷武左衛門拜領屋敷  
麻布長坂四百坪

水野忠國

原新八郎拜領屋敷  
湯島四丁目横町傘谷五百坪

西井英昌

水野宇兵衛拜領屋敷  
市ヶ谷川田ヶ久保三百坪

原政胤

西井安太夫拜領屋敷  
本所林町五丁目貳百坪

平岡良寬

和田勝之進拜領屋敷  
湯島天神中坂下七百五拾坪

和田定記

平岡彦兵衛拜領屋敷  
本所相生町五百坪

西丸御小性花房因幡守組

中山喜三郎○勝尹

大御番稻葉紀伊守組淺草御藏奉行  
岡部半九郎○長保

小普請組奥田美濃守支配  
荒尾久太郎○成壽

大御番永井伊豫守組  
小谷武左衛門○榮澄

御勘定吟味方改役  
加藤彌平○景隆

大御番高木主水正組淺草御藏奉行  
水野忠國○忠國

御普請方改役  
西井安太夫○英昌

小普請組島津式部支配  
原政胤○政胤

御代官  
平岡彦兵衛○良寬

小普請組仙石彌兵衛支配  
和田勝之進○定記



寛 正安

西 支桂

宮 重音吉

祖 父江權

平 仁木幸政

久 下親徳

屋 代友宣

杉 浦傳十郎

淺 田吉次郎

志 村又藏

近 藤直三郎

片 山市左

西支桂拜領屋敷  
麻布六本木三百坪之内百五拾九坪

寛安之丞拜領屋敷  
下澁谷羽根澤千七百四拾坪之内百五拾九坪

祖父江權平拜領屋敷  
大久保新屋敷元御犬小屋跡百拾八坪

宮重音吉拜領屋敷  
市谷加賀屋敷平山町貳百坪

久下右膳拜領屋敷  
牛込逢坂上五百九拾坪餘之内四百坪

仁木香次郎拜領屋敷  
深川小名木川海邊新田四百五拾坪

杉浦傳十郎拜領屋敷  
麻布市兵衛町六百坪餘

屋代友宣之進拜領屋敷  
麻布古川町五百九拾六坪

志村又藏拜領屋敷  
牛込肴町横町貳百拾坪餘

淺田吉次郎拜領屋敷  
牛込原町貳拾八町九拾九坪

片山市左衛門拜領屋敷  
駒込百坪

近藤直三郎拜領屋敷  
四谷表番衆町百坪

小普請組石川土佐守支配  
寛 正安之丞

同小笠原彦太夫支配  
西 支桂

小普請組永井監物支配  
宮 重音吉

支配勘定  
祖 父江權平

小普請組仙石彌兵衛支配  
仁 木香次郎

同長谷川利十郎支配  
久 下親徳

小普請組小笠原彦太夫支配  
屋 代友宣之進

同島津式部組  
杉 浦傳十郎

西丸御廣敷伊賀者  
淺 田吉次郎

小普請組石川土佐守組  
志 村又藏

戸田久次郎組御鷹匠同心組頭  
近 藤直三郎

内山七兵衛組御鷹匠同心  
片 山市左衛門

秋山勝之丞

小林市左

小林市左衛門拜領屋敷  
青山權田原七拾一坪餘

秋山勝之丞拜領屋敷  
四谷仲町六拾九坪餘

表御臺所小間遣

秋山勝之丞

田安附廣敷鏡御番

小林市左衛門

相對替御書附書拔

新肴場附浦申令

廿九日壬戌

○安永六年(紀元二四三七)八月○壬戌(三正綜覽)

府内本材木町新肴場

○市内日本橋區

問屋等

附屬漁村取締令

ノ申明ヲ請フ。十一月

○安永六年(紀元二四三七)元二四三七

申令有り。

○明和撰要集

新肴場附浦申令

新肴場附浦再觸之儀ニ付願

明和撰要集ニ、左ノ如ク見ユ。

安永六四年八月廿九日

本材木町新肴場問屋行事  
仁 左衛門 外十三人

乍恐以書付奉願上

一、本材木町新肴場問屋行事仁左衛門外十三人之者共一同御願申上。新肴場御取立被成下、以發且之儀  
之、肴場と申へ、本小田原町壹ヶ所之、事セまく御肴高直之賣買仕り、別御献上御進物御肴等、大御  
饗應杯之節之、メ賣仕由。依之諸御屋敷様方御差支之儀、舊年之御座之付、何卒世上諸肴下直之可相  
成、又之御買合之爲と、乍恐從御公儀様御金六千兩拜借被仰付、延寶二寅年嶋田出雲守様<sup>○忠</sup>宮崎若狹  
守様<sup>○重</sup>御勤役之砌、新肴場御取立被成下、則武州相州ニ<sup>○重</sup>十七ヶ浦、新肴場附浦々被爲仰付被下置、  
冥加至極難有奉存。則御拜借金六千兩を以て、十七ヶ浦に敷金仕、場所相續仕。然ル處其後相州大磯



領におゐて八ヶ浦、又ハ鎌倉領ニシテ六ヶ浦、右浦々之義也、新肴場附浦々入用之浦々まで、荷物送方紛敷奉存ハ間、何卒右十四ヶ浦之儀も、新肴場附浦之仕度旨、御願申上ハ得也、是又被爲聞召譯、願之通り被仰付、都合新肴場附浦三十壹ヶ浦ニ罷成、此段重々難有仕合奉存ハ、尤拜借御金六千兩ハ、元祿六酉年私とも奉皆納ハ、然ル上ニテ三十壹ヶ浦ニ取上ハ魚類、新肴場ハ急度可相送旨浦々ハ御高札御建被下置ハ得共、右ハ御高札之儀年々を經風波ニ廢シ朽損申上ハ付、發旦ハ貳拾ヶ年過、元祿七戌年川口攝津守様〇宗能勢出雲守様〇頼御勤役之砌、御高札御建替奉願上ハ得也、永々之爲ニ御意被遊、御勘定奉行様方御連印之御書物ニ被成下、三拾壹ヶ浦ハ拜見爲致可相廻旨被爲仰付、難有頂戴仕、問屋共ニ名主新助差添、右附浦三拾壹ヶ浦ハ持參仕、浦々之者共ハ拜見爲致、奉畏ハ旨之御請證文取之、私共ハ被下置難有所持仕罷在ハ、然ル處附浦々之者とも御當地他町之肴問屋共ニ密談致し置、新肴場肴荷物隠し賣買仕ハ付、元祿十六未年保田越前守様〇宗松前伊豆守様〇嘉丹羽遠江守様〇長御勤役之砌、右之趣奉願上ハ得也、則御當地町々生肴問屋干肴問屋鹽物問屋不殘被召出、新肴場付三十壹ヶ浦之儀也、前々より御掟有之ハ間、右浦々肴荷物一切隱賣買仕間敷旨、急度被仰付、他町之諸肴問屋共銘々名主加判之證文被仰付、是又私共ハ被下置難有所持仕ハ、其以來又ハ浦方并御當地町々之肴問屋共猥ニ罷成、新肴場所付浦々荷物隱賣買仕ハ付、享保六丑年中山出雲守様〇時大岡越前守様〇忠御勤役之砌、御願申上ハ得也、御先格之通、御勘定御奉行様御連印御書物御書替被下置、并御當地他町之肴問屋とも御請證文被仰付、是又私共ハ被下置、難有所持仕罷在ハ、然ル處其後浦方并御當地肴問屋共一同ニ猥ニ罷成ハ付、三十壹ヶ年以前延享四卯年能勢肥後守様〇頼御勤役之節、右之趣御願申上ハ得也、御先格之通被仰付、難有仕合奉存ハ、

然ル處年舊クハ故敷、近年浦方別ハ猥ニ罷成、御當地他町之肴問屋密談致し置、肴荷物隱賣買仕リハ段粗承およハ儀も御座ハ、然ル處當時ニ至ル猥ニ罷成、荷物送り方走くかく、問屋共ニ不<sub>レ</sub>及申上、仲買大勢之者共迄、殊之外困窮及、難儀至極仕ハ、勿論新肴場起立之砌ハ、問屋共五十六間ニシテ相續仕ハ得とも、年々相潰レ、只今までハ漸ク問屋十四軒ニ相成、渡世仕罷在ハ、尤私共方ハ肴荷物買取商賣仕ハ仲買之者とも迄一同困窮仕、依之場所相續難致奉存ハ付、此度御願申上ハ、何卒ハ恐御先格之通、御勘定御奉行様御連印御書物御書替被成下ハ、浦方ハ持參仕リ、銘々拜見爲致、御請印形取之申度奉存ハ、右之通被爲仰付被下置ハ、問屋共并仲買之もの迄無恙渡世仕、此末々とも御慈悲を以場所相續可仕旨、難有奉存ハ、何分新肴場之儀也、發旦ハ及百餘年ニ、度々御慈悲御威光を以相立來ハ場所ニ御座ハ得也、幾重も御慈悲奉願ハ、尤新肴場發旦ハ之由緒、并御勘定御奉行様御連印御書物、浦方御當地町々肴問屋御請證文別紙相添、乍恐奉入御覽ニハ、以上。

安永六酉年八月廿九日

本材木町三町目仁平次店新肴場問屋行事

- 願人 仁左衛門 門印
- 同 孫右衛門 門印
- 同 惣八店 兵衛 門印
- 同 吉兵衛 兵衛 門印
- 同 與右衛門 門印
- 同 同町彌八店 兵衛 門印
- 同 太郎兵衛 門印
- 同 甚左衛門 門印
- 同 同町傳兵衛店 兵衛 門印











御印

延享四卯九月

在方見分御用ニ付無印形

井 彌惣兵衛

堀 荒四郎印

兒 孫七郎印

松 河内守印

逸 出羽守印

神 若狹守印

神 志摩守印

此度御觸之趣も、私共浦々之内、猥成浦々も御座由被爲及聞召之付、此以後御觸之通急度相守可申旨被仰付、奉畏也。當浦漁人之儀不及申上、他國入來魚漁仕者共之至迄、急度可奉相守也。若以後御觸之趣相背い、御本文之通り、如何様之曲事も可被仰付也。爲後日判形如是御座也。以上。

延享四卯十月

武州四ヶ村相州貳拾七ヶ村

銘主名

年

組

惣

海士船持

主印

寄印

頭印

人代印

人代印

覺

其浦々之取魚類、并他國入來魚獵いよにものとも、前々のとく江戸材木町新肴場は不殘相届商賣を爲し。小田原町其外之町は、一切付送間敷也。附タリ、海上船中におゐて魚類を賣るからさる事。右之通堅可相守、若違背之族有之い、詮儀之上、可爲曲事也。以上。

安永六酉十一月

久 十左衛門印

倉 與四郎印

御用掛ニ付無印形  
根 九郎右衛門

松 十郎兵衛印

桑 能登守印

大 播磨守印

安 彈正少弼印

石 淡路守印

武州 牧

相野 嶋

相州 須賀

馬堀 村

鴨居 村

小芝 村

室之木 村

大津 村

走水 村

東浦賀 村

般 昌 期











新肴場付浦々之肴荷物御當地外肴問屋共引請申間敷旨證文申付吳様、新肴場之者共願出之付奉伺  
い書付

書面伺之通り申渡、取計可申旨、被仰渡、奉畏い。

酉十一月十四日

奈良屋市右衛門  
新肴問屋行事  
仁左衛門  
外十三人  
新主 助

右申出い、新肴場附浦三拾壹ヶ浦之取上い魚類、脇賣等致し猥ニ罷成い之付、先格之通り浦觸之儀、  
先達之當御役所之相願之通、御勘定方連印之御觸書御渡被成下い。依之御當地諸肴問屋共いも、右新肴  
場附浦々、荷物一切賣買仕間敷旨、先例之通り證文被仰付被下置い様、私方迄願出申い。  
右之通り申出い。右延享四卯年浦觸相願い節之、

本小田原町。室町（舊）。本船町。同横町。小船町。安針町。元四日市町。青物町。本材木町壹丁目。  
本芝四町分裏町。金杉（通）。築地南小田原町。

右町々肴問屋鹽肴問屋共、并名主之申渡、證文申付、其證文を新肴場問屋ともい相渡い間、此度も先例之  
通り渡、別紙案文之通り證文申付、相渡い様可仕い哉。此段奉伺い。以上。

酉（安永） 十一月

奈良屋市右衛門

附記、一  
新墾地制

〔附記、一〕 新墾地制

七日（安永六年）

五日（安永六年九月）二出い書付也。

一、左之御書付、松平右近將監被相達い。

國々之おゐて新田畑開發之節、一領一圓之内ニ罷り有之い場所之、公儀之新開不被仰付、萬石已下  
知行所之分も同斷之事之い。

但、一村一給之無之分郷之るも、一給之る取廻し内之有之い場所、同前之事。

且村々之地先キ之不及申、山野之芝地原地并秣場海川之附洲寄洲、其外右類之場所、御料之勿論、

他領之地先少之るも入交有之い分之、私領之る開發不相成、公儀之新開被仰付い。尤新田畑之儀之  
付る之、享保七寅年被仰出之有之い得共、猶又右之趣已來違失無之様、可被相心得い。

酉（安永六年） 九月

右之通可被相觸い。

——柳營日次記（明和撰）  
要集同。

〔附記、二〕 強訴徒黨逃散ニ關スル申令

安永六年九月七日（柳營日次記）。松平右近將監殿順阿彌を以て御渡。

町奉行い。

強訴徒黨逃散之、前々御法度之處、遠國之百姓共、辨も無之難立願を企、及強訴、又之徒黨して遺  
恨有之者之家居を打こせに類有之、其度々御仕置相成、去る巳年も飛驒之國之ものとも地所改を令難  
濫致越訴、江戸表之おゐて吟味中、國元之社地へ大勢集り、御代官陣屋へ令強訴、狼藉之及び、嚴敷吟

殷 昌 期

八七三

附記、二  
強訴徒黨  
逃散ニ關  
スル申令



味之上、頭取之内大膽成致働い者四人を磔、拾貳人を獄門、壹人死罪、差續い者拾三人遠嶋、夫が以下品々御仕置申付、取鎮い者共を白銀被下之、其身一代帯刀永ク苗字御免、其外徒黨強訴之不加者共、逸々御褒美御譽有之い處、當春<sup>○安永六年</sup>信濃之國高井水内兩郡之百姓共、御年貢期月の儀を申立騒立、吟味之上、今般頭取之者貳人を獄門、差續い者六人遠嶋、其以下放追等御仕置相濟、差押不加者共右同様御褒美御譽等有之い、飛驒と信濃の隣國にて、飛驒の御仕置を信濃に承事有之間敷處、何の惡事を致し故の事とのみ存るるよて可有之哉、以の外心得違成事之い。都る願筋を村役人を以て、御料へ御代官、私領へ地頭の訴吟味を可請事にて、勿論御代官地頭非分と存い儀有之い、其筋之奉行所可訴事之い。然を徒黨強訴をれ、たゞひ可立願なるも、其趣意に不拘、頭取不及申、夫々御仕置申付る事之い。御仕置に相成い者、其身を首を被刎、先祖の株を喰ふし、父母妻子の路頭之迷ひい辨も無之、愚昧之任業よて、誠之不便之至之い。畢竟常々村役人共等閑之心得、百姓共の不申教故之儀と相聞間、得と可辨爲爲觸知置條、永ク忘却致間敷者也。

右之通、御料を御代官、私領を領主地頭、村々に相觸、村々にて寫之、高札場名主之宅前或は木戸々々張置、毎月小百姓之迄讀聞セ可申い。<sup>○柳營日記</sup> 西<sup>○安永六年</sup>九月

右之趣可被相觸い。

〔附記、三〕 圍籾停止

十日 <sup>○安永六年</sup>九月<sup>○中略</sup>  
 七日(○安永六年九月)出い書付也。

——明和撰要集

附記、三  
圍籾停止

去ル午年<sup>○安永三年</sup>米直段下直二付、御料所なる淺圍籾被仰付、萬石已上之面々も、分限高壹萬石二付千俵ツ、圍籾被致い様申達い所、追々米相場引上りい付、御料所圍籾之義被差止い間、萬石已上之面々圍籾之儀も、此節勝手次第取計い様可被致い。

西<sup>○安永六年</sup>九月

——柳營日記

〔附記、四〕 淺草米廩修理

十二日 <sup>○安永六年</sup>九月<sup>○中略</sup>

御右筆部屋縁頼

銀五枚。

御勘定吟味役  
大竹 勘右衛門

右之淺草御藏御修復御用相勤い之付被下旨、右近將監<sup>○松平</sup>申渡之。  
 躑躅之間

同(○銀)三枚。

支配勘定  
稻 生 金 八 郎

右同斷之付被下旨、同人申渡之。

——柳營日記

屋鋪受授

九月十四日丙子

<sup>○安永六年(紀元二四三七年)○丙子、三正綜覽</sup>

屋鋪受授有り。

是月

<sup>○安永六年(紀元二四三七年)九月</sup>

尙若干屋鋪ノ受

授ヲ見ル。

<sup>○屋敷書拔</sup>  
<sup>寛政呈請</sup>

屋鋪受授事

屋鋪受授

安永六年九月若干ノ屋鋪受授有り。

安永六丁酉年

殷 昌 期

八七五

附記、四  
淺草米廩  
修理



田沼意次

東京市史稿  
九月十四日渡。狩野榮川拜借地之内  
一、木挽町四百坪

田沼主殿頭○意次

八七六

狩野榮川

但、下屋敷表通南境之内、狩野榮川屋鋪東南河岸之方と振替渡。  
九月十四日渡。御具足師岩井與左衛門岩井源兵衛春田播磨御弓師  
三輪仁兵衛拜借上ヶ地并請負上納上ヶ地共  
一、同所八百三拾八坪餘

狩野榮川

——屋敷書拔

荒尾成壽

成壽○初福之助。久太郎。隱居仕米壽。

中山勝尹  
岡部長保

安永六丁酉年九月日相知不申也。初代荒尾平三郎拜領仕込屋敷牛込赤城明神下坪數四百廿四坪、御小性組  
花房因幡守組中山喜三郎○勝尹拜領屋敷新道壹番丁坪數四百坪、大御番稻葉紀伊守組淺草御藏奉行出役岡部  
半九郎○長保拜領屋敷四ツ谷元御厩近所坪數五百坪と、屋敷三方替、願之通被仰付也。

——寛政呈譜

附記  
吹上山里  
大道通修理

〔附記〕吹上山里大道通修理

廿九日○安永六年九月。

時ふく三。

小普請奉行  
松平大隅守○定得  
御目付  
村上三十郎○正清

同貳。

右吹上山里大道通御修復御用相勤込之付被下之旨、老中列座、右近將監申渡之。

御右筆部屋縁頼

銀十枚。

小普請方  
豊島左兵衛

右同斷之付被下之旨、同人申渡之。

燒火之間

銀五枚。

小普請方改役  
野口與八郎

同。

御目付  
山岡幸七郎

同。

工藤八右衛門

同三枚。

御徒假役  
長澤茂左衛門

同貳枚。

大工棟梁  
小林備後

右同斷之付、酒井石見守申渡之。

——柳營日記

一、同○安永六年九月。廿九日

時服三。

小普請奉行  
松平大隅守

同二。

御目付  
村上三十郎

右吹上大道通御修復御用相勤込之付被下旨、於芙蓉之間、御老中列座、右近將監殿被仰渡之。若年

寄申侍座。

小普請方  
豊島左兵衛

右同斷之付被下旨、於御右筆部屋縁頼、御同人被仰渡之。酒井石見守殿○忠休侍座。——續談海

殷昌期

八七七



廿九日○安永六年九月小普請奉行松平大隅守定得時服三、目付村上三十郎正清時服一襲給はる。是は吹上山里のあたり修理ありしとき、その事掌りしをもてなり。

十月三日乙未○安永六年(紀元二四三七年)乙未、三正綜覽屋鋪若干ヲ相對替ス。是月○安永六年(紀元二四三七年)十月ニ於ケル屋

鋪受授外ニモ有リ。○相對替御書附書拔。屋敷書拔。寛政呈請。

屋鋪受授 安永六年十月屋鋪ノ受授ヲ見タル者、左ノ如シ。  
安永六四年十月三日

周防守殿○松平康禎良阿彌を以御下ゲ、筑前守○久松定徳請取。

御普請奉行○

津田長門守拜領屋敷  
鐵炮洲築地六百坪

加藤伊勢守○明堯に

鶺殿左京拜領屋敷  
同所四百坪

寄合 津田長門守○正文に

右二ヶ所圍入一屋敷ニ成。

石河惣右衛門拜領屋敷  
愛宕下神保小路六百坪

御小性組淺野備前守組  
石河惣右衛門○利運に

仙石幸次郎拜領屋敷  
本所絲町三丁目横町五百坪

同同人組 鶺殿左○長衛

堀縫殿拜領屋敷  
本所二ツ目津輕越中守向千三百九坪之内五百坪

御書院番西郷筑前守組  
堀縫○直芳に

加藤伊勢守拜領屋敷  
下澁谷三千百五拾貳坪之内千三百五拾貳坪

千八百坪

西丸御書院番小堀下總守組  
仙石幸次郎○政廣に

右願之通屋敷相對替被仰付○間、得其意、例之通可被致○。

——相對替御書附書拔

安永六丁酉年

御作事奉行 河野信濃守○安

河野安嗣  
一、本所彌勒寺脇百貳拾貳坪餘  
但、爲添地ニ渡。

河野安嗣  
一、本所彌勒寺脇百四坪  
十月十一日預。瀨名彌三郎上ヶ地割殘

御作事奉行 河野信濃守○安  
預地。

正木庸恒  
一、四谷追分五十人町百坪  
但、爲添地ニ渡。

大目付 正木志摩守○庸

正木庸恒  
一、同日預。同斷割殘地  
同所四拾五坪

右 同 永預地。

倉橋員尉

一、小石川指谷町三百三拾九坪餘  
十月廿八日渡。服部平次郎上ヶ地

御勘定吟味役 倉橋與四郎○員

村垣軌文

一、本所御臺所町貳百四拾四坪  
十月廿八日渡。大久保政次郎上ヶ地

御賄頭 村垣左太夫○軌

但、松島町屋敷差上○爲代地ニ渡。

——屋敷書拔



良誠 池原長仙院。玄伯法印。

安永六四年十月廿三日拜領屋敷無御座ハニ付、本所三ツ目飯室八郎兵衛上り地奉願、同月○安永六晦日格別之譯、下谷久保平十郎屋敷家作共賜之。

大久保忠真

忠真 平十郎  
○大久保

安永六四年十月晦日愛宕下居屋敷御用ニ付家作共被召上、替屋敷表六番町松田河内守上り屋敷家作共拜領。  
——寛政呈譜

附記

〔附記〕 處罰

廿一日 ○安永六年  
十月 ○中略

一、今晚左之通御仕置被仰付。

申渡之覺

大御番高木主水正組  
飯室八郎兵衛 ○昌  
西六十四

其方儀、當四月四日五日 ○安永六年 兩夜、悴飯室八郎左衛門義、人集、御法度相背、○昌 〆博突ハハをも

不存罷在、其上同 ○安永六年 七日妻之妹カウ義、六日 ○安永六年 晚八郎左衛門住居ニ物騒義有之相尋ハ得

之、盜賊這入ハ由申聞ハ段申ハ故、右八郎左衛門を居間ハ呼相ハ糾ハ所、五日 ○安永六年 之夜松田百次郎方

〆參咄罷在、金子貳分借吳ハ様無心ハ故、難用立ハ旨及斷ハを致立腹、惡言申、足ニ〆八郎左衛門

肩を兩度迄蹴ハ間、不得止事脇差ニ打留、右死骸樽ハ入、土藏脇ハ埋置ハ段申聞ハ得之、得ト様

子承糾相届ハ様可致所、右始末申立ハ〆〆、八郎左衛門身分難相立存ハ迎、押隠シ罷在、伊織并服部友三郎大岡與惣右衛門罷越相糾ハ節も、其方ニ〆百次郎及變死ハ儀決ル無之申達、書付迄差出押隠シ罷在ハ段、御後闇仕方、旁御旗本之身分ニ有之間敷不届之至ニ〆。依之遠島被仰付者也。

八郎兵衛悴  
飯室八郎左衛門  
西廿四

其方儀、當四月四日 ○安永六年 青山權之介松田伊織宮川佐右衛門咄シ罷在、徒然ニ罷在ハ迎、河田宇右衛門方ノ子共手遊ニ拵置ハ由ニ得共、〆博突ハ之品借寄、御法度相背、一同之手合ニ加り、二三錢賭之、〆博突ハ致、翌五日 ○安永六年 之夜同様右之者并松田百次郎荒川七之助日根野五郎吉追々罷越、〆博突ハ〆し、何を罷歸、百次郎一人居殘罷在、右博突ハ之節借用之金子貳朱判六片相返ハ得共、貳朱判四片又々借吳ハ様、百次郎ハ無心申聞ハ所、及斷ハを是非借吳可申ハ由再應申ハ事起り、百次郎立服ハたし、足ニ〆肩を兩度迄蹴、其上惡言申、其分ニ致かハく、併脇差取立向ハハ、品ニ寄仕損可被留留哉も難計存、玄關ニ有之ハ眞木割之頭ニ〆、聲を不懸百次郎百會を打、乍聲立倒、落命不致ハ所持之脇差を以首を切、右死骸四斗樽ニ入、屋敷内ニ埋置、其上百次郎所持之たむ〆入有之ハ貳朱判并眞鍮錢取隠シ置遣捨ハ段、旁御旗本之悴身分ニ有之間敷始末、重々不届之至ニ〆。依之斬罪被仰付者也。

市郎左衛門惣領  
松田伊織 ○直  
西四十三

其方儀、當四月四日五日 ○安永六年 兩日飯室八郎兵衛方ハ罷越、同人悴飯室八郎左衛門青山權之助并其方



弟百次郎荒川七之助日根野五郎吉宮川佐右衛門手合ニ加リ、御法度相背、おほ博奕、其上右五日之夜、追々手合之者罷歸、百次郎壹人相殘、同夜曉飯室八郎左衛門と及口論、百次郎殺害逢い段、專風聞も有之い趣、得と相糺申立も不致、出奔届致差置い段、旁御旗本之忤身分ニ有之間敷不届之至い。依之遠島被仰付者也。

大御番本多淡路守組甚五郎弟

日根野 五郎 吉○弘

西○四 西○四

其方儀、當四月五日○安永、夜飯室八郎兵衛方い罷越、松田百次郎荒川七之助青山權之助宮川佐右衛門

罷在、跡お松田伊織參り、八郎兵衛忤飯室八郎左衛門一同手合ニ加リ、おほ博奕いし罷在、八郎左

衛門其方儀も手合ニ加リい様任申聞い、七之助お眞鍮錢借請手合ニ加リ、おほ博奕いし、い俵れも

罷歸、百次郎壹人居残り、八郎左衛門と金子借貸之義より事起り、八郎左衛門義百次郎を殺害致し始

末ニ罷成い段、旁御旗本之弟之身分ニ有之間敷、不届之至い。依之遠島被仰付者也。

小普請小笠原彦太夫支配源右衛門忤

荒川 七之助

西○八

其方儀、當四月五日○安永、飯室八郎左衛門方い咄參い様申越罷越い所、松田百次郎青山權之助宮川佐

右衛門も罷在、八郎左衛門慰いお博奕可致と申い所、致同意手合ニ加リ、おほ致博奕、日根野五

郎吉松田伊織義も追々參り、持合無之旨申い迎、右兩人い眞鍮錢貸遣し、是又手合ニ加リ、御法度相

背、一同博奕いし、且居殘罷在い百次郎義、八郎左衛門と金子借貸之義お事起り及口論、八郎左衛

門義百次郎ヲ殺害致い始末罷成い段、畢竟右躰之博奕有之い故之儀、御旗本之忤身分ニ有之間敷

不届之至い。依之遠島被仰付者也。

大御番稻垣長門守組

河田 三郎 左衛門○直

西○七 西○七

其方儀、大御番松田市郎左衛門忤松田伊織方お同人召仕女いの同娘ちよ兩人共ニ預りい節、伊織弟松

田百次郎及變死い取沙汰之義申聞、養育之義申談、承知之上、其方い引取置い所、頭稻垣長門守お相

尋い節、百次郎變事之義い成義も不相知いニ付、子細難書入い故、何故と申義も無之引取い段、相

違之書付差出、其上右いの義、當六月朔日○安永、男子出生いし、同○安永、三日之夜伊織義揚り座敷

に差遣い所、同○安永、六日ニ至出產致い義お頭い相届い段、延引之至、旁不束之至い。依之御番

御免、小普請入差控被仰付者也。

大御番本多淡路守組

松田 市郎 左衛門○直

西○六 西○六

其方儀、二條在番留守中、當四月四日○安永、之夜、物領松田伊織義、大御番飯室八郎兵衛方い參り、

同人忤飯室八郎左衛門申聞いニ同意致、外手合之者一同、御法度相背、おほ博奕いし、翌五日

○安永、之夜伊織并次男松田百次郎共罷越、其外手合之者共一同右同様致博奕、何を追々罷歸、百次郎

一人居殘咄し罷在、金子貸借之義お事起り、八郎左衛門と及口論、百次郎殺害之逢い段、御旗本忤共

身分有之間敷行跡、畢竟常々忤共い申付方等閑故之義、不埒之至い。依之差控被仰付者也。

三郎左衛門孫

河田 宇右衛門○親

西○一 西○一

其方儀、祖父河田三郎左衛門召仕い侍平瀬文治細工致、弟河田長之助い手遊ニ遣い品之由い得



共、おの博突之用品之心得、右躰之品自分部屋之も差置間敷所、無其儀、殊當四月四日○安永六年之夜、飯室八郎左衛門方のお板貸吳の様申越心得、博突之用品之心上、及斷貸遣し申間敷所、入用之譯も不承糺、毛氈之包使ニ貸遣し、既ニ右品之る八郎左衛門其外手合ニ加り、おの博突いし、其上八郎左衛門と松田百次郎金子貸借之義及口論、百次郎殺害始末之罷成段、畢竟右之品貸遣い事起り、御旗本之孫之身分之有之間敷義、不届之至い。依之輕追放被仰付者也。

——柳營日次記

屋鋪受授

十一月三日乙丑

○安永六年(紀元二四三七年)○乙丑、三正綜覽

屋鋪受授有り。外ニ是月

○安永六年(紀元二四三七年)十一月

若干屋鋪ヲ

受授ス。○屋敷書拔

屋鋪受授事蹟

安永六年十一月左ノ屋鋪ヲ受授ス。

安永六丁酉年

千賀道隆

十一月三日渡。足田二三郎上ケ地之内

奥醫師 千賀道隆

千賀道隆

十一月三日渡。足田仁三郎上ケ地割殘

奥醫師 千賀道隆拜借地

新庄直宥

十一月六日渡。服部又四郎上ケ地

大目付 新庄能登守○直宥

松田貞居

十一月六日渡。飯室八郎兵衛上リ屋敷

小普請組仙石彌兵衛支配 松田河内守○貞居

但、爲添地ニ渡。

但、裏六番町屋敷家作共差上い爲代地、家作共渡。

大久保忠真

十一月八日渡。松田河内守上ケ屋敷

御小性組水野河内守組 大久保平十郎○忠真

但、愛宕下屋敷家作共差上い爲代地、家作共渡。

池原雲伯

十一月十二日渡。大久保平十郎上ケ屋敷

奥醫師 池原雲伯

但、建家道具植木石共渡。

八橋武助

十一月廿日渡。寺石喜之助上ケ地

西丸切手御門番同心 八橋武助

今井市兵衛

同日渡。安藤金五郎上ケ地

御留守居同心 今井市兵衛

菊地巳之助

十一月廿五日渡。井上安之助上ケ地

西丸切手御門番同心 菊地巳之助

小野安右

同日渡。田中長右衛門上ケ地

西丸御納戸同心 小野安右衛門

伴八郎右

十一月廿八日渡。今泉次郎吉上ケ地

御天守番 伴八郎右衛門

附記  
請托ヲ禁ス

〔附記〕 請托ヲ禁ス

十七日 ○安永六年十一月○中略

一、左之御書付、板倉佐渡守○勝清被相渡い。

大目付い。

殷昌期



奥向之面々、奉行役人の訴訟人願人等之義頼ミケ間敷事無之様ことの段へ、前々心得有之事之心得共、若左様之義も有之に歟、且又老中若年寄其外御役人之家來等願人等之事二付る、頼ケ間敷義之いへ、老中又之支配迄無遠慮可被申聞い。右之趣可申達い。御沙汰も有之付る申達い。此段可被申通い。

右之通度々相達い得共、心得違も有之様なるを如何に問、猶又相達い條、其段可被申通い。

十一月○安永六年

——柳營日記

屋鋪受授

十二月八日庚子

○安永六年(紀元二四三七年)○庚子、三正綜覽

屋鋪ヲ受授ス。外ニ若干屋鋪同ク是月○安永六年(紀元二四三七年)十二月

月ノ受授ニ係ル。

○屋敷書拔。寛政呈譜。相對替御書附書拔。

屋鋪受授事蹟

屋鋪受授ノ安永六年十二月ヲ以テ行ハレタル者ハ、

安永六丁酉年

豐島左兵衛

十二月八日預。坂入半平上ケ地。一、駿河臺下昌平橋内横町百三拾九坪餘

但、大久保尾張殿上ケ地之内屋敷差上ハ爲代地渡。

一、十二月十六日預。須藤安五郎上野恒次郎上ケ地。一、青山百人町末横町貳百坪

安永七戌年十月八日須藤安五郎上ケ地百坪、渡邊字右衛門屋敷ニ渡。恒次郎拜借上ケ地是迄之通兩人預

阿川權八

置。

小普請方 豐島左兵衛  
同石河土佐守組 預地  
石原八郎左衛門  
小普請組長谷川理十郎組 權八  
阿川 權八  
同永井監物組 三田平兵衛  
三田平兵衛 預地

三田平兵衛

石原八郎左

一、十二月廿一日預。尾張殿上ケ地之内豐島左兵衛引替上ケ地。一、大久保三百三拾九坪餘

利置 亦次郎。忠次郎。○土屋。

同○安永六酉年十二月廿四日三方屋敷替願之通被仰付。

飯田町火消屋敷土屋忠治郎屋敷に。

九百九拾坪餘。

麴町元山王渡邊伊三郎屋敷に。

七百八拾坪餘。

濱町袋町牧野助十郎屋敷に。

五百坪。

右之通御座い。以上。

秀實 内記。初佐次郎。○竹川。

元居屋敷四ツ谷千駄ヶ谷之四百坪之場所、何代目之に哉年月日不知拜領仕い處、内記秀實大御番杉浦出

雲守組之節、安永六酉年十二月日不知願之通小普請組支配姓名不知成田勝五郎○正屋敷麻布白銀御殿跡

三百坪之場所、相對替被仰付段、御老中御姓名不知杉浦出雲守申渡い旨申傳い。

廣通 河野吉十郎。

居屋敷賜い年號月日不知下谷長者町壹丁目祖父信濃守○安御作事奉行動之内、安永六酉年本所六軒堀添地

賜、天明三卯年一柳勘之丞切坪替、右屋敷明和九辰年目黒出火類焼、替地地名本文之無し。月日かし。

——寛政呈譜

殷昌期

八八七

河野安嗣

成田正兼

竹川秀實

渡邊直

土屋利置

牧野正和

同○安永六酉年十二月廿四日三方屋敷替願之通被仰付。

飯田町火消屋敷土屋忠治郎屋敷に。

九百九拾坪餘。

麴町元山王渡邊伊三郎屋敷に。

七百八拾坪餘。

濱町袋町牧野助十郎屋敷に。

五百坪。

右之通御座い。以上。

秀實 内記。初佐次郎。○竹川。

元居屋敷四ツ谷千駄ヶ谷之四百坪之場所、何代目之に哉年月日不知拜領仕い處、内記秀實大御番杉浦出

雲守組之節、安永六酉年十二月日不知願之通小普請組支配姓名不知成田勝五郎○正屋敷麻布白銀御殿跡

三百坪之場所、相對替被仰付段、御老中御姓名不知杉浦出雲守申渡い旨申傳い。

廣通 河野吉十郎。

居屋敷賜い年號月日不知下谷長者町壹丁目祖父信濃守○安御作事奉行動之内、安永六酉年本所六軒堀添地

賜、天明三卯年一柳勘之丞切坪替、右屋敷明和九辰年目黒出火類焼、替地地名本文之無し。月日かし。

——寛政呈譜



安永六酉年十二月廿五日

右近將監殿○松平 順阿彌を以御下ケ、筑前守○久松 受取。

御普請奉行○。

岡野久明

吉松伊兵衛拜領屋敷  
市ヶ谷加賀屋敷三百拾九坪

吉松正音

岡野權次郎拜領屋敷  
糶町貝坂六百拾六坪

田村幸忠

津金助右衛門拜領屋敷  
新道一番町貳百五拾坪

津金胤幾

田村藤太夫拜領屋敷  
北本所三四橋四百貳拾坪

深津正房

高林主馬拜領屋敷  
糶町四丁目樹木谷五百三拾六坪

高林昌盈

深津伊織拜領屋敷  
四谷内藤宿新屋敷九百坪之内五百坪

野々山兼有

竹内主計拜領屋敷  
北本所南割下水二ツ目三ツ目之間九百四拾三坪

竹内幸嵩

野々山彌吉拜領屋敷  
本所石原龜戸通吉岡町四百五拾坪

加藤安當

小川伊兵衛拜領屋敷  
巢鴨仲町貳百拾五坪餘

小川伊兵

加藤八郎右衛門拜領屋敷  
小石川鷹匠町貳百拾貳坪

神谷義著

三澤又左衛門拜領屋敷  
小日向築地貳百五拾貳坪

三澤信以

神谷豊之進拜領屋敷  
三田狸穴元御用屋敷之内貳百三拾六坪

長尾景親

淺羽左次郎拜領屋敷  
土手四番町四百坪

淺羽幸孝

長尾庄右衛門拜領屋敷  
大久保新道七百五拾六坪

山角定周

成田勝五郎拜領屋敷  
麻布白銀御殿跡三百坪

大塚友直

竹川内記拜領屋敷  
四谷千駄ヶ谷四百坪

附記、一  
關東川筋  
堤川除等  
普請

山角文右衛門拜領屋敷  
麻布善福寺前五百三拾坪

右願之通屋敷相對替被仰付、以間、得其意、例之通可被致也。

〔附記、一〕 關東川筋堤川除等普請

殷 昌 期

八八九

西丸御小性組森川下總守組  
岡野 權 次郎○

御幕奉行  
吉松 伊兵衛○

御書院番澁谷隱岐守組  
田村 藤太夫○

同會我若狹守組  
津金 助右衛門○

同齋藤伊豆守組  
深津 伊織○

小普請組仙石彌兵衛支配  
高林 主馬○

西丸御書院番水野伊勢守組  
野々山 彌吉○

大御番石川阿波守組  
竹内 幸嵩○

西丸新御番松平但馬守組  
加藤 八郎右衛門○

御徒目付  
小川 伊兵衛○

御腰物方  
神谷 豊之進○

小普請組戸川山城守支配  
三澤 又左衛門○

大御番本多淡路守組  
長尾 庄右衛門○

小普請組戸川山城守支配  
淺羽 左次郎○

大御番杉浦出雲守組  
竹川 内記○

小普請組小笠原彦太夫支配  
成田 勝五郎○

大御番久留島信濃守支配  
山角 文右衛門○

——相對替御書附書拔



十一日 ○安永六年十二月

躑躅之間

金廿兩ツ。

支配勘定

荻野伴右衛門

橋爪領介

右に關東筋堤川除樋橋惠水路等御普請爲見分御用罷越ひ二付被下旨、右近將監○松平武元申渡之。

——柳營日記

附記、二  
城門通行

〔附記、二〕 城門通行制

廿六日 ○安永六年十一月○中略

一、左之通御書付、酒井石見守○忠休被申渡之。

御目付之。

所々御門ニ夜中女乗物通し方、區々相聞之。不審成義も於有之、女乗物之勿論、其外町駕籠女乗物之無之分、切手差出之、駕籠之内相改之不及、切手通りニ相通之様可致之。

右之通、所々御門々々可被相心得之。

——柳營日記

社寺地異動

是年 ○安永六年(紀元二四三七年) 社寺地異動若干有リ。

○地子古跡寺社帳。除地古跡寺社帳。拜領地古跡寺社帳。古跡寺社帳。御朱印地寺社帳。御朱印拜領地寺社帳。

社寺地異動

社寺地異動 安永六年中社寺地ニ異動有リタル者ヲ擧ク。

下高輪八幡社

下高輪八幡社 社地内ニ貸家ヲ建ツ。

下高輪八幡別當

除地 八幡社地百貳拾七坪。

天台宗

安泰寺

右相願之、八幡社地之儀へ、安泰寺境内より壹町餘相離れ、平日參詣等も無之、不用心ニ心得共、貧寺故宮守等附置儀も難相成、且社爲修復、西之方園内、梁間貳間、桁行六間、貳階家瓦葺作事いたし、當酉年○安永六年より來る未年○天明七年まで中年拾年季貸家いたし、家守附置度旨願出之。且右社地除地九拾坪と有之、坪數相違ニ付、相糺之處、元祿八亥年織田越前守檢地之節、四畝七步之繩請ニ相成、百貳拾七坪之除地ニハ處、其節社方へ不届出儀ニ可有之段、安泰寺申之付、伊奈半左衛門方を糺相糺之處、水張之面相違無之旨申立之付、隣寺所之者へも相尋之處、障儀無之旨證文差出之付、貸家作事之儀、願之通差免、尤町屋ケ間鋪見之商等不爲致、紛敷もの差置不申、年季明之ハ勿論、年季内たり共家作取崩之ハ可相届旨、安泰寺へ證文申付、社方張面張紙仕由、土岐美濃守○定經より印形之斷手紙を以て申越之。依之安永六丁酉年八月十七日申上、御帳面張紙仕之。

——地子古跡寺社帳

愛敬稻荷社

愛敬稻荷社 貸地承繼。

市ヶ谷田町

除地稻荷社地 境内三百五十一坪。

新義真言宗

藏院

右相願候之、境内北東之方明地四拾五坪之場所、町人山田屋藤八申者ニ明和四亥年○安永六年當酉年○安永六年迄十年季致貸地度旨、久世出雲守社勤役中相願差免候處、年季明候付、有來之家作藤八近江屋平左衛門と申者ニ其儘相讓、右地面又候當酉年○安永六年來ル未年○天明七年迄中年十年季平左衛門ニ致貸地度旨願出候



付、遂吟味、近處屋鋪之者エも相尋候處、障儀無之ニ付、願之通差免、尤町屋ケ間鋪見之商等ハ不及申、又貸等不爲致、紛敷者差置不申、年季明候ハ勿論、年季内ニるも致返地候ハ可相届旨、教藏院エ證文申付、寺社方帳面張紙仕候由、戸田因幡守ノ印形之斷手紙ヲ以申越候。依之安永六丁酉年十一月廿五日申上、御帳面張紙仕候。

——除地古跡寺社帳

牛込八幡社

牛込八幡社 貸家續承。

拜領地 境内八拾間四方。

東叡山末 牛込八幡別當 天台宗 無量寺

内、三拾六坪。御用地之上り代地護國寺後大塚。

門前町屋 東門前町屋、兩頬北へ折廻間口百四間五尺五寸。南門前町屋西へ折廻し、間口五拾間五尺。右相願い、境内西之方明地表之内拾貳間奥行六間都合七拾貳坪之場所、表通竹垣いたし、垣内三尺引込、梁間貳間桁行六間表三尺之庇裏壹間之下家を附、貳棟、同所梁間貳間桁行六間貳棟出入口三ヶ所宛明、右平瓦葺致家作、明和四亥年より當酉年<sup>○安永六年</sup>迄中年拾年季致貸家度旨、久世出雲守寺社勤役中願出、願之通り差免い處、年季明いニ付、又々前書之通當酉年<sup>○安永六年</sup>より來る未年<sup>○天明八年</sup>迄中年拾年季貸家致し度段相願いニ付、遂吟味、隣寺所之者へも相尋い處、障儀無之旨、證文差出いニ付、願之通差免し、右場所町屋ケ間敷作事之不及申、又貸等不致、年季明いハ勿論、年季之内ニるも地所相返しハ可相届旨、無量寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕候由、戸田因幡守より印形之斷手紙を以て申越い。依之安永六丁酉年五月廿五日申上、御帳面張紙仕候。

——御朱印地寺社帳

諏訪明神社

諏訪明神社 貸家建繼。

御朱印地 一、境内貳千五百八拾七坪。

田端興樂寺末 諏訪明神別當 日暮里 新義眞言宗 淨光寺

千三百八拾坪 社地。

五百拾坪 畑地。

六百九拾七坪 寺地。

右相願い、境内社地左右并ニ後通り圍淺無之不用心ニ付、西之方梁間貳間桁行七間半之平家六ヶ所、東之方梁間貳間桁行貳間半之平家五ヶ所、右何れも茅葺、前通り三尺之庇、後通り三尺之下家柿葺、通りより三尺引込致家作、西より北へ折廻し、表通り高サ五尺之竹垣いたし、西之方ニる入口五ヶ所明ヶ、明和四亥年より當酉年<sup>○安永六年</sup>迄中年拾年季地所家作とも貸附中度段願出差免置い處、年季明いニ付、右拾壹棟之内七棟建後れ、外壹棟此度返地いたし、家作取拂い得共、右八棟共追て建繼、當酉年<sup>○安永六年</sup>より來る未年<sup>○天明七年</sup>迄中年拾年季貸續度旨願出いニ付、遂吟味、隣寺所之者へも相尋い處、障儀無之段證文差出いニ付、願之通差免、尤町屋ケ間敷見之商等不爲致、紛敷もの差置申間敷、年季明いハ勿論、年季之内ニるも地所相返しハ可相届旨、淨光寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕候由、土岐美濃守<sup>○定經</sup>より印形之斷手紙を以て申越い。依之安永六丁酉年十二月五日申上、御帳面張紙仕候。

小野照崎社 貸家再建。

東叡山末

下谷坂本 小野照崎大明神別當 天台宗 嶺照院

除地 社地境内三百廿坪。

殷昌期

小野照崎社



除地  
社領町並地百廿坪。

右相願候之、嶺照院社地ノ内、南之方裏門通三間梁前後一間宛之庇附、桁行十二間家相建、店數六二仕切、明和四亥年より當酉年<sup>○安永六年</sup>迄貸家之儀、久世出雲守寺社勤役中願出差免候處、明和九辰年右家作不殘致類焼、其後助成ニも不相成候間、家作之儀不相願、此度年季明候ニ付、明地ニいゝし度旨届出候間、遂吟味、隣寺所ノ者エも相尋候處、障義無之ニ付、届ノ趣承置、嶺照院エ證文申付、寺社方帳面張番仕候間、戸田因幡守ノ印形之斷手帛ヲ以申越候。依之安永六丁酉年十二月十四日申上、御帳面張紙仕

——除地古跡寺社帳

橋場神明社

橋場神明社 鳥居改建、並ニ寺社帳改訂。

橋場  
神主

部

一、先規<sup>除之</sup>、當地神明不知年數。

一、宮地表五間十六間。表ニ三十六間。

同 所

一、年貢地、當地不知年數。

一、表貳拾貳間。裏ニ貳拾八間。右兵部居地。

橋場神明神主

鈴木

兵部名  
大領

差置地

神明社地 表三十六間、裏行五十五間。

神主居地 表三十八間、裏行二十二間。

内、<sup>表拾間、裏行二十二間。</sup>居地、有來稻荷地面。

右外拾石壹斗耕地。

右相願之、神主居地有來候稻荷木鳥居高サ一丈三尺開キ九尺之處、及大破候間、有來之通ニ此度石鳥居ニ建替度段願出候ニ付、遂吟味、處之者ニも相尋候處、障義無之旨證文指出候間、願之通去申九月差免候、其節印狀ヲ以可申候處、社地表裏間數是迄相違ニ付、書面之通相直、且鈴木兵部地面之儀不分明ニ相糺、桑原能登守エも掛合候處、伊奈半左衛門方ニ書面之通取扱候旨、此度申聞候。依之居地表裏間數相直、寺社方帳面張紙仕候由、太田備後守ノ印形之斷手帛ヲ以申越候。依之安永六丁酉年十二月十四日申上、御帳面張番仕候。

——除地古跡寺社帳

大安寺

大安寺 門建造。

古跡年貢地  
境内三百八拾坪。

曹洞宗

大

寺

外ニ參拾七坪 寄進地。

右相願之、寛保二戌年致類焼、門假作事ニ差置候處、此度門高サ七尺明キ六尺五寸兩扉潛り附腕木門ニいたし、棧瓦葺、先規之通り作事いたし度段願出候付、遂吟味、隣寺并ニ所之者ニも相尋候處、障義無之ニ付、願之通り差免し、大安寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕候由、土岐美濃守<sup>○定</sup>より印形之斷手紙を以て申越候。依之安永六丁酉年八月三日申上、御帳面張紙仕候。

——地子古跡寺社帳

大信寺

大信寺 地所貸繼。

般 昌 期



拜領地  
牛込御簞笥町百貳拾壹坪五合。

増上寺末  
淨土宗 牛込 大 信 寺

右相願ひて、拜領地牛込御簞笥町表間口六間四尺五寸裏行拾八間此坪數百貳拾壹坪五合、明和三戌年より去る申年迄中年拾年季町人代助へ貸地貸家いたし度段、松平伊賀守 寺社勤役中願出、吟味之上差免置い處、年季明い二付、又い右代助へ去る申年○安永五年より來午年○天明六年迄中年拾年季貸地貸續相願ひ二付、遂吟味、隣寺所之者へも相尋い處、障儀無之旨證文差出い二付、願之通り差免、尤又貸等爲致間敷、年季明いハハ勿論、年季之内たり共致返地いハハ可相届旨、大信寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕由、太田備後守より印形之斷手紙を以て申越い。依之安永六丁酉年正月廿三日申上、御帳面張紙仕い。

——古跡寺社帳

金剛寺

貸地。

拜領地  
境内六千四百四拾八坪。

駒込吉祥寺末  
小日向  
曹洞宗 金 剛 寺

門前町屋惣間口間敷東南折廻し五拾六間貳尺。

右境内六千四百四拾八坪之内、表間口拾貳間奥行南之方七間半北之方八間都合九拾三坪、去る未年○安永四年より來る巳年○天明五年迄中年拾年季齋藤權太郎家來大橋道右衛門へ貸地致し度旨、土屋能登守 寺社勤役中相願差免置い處、いまだ年季之内い得共、致返地、有來之家作表通道より三尺引込致竹垣、桁行四間梁間貳間之長屋貳棟、中二入口九尺之木戸附、裏桁行四間之梁間貳間之居宅、貳間之九尺之勝手壹ヶ所、同桁行四間半梁間貳間之物置壹ヶ所、同間口八尺奥行壹丈之土藏壹ヶ所所有之い處、地代金之方之受取、右家

玉林寺

貸地承續。

御朱印拜領地  
境内百拾貳間、裏へ九拾五間。

駒込吉祥寺末  
曹洞宗 谷 中  
玉 林 寺

作此度表通り三尺之庇を懸入口四ヶ所明、小石川富坂新町町人清兵衛へ建家致壹居二、右地面當酉年○安永六年より來る未年○天明七年迄中年拾年季貸地いたし度旨願出い二付、遂吟味、隣寺所之者へも相尋い處、障儀無之二付、願之通差免、尤又貸等不爲致、年季明いハハ勿論、年季之内も返地いたしハハ可相届旨、金剛寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕由、戸田因幡守より印形之斷手紙を以て申越い。依之安永六丁酉年九月十日申上、御帳面張紙仕い。

——古跡寺社帳

門前町屋惣間口合四拾間貳尺。  
内、門右之方拾八間貳尺。

西之方拾八間。  
寺向南之方四間。

右之外 境内東之方町屋。

間口拾四間半。裏行貳拾六間。

右相願ひて、境内北東之方表間口拾六間裏行三拾壹間四百九拾六坪之場所、日蓮宗祈禱者壽宣院と申僧へ、明和四亥年より中年拾年季貸地相願、當酉年○安永六年年季明い二付、又々當酉年○安永六年より來る未年○天明七年まで中年拾年季貸地貸續いたし度段、願出い二付、遂吟味、隣寺所之者へも相尋い處、障儀無之旨、證



文差出い付、願之通り十年季貸地差免、寺院ケ間敷作事又貸等堅く不致、尤紛敷者不差置、年季明いハ、勿論、年季内之るも於致返地之可相届旨、玉林寺并ニ壽宣院へ證文申付、寺社方帳面張紙仕由、牧野豊前守○貞より印形之斷手紙を以て申越い。依之安永六丁酉年十一月十四日申上、御帳面張紙仕由。

——御朱印地寺社帳

養福寺

養福寺 貸家ヲ繼續ス。

除地  
境内貳千坪。

田端東覺寺門徒  
日暮里  
新義眞言宗 養福寺

右相願い之、本堂其外修復助成且表門往還故、度々捨物等有之、致難儀い間、表ノ南エ梁間二間桁行三間半之平家二ヶ所、表門ノ裏門迄梁間二間桁行五間之平家二ヶ所、裏門ノ北エ梁間二間桁行八間之平家三ヶ所、都合七棟、茅葺い之、前通三尺之庇、後通三尺之下家、不殘柿葺、高サ五尺ノ致竹垣、入口五ヶ所明、垣ノ三尺引込致家作、明和四亥年ヨリ當酉年○安永迄中年十ヶ年地所家作共貸付度旨願出、差免置い處、年季明二付、又々當酉年○安永ノ來ル未年○天明迄中年十年季貸續、右ノ内二ヶ所建後い間、是亦建繼度旨相願い之付、隣寺處之者エも相尋い處、隣儀無之段、證文差出い間、願之通差免、町屋ケ間敷見セ商等不爲致、紛敷者差置申間敷、年季明いハ、勿論、年季ノ内ニるも地所相返いハ、可相届旨、養福寺エ證文申付、寺社方帳面張紙仕由、土岐美濃守○定ノ印形之斷手紙ヲ以申越い。依之安永六丁酉年十二月五日申上、御帳面張紙仕由。

——除地古跡寺社帳

藥王寺

藥王寺 門建造。

一、野村彦太夫手代玉井八郎除之。  
寺地藥師堂不知年敷。

同所(○下谷)  
本寺東叡山  
天台宗 藥王寺

一、堂内三十間四方内五畝八步年貢地。  
一、門前町屋棚拾三軒。

除地  
境内三拾間四方。

東叡山末  
下谷箕輪  
天台宗 藥王寺

内、五畝八步年貢地。  
門前店十三軒。

右相願い之、寶曆九卯年表門類燒假門い之し置い處、及大破い間、間口六間ノ場所、横明八尺堅六尺兩扉附假矢來門い之し、左右板塀、北之方八尺、南ノ方三間二尺之内、堅三尺横二尺五寸ノ闕り附、作事い之し度旨相願い付、遂吟味、隣寺處之者エも相尋い處、障儀無之之付、願之通差免、藥王寺エ證文申付、寺社方帳面張紙仕由、土岐美濃守○定ノ印形之斷手紙ヲ以申越い。依之安永六丁酉年十一月廿九日申上、御帳面張紙仕由。

——除地古跡寺社帳

誓教寺

誓教寺 貸家繼承。

拜領地  
境内六百五拾壹坪。

京知恩院末  
淺草新寺町  
淨土宗 誓教寺

右相願い之、境内西之方間口八間奥行六間之處、表通り下水際竹垣いたし、三尺引込、梁間貳間桁行八間

殷昌期

八九九



表二三尺之庇裏ニ壹間下家附、入口四ヶ所明、二階家瓦葺ニいたし、寶曆十二年より明和九辰年迄中年拾年季貸家貸地いたし度段、毛利讃岐守寺社勤役中願出、願之通差免置ハ處、明和九辰年類焼後、家作も無之ニ付、年季明ハ得共不心附届後れハ旨申出ハ間、吟味之上、不念之段急度叱リ置、届後れ之儀ニ承置、此度類焼以前之通り家作いたし、當酉年<sup>○安永六年</sup>より來る未年<sup>○天明七年</sup>迄中年拾年季貸家いたし度段、願出ハニ付、遂吟味、隣寺所之者へも相尋ハ處、障儀無之ニ付、願之通り差免、紛敷もの不差置、年季明ハハ勿論、年季内たりとも家作取崩ハハ可相届旨、誓教寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕ハ由、太田備後守より印形之斷手紙を以て申越ハ。依之安永六丁酉年八月三日申上、御帳面張紙仕ハ。

——古跡寺社帳

玉泉寺

玉泉寺 貸家承續。

古跡拜領地 境内四百八拾坪餘。

日蓮宗 淺草 玉泉寺

右相願ハ、境内表通門より西之方明地、境内際より三尺引込、高サ四尺之生垣いたし、梁間貳間桁行六間半前二三尺之庇後へ壹間之下家附、三尺之入口貳ヶ所明、二階家平瓦葺家作いたし、明和四亥年より當酉年<sup>○安永六年</sup>迄中年拾年季貸家いたし度旨、久世出雲守寺社勤役中願出、願之通差免ハ處、去る明和九辰年二月中境内建家不殘右之貸家も致類焼ハニ付、其節訴出ハ通り、今以小屋拂假作事ニ罷在ハ處、年季明ハニ付、又々前書之通當酉年<sup>○安永六年</sup>より來る未年<sup>○天明七年</sup>迄中年拾年季貸家貸續度段相願ハニ付、遂吟味、隣寺并ニ近所町人共へも相尋ハ處、障儀無之旨、證文差出ハニ付、願之通り差免、尤町屋ヶ間敷見々商等不爲致、紛敷者差置申間鋪、又貸等不致、年季明ハハ勿論、年季内たり共家作取拂ハハ、早速可

相届旨、玉泉寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕ハ由、戸田因幡守より印形之斷手紙を以て申越ハ。依之安永六丁酉年七月十七日申上、御帳面張紙仕ハ。

——古跡寺社帳

威光院

威光院 門其他建營。

古跡拜領地 境内七百四坪。

愛宕圓福寺末 淺草新寺町 威光院

右相願ハ、明和九辰年類焼後、假門ニ差置ハ處、此度類焼以前之通り、冠木門高サ壹丈三尺明キ九尺兩扉北之方三尺ニ高サ七尺之潛附、屋根棧瓦葺北之方明キ三尺之水波通用門明ケ、表通り門より北之方拾三間五尺、南之方六間四尺之所、火除之爲土塀作事いたし度段相願ハニ付、遂吟味、隣寺へも相尋ハ處、障儀無之ニ付、願之通差免、威光院へ證文申付、寺社方帳面張紙仕ハ旨、戸田因幡守より印形之斷手紙を以て申越ハ。依之安永六丁酉年三月十日申上、御帳面張紙仕ハ。

——拜領地古跡寺社帳

淨念寺

淨念寺 貸家續繼。

拜領地 境内貳千百貳拾五坪。

淨土宗 淺草 淨念寺

右相願ハ、本堂大破ハニ付、修復爲助成、境内表門西之方間口拾貳間五尺奥行六間五尺之處へ、梁間貳間半桁行六間貳尺壹棟、梁間貳間半桁行五間壹棟、表門東之方間口拾間三尺奥行七間之所へ、梁間貳間半桁行拾間三尺壹棟、裏門東之方間口拾四間奥行九間五尺之所へ、梁間貳間半桁行三間壹棟、梁間貳間半桁行四間半壹棟、梁間貳間半桁行四間壹棟、何れも前通り三尺之庇後壹間通之下屋附、右裏通下水より三尺引込、高サ五尺之致竹垣、三尺宛之入口五ヶ所附、惣屋根板葺め瓦平家作り致作事、去る亥年<sup>○明和四年</sup>



より當酉年<sup>○安永六年</sup>迄中年拾年季致貸家度段相願差免置<sup>ハ</sup>處、年季明<sup>ハ</sup>ニ付、亦々當酉年<sup>○安永六年</sup>より來る未<sup>○天明七年</sup>年迄中年拾年季貸家賃續度旨願出<sup>ハ</sup>ニ付、隣寺近寺并ニ門前町人共へ相尋<sup>ハ</sup>處、障儀無<sup>ニ</sup>之付、願之通申付、尤亦貸等不致町屋ケ間敷作事<sup>ハ</sup>不及申、紛敷もの差置申間敷、年季明<sup>ハ</sup>ハ勿論、年季之内たりとも地所相返し<sup>ハ</sup>可相届旨、淨念寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕<sup>ハ</sup>由、土岐美濃守<sup>○定</sup>より印形之斷手紙を以て申越<sup>ハ</sup>。依之安永六丁酉年十二月十四日申上、御帳面張紙仕<sup>ハ</sup>。

——拜領地古跡寺社帳

妙福寺

妙福寺 貸地繼續。

古跡拜領地  
境内六百八拾五坪。

日蓮宗 淺草新寺町  
妙福寺

右相願<sup>ハ</sup>處、境内表門より北之方間口七間之空地、下水際へ致竹垣、入口三ヶ所明、竹垣より三尺引込、梁間貳間桁行七間表裏へ三尺宛之庇附、表門より南之方六間之空地下水際ニ、竹垣いたし、入口三ヶ所明、竹垣より三尺引込、梁間貳間桁行六間、表裏へ三尺宛之庇附、南之方横手八間之空地下水際へ致竹垣、入口四ヶ所明、竹垣より三尺引込、梁間貳間桁行八間表へ三尺之庇裏へ壹間之庇附、右何れも平家屋根瓦葺ニ作事<sup>ハ</sup>し、寶曆七五年より中年拾年季貸地いたし度旨、阿部伊豫守寺社勤役中願出、願之通り差免<sup>ハ</sup>處、明和差免<sup>ハ</sup>處、明和亥年<sup>○四</sup>々季明<sup>ハ</sup>ニ付、賃續之儀土井大炊頭寺社勤役中願出、願之通り差免置<sup>ハ</sup>處、明和九辰年類焼いたし、假作事いたし置<sup>ハ</sup>。此度年季明<sup>ハ</sup>ニ付、假作事取拂<sup>ハ</sup>、以前之通り作事いたし、當酉年<sup>○安永六年</sup>より來る未年<sup>○天明七年</sup>迄中年拾年季貸地いたし度旨願出<sup>ハ</sup>ニ付、遂吟味、隣寺所之者へも相尋<sup>ハ</sup>處、障儀無<sup>ニ</sup>之段、證文差出<sup>ハ</sup>ニ付、願之通り差免<sup>ハ</sup>、又貸等不致年季明<sup>ハ</sup>ハ勿論、年季之内たりとも返地

いたし<sup>ハ</sup>ハ、早速可相届旨、妙福寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕<sup>ハ</sup>由、牧野越中守<sup>○貞</sup>より印形之斷手紙を以て申越<sup>ハ</sup>。依之安永六丁酉年五月十四日申上、御帳面張紙仕<sup>ハ</sup>。

——御朱印拜領地寺社帳

報恩寺

報恩寺 門建造。

古跡拜領地  
境内貳千六百六拾坪。

淺草本願寺抱寺  
淺草 一向宗 報恩寺

右相願<sup>ハ</sup>處、表門去る辰年類焼いたし、其後假門いたし置<sup>ハ</sup>處、此度梁間壹丈桁行貳間高サ壹丈七尺貳枚扉明九尺之藥醫門、左之方折廻し九尺ニ貳間半、右之方壹間之板塀明ケ、三尺五寸之潛り戸、九尺ニ貳間半之門番所、折廻し壹間ニ三尺之格子窓附、屋根瓦葺有來之通致作事度段願出<sup>ハ</sup>ニ付、隣寺所之者へも相尋<sup>ハ</sup>處、障儀無<sup>ニ</sup>之付、報恩寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕<sup>ハ</sup>旨、牧野越中守<sup>○貞</sup>より印形之斷手紙を以て申越<sup>ハ</sup>。依之安永六丁酉年八月十七日申上、御帳面張紙仕<sup>ハ</sup>。

——御朱印拜領地寺社帳

市街地ノ異動若干有リ。

○屋敷書拔

市街地異動 安永六年市街地ニ若干ノ異動ヲ見タリ。

南八町堀 町奉行支配ニ屬シタル地有リ。

安永六丁酉年

一、四月六日渡。南八町堀上納地之内壹丁目三丁目五丁目町屋敷ニ有

町奉行

但、松平右近將監南八丁堀貳丁目上納地下屋敷添地ニ相渡<sup>ハ</sup>ニ付、爲代地渡。——屋敷書拔

市街地異動  
事蹟  
南八町堀



四谷内藤宿  
町龍寺前  
天龍谷  
千代橋  
木ケ代  
村々

東京市史稿

四谷番衆町内藤宿天龍寺前千駄谷鮫ヶ橋代々木村角筈村上ヶ地ヲ代官支配地ニ移ス。

安永六丁酉年

一、正月廿七日渡。野村元左衛門上ヶ地  
四谷番衆町九百八拾壹坪

但、御代官久保田十左衛門伺之通被仰渡ハニ付、支配所ニ渡。

一、同日渡。西野喜惣次上ヶ地  
同所七拾坪

但、右同斷。

一、同日渡。宮川幸助上ヶ地  
四谷番衆町七拾坪

但、御代官久保田十左衛門伺之通被仰渡ハニ付、支配所ニ渡。

一、同日渡。美濃部伊織上り地  
四谷内藤宿三百八拾八坪餘

但、右同斷。

一、同日渡。本多作右衛門上ヶ地割殘  
同所三百三拾坪

但、右同斷。(朱) 文政十一子年十一月十六日瀨名源八郎添田一郎次兩人ハ渡。

一、正月廿七日渡。大澤紀伊守上ヶ地割殘  
同所貳百四拾六坪

但、右同斷。(朱) 文政十三寅年三月廿二日百坪今川爲八郎ハ渡。

一、同日渡。成瀬吉右衛門上ヶ地  
同所千貳百四拾九坪餘

但、右同斷。(朱) 安永七戌年十二月八日田沼主殿頭殿下屋敷ニ渡。

一、同日渡。花房五郎右衛門上ヶ地  
同所三百貳拾八坪

但、右同斷。

一、同日渡。小長谷彌左衛門上ヶ地  
四谷内藤宿四百三拾五坪

但、御代官久保田十左衛門伺之通被仰渡ハニ付、支配所ニ渡。

(朱) 文政十一子年十一月四日  
石川左近將監下屋敷ニ渡。

一、同日渡。野田伊十郎上ヶ地  
同所貳百坪

但、右同斷。

一、同日渡。内藤四郎兵衛上ヶ地  
同所三百坪

但、右同斷。

一、同日渡。小川孫七郎上ヶ地  
同所貳百貳拾坪

但、右同斷。

一、同日渡。五十嵐金次郎上ヶ地  
同所百拾壹坪

但、右同斷。

一、同日渡。櫻井五助上り地割殘  
同所百坪

但、右同斷。(朱) 文政十三寅年三月廿二日飯原陣兵衛ハ渡。

一、同日渡。割殘地  
四谷内藤宿四百坪

但、右同斷。



同日渡。本間平七郎拜借上ケ地

一、四谷天龍寺前五十拾壹坪

但、右同斷。

同日渡。牧野織部上ケ地割殘

一、同所七百八拾七坪

但、右同斷。(朱) 文化八年五月十二日三浦長門守代地之渡。

同日渡。土御門拜借地

一、同所三百坪

但、右同斷。

同日渡。鈴木彌三郎上ケ地

一、同所五十拾坪餘

但、右同斷。(朱) 文政十一子年十月十七日中村源右衛門之渡。

同日渡。本多甚左衛門上ケ地

一、同所同寺後四百七拾五坪

但、右同斷。

正月廿七日渡。岡部喜平次上ケ地

一、四谷天龍寺前三拾三坪餘

但、御代官久保田十左衛門伺之通被仰渡<sub>二</sub>以<sub>一</sub>ニ付支配所ニ渡。

同日渡。細野友八郎上リ地

一、四谷千駄ヶ谷九拾壹坪

但、右同斷。

同日渡。石野與左衛門預り地

一、同所貳拾四坪

但、右同斷。(朱) 文政十一子年十一月十六日飯原勝三郎之渡。

同日渡。同斷

一、同所五十拾坪

但、右同斷。(朱) 右同斷。

同日渡。杉田安三郎上ケ地

一、四谷駿ヶ橋百五十拾坪

但、右同斷。

同日渡。岩間權之進上ケ地

一、同所百四拾坪

但、右同斷。(朱) 文政十一子年十月八日百貳拾坪星野又右衛門之渡。

同日渡。服部長次郎上ケ地

一、代々木村貳百五十拾六坪

但、右同斷。

同日渡。井上遠江守上ケ地割殘

一、角筈村五百坪

但、右同斷。(朱) 文政十一年十月十七日川村金左衛門之渡。

同日渡。間宮左衛門上リ地割殘

一、同所百四拾三坪

但、右同斷。(朱) 右同斷赤木信左衛門之渡。

右貳拾九口合八千七百七拾八坪

御代官

久保田十左衛門

——屋敷書拔

牛込薬店

牛込薬店 火除明地ノ内ヲ商賣物干場ニ貸附ス。

安永六丁酉年

殷昌期

九〇七



正月廿二日渡。  
一、牛込藁店酒井修理大夫御預火除明地之内商賣物干場拜借地

牛込町家主  
次郎兵衛  
外七ヶ町  
人共

——屋敷書拔

附記  
金地院東  
照社修理

〔附記〕 金地院東照社修理

十五日 ○安永七年  
正月○中略。

一束一卷。 御宮御修復之御禮。

金 地 院

——柳營日記

十五日 ○安永七年  
正月○中略。 金地院の御宮修理せられしかば、住持僧元坊出仕して謝し奉る。

——湊明院殿御實紀

屋鋪受授

七年戊戌 ○安永○紀元  
二四三八年。 正月十七日戊寅 ○戊寅、三  
正綜覽。 屋鋪預有り。 是月 ○安永七年(紀元  
二四三八年)正月。 及二月

○安永七年(紀元  
二四三八年)。 中尙若干ノ屋鋪受授行ハル。 ○屋鋪預繪圖  
證文。 寛政呈請。

屋鋪受授 安永七年正月二月ニ於ケル屋鋪受授ヲ合記ス。

圖略○

小石川 瀬川彦太郎上ケ地 坪數七拾壹坪餘。  
東南 兼子助右衛門。  
東北 道。 坂本忠八。  
西南 佐野半左衛門。

屋鋪受授事

兼子助右

東南 十八間。 西北 十七間。  
東北 四間餘。 西南 四間餘。

小石川阿部伊勢守上ケ地之内瀬川彦太郎上ケ地、拙者に被成御預ケ、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座御預り申。 爲後日仍如件。

御廣鋪御小人  
兼子助右衛門 印

安永七戌年正月十七日

御普請方改役  
田中喜 作殿

同年(○安永七年)五月廿九日西丸御廣敷御下男惣次郎に渡ス。

圖略○

白銀魚藍下 小林金藏上ケ地 坪數七拾坪。

東 磯平助。  
南 鈴木平右衛門。 西 道。  
東北 四間貳尺餘。  
西北 十五間三尺餘。

白銀魚藍下小林金藏上ケ地、黑鍬組屋鋪大繩之内ニ御座ニ付、御請取、直ニ右組に御差戻被成、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座請取申。 爲後日仍如件。

荒井甚之丞組黑鍬之者組頭  
吉田長五郎 印

安永七戌年正月廿三日

御普請方改役  
小出大 助殿

圖略○

青山權田原 吉田伴五郎上り地 坪數貳百六拾坪。

殷 昌 期

黑鍬組屋鋪



東 下田友之丞。 西 下田長右衛門。  
 南 道。 北 大御番組屋鋪、御先手組屋鋪。  
 東西 各貳十間。  
 南北 同十三間。

先手組屋鋪

青山權田原御先手與力吉田伴五郎上り地、組屋鋪大繩之内ニ付、御改御請取之上、直ニ元組に被成御差戻、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永七戌年二月廿六日

御普請方改役  
 西井安太夫殿

——屋鋪渡預繪圖證文

久明 權九郎。權次郎。

岡野久明

同永。七戌年二月二日糺町貝坂拜領屋鋪願之通相對替、市ヶ谷加賀屋敷に引移申。

村上正邦

正邦 宮田忠三郎。村上主殿。因幡守。大和守。

同年。二月十一日於一ツ橋外、屋敷地千坪并御材木檜木等拜領之。

——寛政呈譜

〔附記、一〕 防火制

防火制

十七日 〇安永七年 二月〇中略。

一、左之御書付、松平周防守被相渡。

御曲輪近邊出火又々大火有之節、火之番且防被仰付置ひ大名之外、在府ニテ手明之面々、人數召連レ罷出ひ有之。向後右手明之面々在宿仕罷在、分限相應有合ひ人數揃置、縦御城近邊より共、何方も差圖無之内、罷出ひ義無用之。

廿五日 〇安永七年 二月〇中略。

一、左之御書付周防守被相達。

出火之節、向寄之場所に被相詰。右之内様子ニ寄り、町奉行に申遣ひ儀可有之旨、其節右人數之内ニ防懸り者計、差配人騎馬一騎差添遣之、其外不用之人を差遣不及。主人其外に詰場ニ罷在、右遣し人数町奉行差圖次第、消防爲致し様之可被心得。右ニ付是迄之人數相増こそ不及。尤町奉行可被談。二月 〇安永七年。

——柳營日記

〔附記、二〕 小石川養生所患者數

附記、二 小石川養生所患者數

明和五六年頃ニ於ケル小石川養生所ノ患者數左ノ如シ。以テ是頃ニ於ケル狀況ヲ推ス可キ歟。

明和七寅年二月廿八日 松平右近將監殿 〇上ル。  
 水野出羽守殿 〇上ル。  
 松平因幡守殿 〇上ル。  
 稻葉越中守殿 〇上ル。  
 白須甲斐守殿 〇上ル。

明和五子年同六丑年迄小石川養生所病人數之儀申上ひ書附

〔曲淵甲斐守

殷 昌 期

九一一



明和五年十二月朔日迄 養生所々來ハ病人數

同六丑年十一月晦日迄

一、貳百五拾六人

内、

全治之者。

百四拾壹人

難治之付相歸ル者。

三拾人

願之付相歸ル者。

六拾八人

病死致ル者。

拾四人

欠落致ル者。

右之通御座ル。以上。

寅○明和七年二月

牧野大隅守

曲淵甲斐守

——明和撰要集

附記、三  
淺草米廩  
修理

〔附記、三〕 淺草米廩修理

四日○安永七年三月○中略

御右筆部屋縁頼

銀十枚。拾ヶ年已後淺草御藏御修復御用相勤ルニ付。

大番頭高木主水正組淺草御藏奉行書役  
岡部半九郎○長保

——柳營日次記

田安第營造

三月七日戊辰

○安永七年(紀元二四三八年)○戊辰、三正綜覽。

是頃田安第

○市内麴町區。

ヲ再營シ、是日

○安永七年(紀元二四三八年)三月七日。小

屋場揚場ヲ受授ス。

前年

○安永六年(紀元二四三七年)元二四三七年。

十二月十一日癸卯

○癸卯、三正綜覽。

火有リタルヲ以テ

也。十二月廿八日甲申

○安永七年(紀元二四三八年)○甲申、三正綜覽。

竣工授賞ス。

○柳營日次記。凌明院殿御實紀。屋鋪渡預繪圖證文。續談海。

田安第營造  
事蹟

田安第營造 安永六年十二月十一日田安邸火有リ。顛末變災篇ニ之ヲ記ス。

圖略。

一ツ橋御門外明地之内 四番明地田安御普請小屋場。

東 堀。道。一ツ橋御門。北 西 道。

同 揚場。

東 道。御堀。南 道。御堀。北 西 道。御堀。

東 西 十五間。南 北 三間。

雉子橋御門際 田安御普請揚場。

東 御堀。南 御堀。北 西 御堀。雉子橋御門。

殷 昌 期



東西 各八間。  
南北 同五間。

此度田安屋形普請之付、一ツ橋御門外明地之内小屋場壹ヶ所、同所御堀端之揚ヶ場壹ヶ所、雉子橋御門際之揚ヶ場壹ヶ所、被成御渡之、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永七戌年三月七日

田安小普請方  
辻村幸十郎印

御普請方改役  
間宮文左衛門殿

圖略

三番町 田安屋形舊臘燒失之付燒瓦等此所引平均之付、地面御預り之請取、田安小普請方に相渡ス。  
明地 但、明地廻り小土手無之場所々に、前後有形之通、小土手築立差置様申談、則致出來。則致出來。

戊○安永七年二月朔日

○東ノ方 矢來際通九尺程除木矢來。

東 御藥草植場。  
南 道、三番町通。 北 道。

右明地内引平均相濟、三月八日○安永七年地面田安より請取、御預り方に如前々引渡ス。

——屋鋪渡預繪圖證文

一、七月廿日○安永七年

御勘定奉行  
石谷淡路守○清  
小普請奉行  
岩本内膳正○利

御目付  
村上三十郎○正

右田安燒失跡屋形向御普請御用掛り被仰付之。

——續談海

廿八日○安永七年二月○中略

芙蓉間

御勘定奉行  
石谷淡路守

時服三。  
金三枚。

小普請奉行  
岩本内膳正

時服三。  
金二枚。

御目付  
村上三十郎

右田安屋形向御普請御用相勤ひ之付、被下之。老中列座、右京大夫○松平申渡之。

御右筆部屋縁頬

狩野榮川

銀拾枚。

小普請方  
内藤九十郎  
御勘定  
小笠原三九郎

右同斷之付被下之。同人申渡之。但九十郎三九郎へ  
右近將監申渡。

躑躅間

小普請方改役  
中山忠助

銀拾五枚。

右同斷之付被下之旨、加納遠江守○久申渡。

燒火間

殷昌期



銀七枚。

小普請吟味役 野口與八郎

同十枚ツ。

御徒目付 丸山七左衛門 岩田吉右衛門

銀七枚ツ。

御徒假役 長澤茂左衛門 狩野榮徳

同。

住吉慶舟 大工棟梁 依田伯耆

右同斷之付被下之旨、酒井石見守○忠申渡之。

——柳營日次記○續談海同。

廿八日○安永七年勘定奉行石谷淡路守清昌、田安邸の營築つかさとりしをもて時服三、小普請奉行岩本内膳正利金三枚時ふく三、目付村上三十郎正清金二枚時服二給ふ。下吏等みな賜もの差あり。畫工狩野榮川典信同じ事にあつかりしをもて銀十枚給ふ。

——浚明院殿御實紀

〔附記、一〕 屋鋪受授

附記、一 屋鋪受授

圖略。

青山百人町 河内山三右衛門上ケ地 坪數千八百八拾三坪。

東北 坂入與八。 西南 須田平次郎。 東南 道。 西北 松平安藝守下屋鋪。

東北 西南 各百間。 東南 十壹間四尺。 西北 十貳間。

青山百人町河内山三右衛門上ケ地、元百人組大繩組屋鋪之内ニ御座ハニ付、御請取、直ニ元組ハ被成御差戻、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

安永七戊戌年三月八日

百人組戸田大學組與力 山下長左衛門印

上野善藏印

御普請方改役 西井安太夫殿

圖略。○同年○安永七年○九月四日鈴木與兵衛木村久次郎兩人屋鋪ニ渡ス。

四谷右京町 富岡左源次上り地 坪數百四拾七坪餘。

東北 福島定次郎、芹澤金次郎。 西南 田久清兵衛。 東南 道。 西北 道。

東北 西南 各貳十三間。 東南 六間三尺。 西北 六間貳尺。

四谷右京町富岡左源次上り地、拙者共ハ被成御預ケ、四方間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座御預り申ハ。爲後日仍如件。

安永七戊戌年三月廿八日

小普請組仙石彌兵衛組 助清印 神谷源 西丸御裏御門番之頭齋藤文藏組 中村又兵衛清印

——屋鋪渡預繪圖證文

〔附記、二〕 名主角屋鋪町人年禮起原

以書付申上ハ

名主并角屋鋪町人共、御年頭ニ罷上りハ寂初之譯。

右之趣御尋御座ハニ付、左ニ申上ハ。私先祖古來ハ千代田村ニ罷在、名主相勤罷在ハ處、天正十八年寅

殷昌期

九一七

附記、二 名主角屋鋪町人年禮起原

神谷源 助清印 中村又兵衛清印

百人組 屋鋪



八月御入國之節、勤來は通二名主役被仰付ひに付、其節は御年頭御年禮ニ罷上り申ひ。尤角屋敷町人御年頭ニ罷上りひ者、私支配ニ無御座ひ。右御尋ニ付申上ひ。以上。

戊○安永七年三月

南傳馬町南輪町南塗師町松川町  
名主新右衛門後見

善次郎

右に安永七戌年三月喜多村彦右衛門殿を尋ニ付、同月○安永七年三月廿六日差出ス。

— 撰要永久録

無宿者取締

四月三日癸巳

○安永七年(紀元二四三八年)○癸巳、三正綜覽

府内ノ無宿者ヲ佐渡ニ送りテ鑛山ニ使役ス。八日戊

戌

○安永七年(紀元二四三八年)○戌、三正綜覽

及閏七月十五日癸酉

○安永七年(紀元二四三八年)○癸酉、三正綜覽

並ニ無宿者取締令有り。

○明和撰要集。柳營  
日次記。撰要永久録。

無宿者取締  
事蹟

無宿者取締 明和撰要集ヲ抄録ス。

安永七戌年四月三日松平右京大夫殿○輝高御直御渡。

町奉行に。

近來無宿共多、自然と惡事致しに付、無罪之無宿共先四五拾人佐州へ差遣は間、水替人足ニ遣は様可致し。尤無宿共之事は間、欠落死失等有之は得共、届ニ不及し。於佐州に地役人共ニ爲取計、提嚴鋪申付、居小屋外に罷出は者に勿論、水替致不精は歎、或虛病等申立は者に、縦惡事無之はとも、拷問同前ニ致し、其上ニ有不相用をのて、死罪ニも行は様可致し。其段奉行承届は迄よて、伺等にも不及し。其内ニ心底も直りは者も出來は、懸りの者共相糺は上、奉行交代之時分、其外御用序、當地へ相歸は

様にも可致旨、佐渡奉行に申渡し。且又無宿とも佐州へ遣方之儀を、最寄御代官よて爲取計は様、御勘定奉行に申渡は間、無宿共御代官手代に引渡は様可被致し。尤御勘定奉行佐渡奉行可被談は。

四月○安永七年

安永七戌年四月八日松平右京大夫殿○輝高御渡。

町奉行に。

近來御當地并近國共、無宿者數多致徘徊は故、火附盜賊も多、騒敷儀にも有之、世上一統之難儀ニ相成し。畢竟右に一二夜宛も無宿共を留置、宿等致しは有之は故、右躰無宿多致徘徊、不届之至し。依之町方に勿論、近在共、町役人村役人とも、町方村方嚴敷遂吟味、前々掟も有之は通、一夜より共身元不慥成をの留置不申様申付、在町とも無宿共見懸は、召捕、町方月番之町奉行に召連可出は。關八州在方村役人等差添は不及、村繼に致し、月番之町奉行に送越は様可致し。元來右無宿共儀は、百姓之農業を怠、町人之夫々渡世を不致、身持放埒故、無宿ニ相成、彌給續兼は節を、火附盜賊をも心懸は者とも故、懲しめの爲、此度無宿共嚴敷召捕、佐州に差遣は間、在町共無宿召捕訴出はるも、後日讐等致しは儀を決して不相成は間、見懸次第召捕可訴出は。若見通シ致し置は、急度咎可申付は。右之通可被相觸、尤組之者にも申付、召捕は様可被致し。  
○本町觸御替日次記  
撰要永久録ニモ見ユ。

四月○安永七年

安永七戌年閏七月十五日相觸申ひ。

無宿者町方召捕不出は儀に付猶又町觸

殷昌期



近來御當地并近國とも、無宿者數多致徘徊ハ故、火附盜賊も多、騒敷義共有之、世上一統之難義之相成ハ。畢竟右之一二夜宛も無宿共を留置、宿等致しハ者有之ハ故、右躰無宿多致徘徊、不届之至、依之町方之勿論、近在共町役人村役人共、町方村方嚴敷逐吟味、前々捉も有之ハ通、一夜参りとも身元不随成留置不申様申付、在町とも無宿ども見懸ハハ召捕、町方之月番之町奉行所ハ召連可出ハ。關八州在方之、村役人等差添ハ不ハ及、村繼之致し、月番之町奉行所ハ送越ハ様可致旨、先達ハ相觸、追々召捕、佐州ハ差遣ハ。然處在々々右之趣相守、無宿召捕差越ハ得共、御當地町方ハ之ハ、壹人も召捕不申ハ。右無宿ハ之徘徊致しハ得ハ、火附盜賊をも心懸ケ、世上之難義之罷成ハ之故、嚴敷被ハ仰出ハ處、町々之無宿召捕ハ儀、事六ヶ敷相心得、町役人とも等閑之致ハ義と相聞、甚不埒之至ハ候。此上見懸次第召捕早々月番之町奉行所ハ可申出ハ。且無宿共致徘徊ハ内之ハ、先達ハ相觸ハ以來、店借之成、惡事心懸ハ之ハも可有之ハ哉。右之家主共不吟味之筋ハ之、○惡事致しハ之ハ二一夜ハ之ハも宿貸ハ儀相知ハハ、家主五人組名主迄、急度答可ハ申付條、此旨町中可觸知ハ之ハ。○撰要永ハ久録同。

○「右様之もの差出しハ儀、已來無宿召捕ハ義、等閑ハ之ハいハふハ儀、又不吟味之節ハにて」

戊〇安永 閏七月

五日乙未

○安永七年(紀元二四三八)四月〇乙未、三正綜覽。

日光普請小屋場受授有り。屋鋪受授亦若干。

○屋鋪渡預繪圖證文。寛政呈請。

屋鋪其他受授事蹟

圖略。

昌平橋外明地 松平大膳大夫居小屋場。

東 道。 西 道。  
南 道。 北 道。

東 六十八間。  
南 五十二間三尺。 西 四十間三尺。  
北 六十八間三尺。

今度日光御修復御用ニ付昌平橋外明地之内ニ、御普請御手傳居小屋場地所被遊御渡之、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取ハ。爲後日仍如件。

安永七戊戌年四月五日

松平大膳大夫内 田坂源太左衛門 印

御普請方下奉行

伊藤 藤 金十郎殿  
同改役 西井 安太夫殿

圖略。

新し橋向測量所跡 松平安藝守居小屋場。

東 道。 西 道。  
南 道。 北 道。

東 各五十間。  
南 同五十間。

今度日光御修復御用ニ付、新し橋向測量所跡明地之内ニ、御普請御手傳居小屋場地所、被遊御渡之、四方間數坪數、〇中奉請取ハ。爲後日仍如件。

安永七戊戌年四月五日

松平安藝守内 天野 傳兵衛 印

殷 昌 期

九二一

日光修復小屋場



御普請方下奉行  
伊藤金十郎殿  
同改役  
西井安太夫殿

圖略○

柳原土手下 御普請會所小屋場。

東 十貳間。西 九間三尺。  
南 六十間。北 六十間。

今度日光御修復御用之付、柳原土手下御石場之内之、御普請會所小屋場地所被遊御渡之、四方間數坪數、○中略。奉請取之。爲後日仍如件。

安永七戊戌年四月五日

松平安藝守内  
天野傳兵衛清印  
松平大膳大夫内  
田坂源太左衛門清印

御普請方下奉行  
伊藤金十郎殿  
同改役  
西井安太夫殿

圖略○

柳原土手下 日光御修復御用小屋場。

東 土手下。西 伊奈半十郎揚ヶ場。  
南 土手。北 川。  
東 九間。西 十間。  
南 四十八間。北 四十八間。

同 日光御修復御用小屋場。

東 伊奈半十郎揚ヶ場。  
南 土手。北 川。土手下。

東西 各十三間。  
南北 同九十八間。

同 日光御修復御用小屋場。

東 土手下。西 土手下。  
南 土手。北 川。

東西 十三間。  
南北 八十六間。

今度日光御修復御用之付、柳原土手下御石場之内之、御普請御手傳小屋場地所被遊御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通り、相違無御座奉請取之。爲後日仍如件。

安永七戊戌年四月五日

松平大膳大夫内  
田坂源太左衛門清印

御普請方下奉行  
伊藤金十郎殿

同改役  
西井安太夫殿

圖略○

柳原土手下 日光御修復御用小屋場。

東 土手下。西 土手下。  
南 土手。北 川。  
東西 十三間。  
南北 八十貳間。

殷昌期



今度日光御修復御用ニ付、柳原土手下御石場之内ニ在、御普請御手傳小屋場地所被遊御渡之、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通り、相違無御座奉請取。爲後日仍如件。

安永七戊戌年四月五日

松平安藝守内

天野 傳兵衛 御印

御普請方下奉行

伊藤 藤金十郎殿

同改役

西井 安太夫殿

圖略。同年(○安永七年)八月廿六日内記長次郎に渡ス。

高橋嘉右  
雨宮庄左

赤坂 高橋嘉右衛門、雨宮庄左衛門拜借地 坪數七拾七坪餘。

東南 道。山本庄助。  
東北 鈴木與右衛門。西南

東南 五間二尺餘。西北 五間三尺。  
東北 十四間三尺。西南 十四間二尺。

赤坂鈴振稻荷前大横町中嶋藤次郎屋鋪、此度上ケ地ニ相成。右地面之内、前々々拙者共借地家作仕罷在  
以ニ付、當分拜借仕度奉願。願之通被御付以ニ付、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定  
杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

安永七戊戌年四月廿一日

本多孫助組御掃除之者

雨宮 庄左衛門 御印

二丸奥詰六尺

高橋 嘉右衛門 御印

——屋鋪渡預繪圖證文

御普請方改役  
西井 安太夫殿

伊丹興一

興一 龜五郎。  
○伊丹。

同七戌年(○安永)四月表四番丁々市谷本村壹岐町鎮目牧太卜屋敷替。

——寛政呈譜

附記  
貨幣制

〔附記〕 貨幣制

廿二日 ○書入、十九日○安永七年五月○中略。

一、松平右近將監(○武)被相渡以御書付

切金通用相滞以ニ付、小判壹分判共、切疵るけ疵大小無構切離き以迄、輕目金之儀也、小判之四厘迄、輕キ分壹分判右分量を以、無滞可致通用旨、先達る相觸以處、大金切多分世上ニ流布以し、右跡之切金請取以る切離き以得也、請取以る難義之筋之也。依之自今小判之五分迄之切金勿論、五分以下之疵金輕目之四厘内にて是形ろけそそ絲穴明キ以ら、又之疵數ヶ所有之類也、金座に指出、定法之通ニ直させ可申。若五分以下之疵、四厘内之輕目之る、形ろけそそ絲さるを、武家方并町方百性等不請取もの有之、兩替屋より其支配々々可申出。且又此類之通用可成金ヶ歩合取以兩替屋有之、其所之支配早速可訴出。吟味之上急度可申付以。

右之趣、延享二丑寛延三年相觸、上納金之儀は五分迄之切金、四厘迄之輕目、包方致以義ニ有之處、近來後藤庄三郎方にて上納金包方之節、少々之疵金彼是申以ニ付、自ラ兩替屋共其外之るは、少々之疵金之るは不請取、又之歩合帳相對いし、請取以ニ付、武家方并在町共取遣指滞以趣ニ相聞以依之上納金包方之儀、彌前々之通相心得、世上通用可成分也、無差支包方可致旨、猶又庄三郎に申渡以。然上ハ世上通用無指滞筋以條、兩替屋共其旨存、前々相觸以通堅相守、五分迄之切金、四厘



迄之輕目金共、無滯通用可致也。若通用可成分取遺差滯、又之歩合取也趣等有之ニおゐても、吟味之上急度答可申付也。

右之趣、江戸京大坂之勿論、其外御料之御代官、私領之領主地頭々、急度可申付也。

五月〇安永七年

右之趣、可被相觸也。

——柳營日記〇觸留同

東京市史稿市街篇第廿八畢

昭和十二年三月二十五日印刷  
昭和十二年三月三十一日發行

編纂兼  
發行者

東京市役所

東京市深川區白河町四丁目一番地一

印刷者 松井方利

東京市深川區白河町四丁目一番地一

印刷所 東京印刷株式會社





21 P69

Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.











